

第五編 水産業 第一章 總論

計

一、五二五、三八八

ヲ算シ昨年ノ總計一、二一八、三二三圓ニ比スレハ二割五分ノ増加ヲ示セリ

阿緞廳報告

廳下海岸線ノ延長實二百二十五哩餘ニ互リ且ツ沿岸黒潮ニ洗ハレ魚族豐富ニシテ南部臺灣唯一ノ漁業地トシテ嚆目ナル然レトモ漁具漁船ノ不完全漁撈法ノ幼稚ナルハ斯業ノ大ナル發展ヲ遂クル能ハサル主因ニシテ漁獲高ノ如キ殆ト前年ト異ナラス、然レトモ近時内地水産業者ト接觸スルニ伴ヒ漸ク覺醒ノ機運ニ向ヒ海ニハ發動機附漁船アリ陸ニハ海陸産業株式會社ノ養殖業等行ハレ漸次改良發展ヲ促シツツアリ前年トノ水産高ヲ對比セハ次ノ如シ

年 別	水 產 量	價 額
大 正 四 年	三、八七一、三三三斤	一、一八七、四〇六圓
大 正 五 年	三、二八二、四八四斤	一、一〇〇、〇一〇圓

臺東廳報告

東方一帶海ニ面スルト火燒島、紅頭嶼ノ二島ヲ有シ水産業ニ適スレトモ海上常ニ波浪荒ク加フルニ熟練ナル漁夫精巧ナル漁具ナク地方民蕃ノ之ニ從事スルノミニシテ從テ漁獲物少ナク主トシテ自家用ニ供スルニ過キス然レトモ近來ハ漸次免許漁業等ヲ出願スルノ傾向ヲ來セリ

花蓮港廳報告

廳下ノ沿岸ハ概シテ波浪高ク海岸ハ殆ント斷岸ナルヲ以テ沿海魚類ノ豐富ナルニ拘ラス水産業ハ甚ダ振ハス僅カニ幼稚ナル地曳網、網繩、流網、釣等ニヨルノミニシテ未ダ廳下ノ需要ヲ充タス能ハス年々基隆地方ヨリ鮮魚ノ移入ヲ爲ス狀態ナリ從テ水産製造物モ皆無ナリ又養殖業モ未ダ起ラス

澎湖廳報告

大正五年中ノ本廳下ニ於ケル水産業ハ例年ニ比較シ稍々活況ヲ呈シ漁獲高三百十六萬五千四百二十八斤此價格十萬六百七圓水産物製造高七十六萬二千三百八十二斤此價格四萬四千三百八十二圓ニ及ヘリト雖モ重要魚族ハ次第ニ瀕瀕トナル

傾向ヲ有スルヲ以テ未ダ本廳下ニ於ケル漁況ノ變觀ヲ許サス

第二章 漁 業

第一節 本島人漁業

臺北及宜蘭廳下ニ於ケル本島人ノ主ナル漁業ハ鯧待網、鯧鯨焚入敷網、地曳網、鱈魚流網、鱈刺網、石滬、赤鯨釣等ニシテ漁船ハ専ラ木造船ヲ用フ

桃園ヨリ臺南ニ至ル西海岸一帶ニ於テハ地曳網、鯧建網、立干網、石滬、搖鐘網、鯧刺網、鯧卷網、鱈ノ空釣漁業行ハレ遠淺ニシテ吃水深キ木造船ノ使用ニ便ナラス故ニ漁船ハ主トシテ竹筏ヲ用フ

打狗ヨリ大板埕(南灣)ニ至ル南海岸ニ於テハ搖鐘網、地曳網、鱈魚流網、鯧旋網及鱈、鯛其他延繩類夜光貝ノ採集等行ハル、漁船ハ主トシテ竹筏ヲ用フ、但シ阿緞廳下東港ニハ數年前ヨリ山口縣ノ移住漁民數戸アリテ本島人漁民其漁法ヲ習得シタルカ爲メ、鱈延繩漁業ニ内地漁船ヲ使用ス、尙打狗附近ニ於テハ内地式漁法ノ有利ナルヲ知リ發動機附漁船又ハ内地式木造船ヲ購入シテ鱈延繩其他ノ漁業ヲ爲スモノヲ續出セリ

澎湖廳下ニ在リテハ石滬、搖鐘網、二艘曳打瀨網、鮪鯧建網、地曳網、磯魚狩網、刺網等行ハルル就中鯛鱈延繩ハ澎湖廳ニ於テ其ノ漁法ヲ傳習シタル結果廣ク行ハルルニ至レリ、近年澎湖水産會ノ



事業トシテ一本釣漁業ノ講習ヲナシ又引續キ各種沿岸漁業ノ改良ヲ講シタルニ依リ本島人ノ漁業ニ關スル智識ハ稍向上セリ

臺東及花蓮港廳下ニ於テハ鋒突及夜光貝採集等行ハレタルカ一兩年前ヨリ鯉待網漁業ヲ經營スルモノ續出セリ

要スルニ本島人漁業トシテハ未ダ格別ノ變化ヲ見スト雖モ、近年督府ノ獎勵指導ト内地漁民トノ接觸トニ依リ少カラス覺醒ヲ與ヘ、大形漁船ノ建造ヲ試ミントスル傾向ヲ觀ルニ至レリ

### 第二節 内地人漁業

一、鯉釣漁業 基隆及蘇灣ヲ根據トシ明治四十三年ヨリ創始ス漁船ハ石油發動機及蒸汽機關附ニシテ本年度ハ十隻内外アリ漁獲高年々三、四十萬貫目ニ及フ本年度ハ四十萬貫ヲ超ヘタリ全部體節ニ製造ス

二、鯧小臺網及小敷網明治四十四年ヨリノ創始ニシテ兩者共臺北廳下ニ行ハルルニ至レリ、主トシテ鯉餌料鯧ノ捕獲ヲ目的トス

三、冬季北部海面ニ於ケル曳繩漁業 從來ハ冬季ニ於テ北部海面ノ出漁殆ント不能ナリシモ近年發動機附漁船ニ依リテ彭佳嶼附近ニ迄出漁シ鮪、鱈、赤羽、鱈等ノ曳繩漁業及鮪ノ一本釣漁

業行ハルルニ至レリ

四、鮪延繩漁業 夏季北部海面ニ於テ延繩ヲ使用シテ鮪鱈ヲ漁獲スル發動機附漁船二十五隻ヲ算シ共ニ好成績ヲ擧ケタリ

五、鮪流網漁業 大正元年ヨリ打狗ヲ根據トシテ此ノ漁業ヲ爲スモノアルニ至レリ、同三年ニハ山口縣ヨリ出漁セルモノ九隻ナリシカ同三年ハ十隻トナリ又東港ニ於テモ二隻ノ新規營業者ヲ見ルニ至レリ、漁期ハ十二月ヨリ翌年三月ニ互ルヲ以テ十月ヨリ十二月迄ハ鮪延繩ヲ使用シ次テ此ノ流網ヲ使用スルコトトセハ一層收利ノ大ナルモノアルヘシ

六、旗魚突捕漁業 大正二年ハ一隻ノ突捕漁船アリシノミナリシカ同三年ハ十一隻ニ増シタリ目下ノ漁場ハ打狗沖合ナルモ、大板埕附近ニハ四月頃此ノ魚ノ浮上スルモノ多キヲ以テ漁場ハ一層擴大セラルヘシ

七、鯛ノ延繩及一本釣漁業 普通ノ内地式漁船ニヨリ北部ニ於テハ基隆及淡水、南部ニ於テハ打狗ヲ根據トシテ之レニ從事ス山口、大分ヨリ來レルモノ其ノ大部ヲ占ム、基隆ニ集合スル時期ニハ其ノ船數百艘ノ上ニ出ツ魚價貴キカ故ニ其ノ收利ハ比較的大ナルモノノ如シ特ニ基隆ヲ根據トスル連子鯛ノ延繩、打狗ノ一本釣漁業ハ近年長足ノ發展ヲ爲シツツアリ

八、鮪卷網漁業 一昨年十二月ヨリ阿緞ノ宮添某殖産局ノ指導ヲ受ケ打狗近海ニ於テ鮪漁業ヲ試



第五編 水産業 第二章 漁業

ミタリ未タ好成績ヲ擧ケサレトモ將來有望ナル漁業タルヲ失ハス

九、捕鯨業 端艇捕鯨法ニ依リ、大正二年及同三年大板塙ニ於テ各一頭ヲ獲タリ、規模ヲ擴張シ

テ那威式ニ改ムル計劃ナリシモ本年度ニ於テモ、時局ノ影響ヲ蒙リ此實行ヲ見合セタリ

一〇、珊瑚採取業 未タ好漁礁ノ發見ヲ爲スヲ得ス然レトモ近海ニ於テ「トローラー」ニ羅網セル

良種ノ珊瑚アリタルヲ以テ遂ニハ成功スヘキ見込ナリ

一一、石花菜ノ採取 琉球人及沿海本島人ノ採取スルモノニシテ臺北、宜蘭ノ兩廳下ニ於テ年額

二十萬斤澎湖島ニ於テ十萬斤内外ニ達ス

一二、「フオルモサバンク」ノ綢延繩 大正二年以來發動機船ヲ以テ之ニ從事スルモノアルニ至レ

リ同「バンク」ハ督府ノ試験船ヲシテ引續キ之カ探險ヲ爲サシメツツアルヲ以テ將來ハ大形發

動機船ノ綢繩漁場トナルヘキヲ疑ハス

一三、汽船「トロール」漁業 大正二年ノ創始ニシテ大正四年ノ從業船ハ四隻アリ臺灣近海ニ好漁

場ヲ發見シタル爲メ四季ヲ通シテ相當ノ漁獲ヲ爲シ内地ノ「トロール」船ニ比シ良好ノ状態ヲ

繼續シ來リタルカ時局ノ影響ヲ受ケ内ニ隻ハ之ヲ賣却スルニ至リ本年末ニ於ケル從來者ハ臺

灣水産株式會社ノミト成レリ

漁業ニ關シ主ナル廳ノ報告ヲ摘録スレハ左ノ如シ

臺北廳報告

(一) 總漁業 廳下總漁業ノ開始以來茲ニ七年漁場ハ管下彭佳島及棉花島ニ至ル四十哩圍内ノ近海ニ止マリシカ近來

尖閣列島及與那國島等ノ遠海漁場ノ開發ト船型ノ増大トハ漁期ヲ延長セシムルニ至リ率テ其漁獲高ヲ増加シタリ而シテ近海

漁場ハ本期ニ於テハ東北海ニ擴張シ龜山島附近ヨリ蘇澳沖ニ迄出流スルニ至レリ、本期漁獲高ハ天候ノ順調ト餌料供給ノ圓

滑トニ依リ豫想外ノ好成績ヲ擧ケ未曾有ノ豐漁ヲ示シ現在從業船十一隻ハ前年ニ比シ一隻ノ増加ニ過キサレモ其漁獲高ハ二

百六十五萬三千八百八十四斤(四十二萬四千六百三十貫)十五萬九千二百圓ニシテ其増獲歩合四割餘ニ及ヘリ元來斯業ハ體

節製造業ト相俟テ始メテ堅實ナル發達ヲ爲シ得ヘキモノニシテ近ク製造工場ノ増設及漁船數激增セントスルノ趨勢ヲ示シ

ツツアリ

(二) 「トロール」漁業 トロール漁船ハ前年秋季以來四隻ニ倍加セリ其ノ漁場ハ東經百二十一度ヨリ百二十五度北緯二十五度

五十分ヨリ二十八度三十分ノ間ニアル海區ニシテ季節及魚類ノ種類ニヨリテ其ノ操業ノ區域ヲ異ニス本年ニ於ケル總漁獲高

ハ四萬〇三十四噸價格二十六萬圓ニ達セリ從來本島ニ於ケル魚類供給ノ不足ハ「トロール」漁業ノ開始以來漁獲高激增ニ依リ

補給圓滑ナリト雖尙魚價ハ常ニ好況ヲ持續シ内地ニ對比スレハ實ニ二倍以上ノ相場ヲ保チ其ノ最高三四倍ニ達シタルコトア

リ然ルニ歐洲戰亂ノ影響ヲ受ケ「トロール」漁船力交戰國ノ操海作業用トシテ買收セラルルニ至リシ結果叙上四隻ノ内ニ隻ハ

之ヲ他ニ賣却セリ

(三) 延繩漁業 内地人漁業中年々驟々トシテ發達セルハ發動機附漁船ノ延繩漁業ニシテ廳下沿海ハ四季、鱈、鮪、鰆、鰺、馬

白鱈、連子鰺、等ノ魚類ノ來游夥シキヲ以テ此等石油發動機附漁船ハ延繩漁業(鱈、鮪、鰆、馬白鰺、鯛延繩、及鰆鰺現繩)ヲ目的

トシ殊ニ前年來新ニ勃興セル馬白鰺延繩業ハ益々好成績ヲ收メ五、六兩月ノ盛況期ニ於テハ發動機船全部ノ從業ヲ見ルノ盛

況ヲ呈セリ現在從業船三十隻ノ漁獲高ハ實ニ二十四萬七千餘圓ノ多キニ達シ前年ニ比シ船數五隻ノ増加ナルニ漁獲高ハ三割五

分増獲ノ好成績ヲ示セリ

(四) 鰺、鱈、焚網漁業 前記各種漁業ノ發達ニ反シ本島人漁業ハ年々衰頹ノ傾向アリ而シテ焚入網漁業ハ本島人ノ主要漁業

第五編 水産業 第二章 漁業



第五編 水産業 第二章 漁業

ニシテ其漁獲ノ豐凶ハ沿岸漁村ノ消長ニ關スルモノニシテ數年來該漁業ハ年々不漁ヲ重ネ殊ニ本年ハ近年稀ナル不漁ニテ前年ニ比シ約四割以上ノ減收ヲ示セシハ秋期、ニ於ケル鰻、鯉ノ盛漁期ニ際シ信風強烈ニシテ出流意ノ如クナラス且魚群ノ來游渺カリシニ其因スルモノナルヘシ

此外本島人ノ赤鯨釣漁業ハ本期ニ於テ數量三十萬斤前年ニ比シ大差ナキ漁獲ヲ擧ケ得タルモ價格ハ約二割ノ低落ヲ見ルニ至リタルハ畢竟一般漁業ノ發達殊ニトロール流業ト或船發動機漁船ノ赤鯨釣漁船ノ激増シタル結果ニ因ルヘシ  
(五)石花菜漁業 石花菜漁業ハ本期ニ於ケル總採取高十四萬八千九百斤前年ニ比シ一割ノ減收ヲ示セシモ市價ノ好況ト歐洲戰亂ノ影響ニ依リテ内地經濟狀態ノ好況ナリシ結果相應ノ收入ヲ擧ケ得タリ

宜蘭廳報告

應下ニ於ケル本業ハ頗ル多望ニシテ北大里簡ヨリ南大南灣ニ至ル沿海一帶ニハ鯪魚、魷魚、鱈魚、苦刺、白腹魚、綠仔魚、沙仔魚、加納魚、鱈、鮫魚、飛魚、白帶魚、鰻甲魚、赤鯨魚、鯽魚等ノ重要魚族豐富ニシテ地曳網、總待網、獅建網、焚入網、飛魚流網、鱈及鯛延繩、鮪、鱈、鰻等ノ曳網盛ニ行ハレ累年發達ノ傾向ヲ示シツツアリ即チ本年中ニ於ケル漁獲高ヲ見ルニ十五萬一千七百四十三圓ヲ算シ鯪魚ノ三萬二千圓ヲ首トシ綠仔魚ノ二萬八千六百四十二圓、鰻甲魚一萬一千八百七十圓、鱈ノ一萬九千五百四十四圓、白腹魚、白帶魚等亦相當ノ漁獲アリ尙地方別ヨリ見ルハ頭圍堡ノ六萬五千六百七十三圓ヲ最多トシ利澤圍堡ノ三萬五千三百六十一圓及民壯圍堡ノ二萬五千三百八十一圓之ニ亞ク而シテ本年中ニ於テ新タニ許可セラレタル流業ハ地曳網、流業六件石花菜流業百八十九件又屆出流業ノ鑑札ヲ下付セルモノ百八十八件ナリ

桃園廳報告

大正五年中ニ免許セラレタル特別流業ハ石花菜流業二件立干網流一件業以鑿流業十九件ニシテ合計二十二件ナリ又屆出流業百九十二件ニ對シテ鑑札ヲ下付セル漁獲高ハ三萬四千五百六圓ニシテ大正四年ノ二萬四千四百十二圓ニ比較セハ多少ノ增加ヲ爲セリ

新竹廳報告

應下ニ於ケル流業ハ石花菜、建網、地曳網、張網、立干網等ニシテ漁船ハ木造船及竹筏ヲ用フ本島人漁業トシテハ未ダ何等見ルヘキモノナシト雖モ近年、トロール船流業及石油發動汽船流業ノ發達ニ伴ヒ漸次其影響ヲ受ケ一方又漁類ノ需要

第五編 水産業 第二章 漁業

漁業者及漁獲高

區 分	大正二年末		大正三年末		大正四年末		大正五年末	
	出 許	免 許	出 許	免 許	出 許	免 許	出 許	免 許
△印ハ出願中ノモノナリ	1,202	35	1,210	35	1,111	33	1,112	31

漁業規則ニ依ル業體別漁業

臺中廳報告

増進ハ之カ供給ニ困難ヲ生スルノ趨勢ナレハ當局ノ獎勵指導ト相俟テ漁民ノ覺醒ヲ促シタルコト少ナカラサルヲ觀ルナリ  
本年前半期ニ於ケル漁期中波瀾強大ノ爲メ出流日數少ク鑿流業ハ前年ニ比シ二割五分方減收シ他種漁業ニアリテハ約一割方減收ヲ示シタリ後半期ニ於ケル鰻流業ハ氣候ノ急變ニ依リ漁期ハ昨年ニ比シ十八日早ク十一月二十三日ニ初漁ヲ見タルモ魚群ハ漁期ヲ通シテ稀薄ナリシ爲著シク不況ヲ呈セリ鰻流業ハ廳下鹿港街下見口庄地先ヲ好漁場トナシタルニ本年ハ王功庄及大安港地先ノ兩避地ニ於テ漁獲ヲ見タリ

南投廳報告

本年ニ於ケル水産漁獲物ハ魷魚、鯽仔魚、鰻、蝦其他雜魚ニシテ其數量三萬四千五百三十六斤價格三千七百九圓ナリ之ヲ前年ニ比スルニ數量四千九百八十斤價格七百五十七圓ヲ增加セリ

嘉義廳報告

地勢上漁業ハ網漁業ヲ主トス即チ流、刺、囊、網類及立干網等ニシテ外ニ極メテ粗雜ナル空釣漁業アルノミ凡テ竹筏ニ依ル近海漁業ニシテ幼稚タルヲ免レス大正元年漁業規則ノ發布以來漁業權ノ確定其他各漁業ノ整理ヲ見漸次新業ノ覺醒ヲ來シツツアリ



第五編 水産業 第二章 漁業

年別	漁業兼業計			漁獲高	價額
	漁業	兼業	計		
大正元年	69人	3,441人	4,130人	5,026斤	3,680円
大正二年	114人	2,508人	3,622人	5,341斤	1,703円
大正三年	113人	3,872人	3,985人	5,115斤	1,704円
大正四年	109人	3,802人	3,911人	5,910斤	1,704円
大正五年	108人	3,802人	3,910人	5,910斤	1,704円

臺南廳報告

南部臺灣ノ漁業ノ有望ナルヲ喧傳セラレタル以來打狗港ヲ根據トスル内地漁業者ノ來航年ト共ニ多ク本年度現在内地人漁業者ハ打狗在住二百五十八名安平在住二名ニシテ石油發動機附漁船十二隻日本形漁船百二十隻ヲ算シ何レモ沖合漁業ヲ營メリ五、六、七、八ノ四箇月間漁業ノ閑散期ヲ除キテ一月ヨリ四月、九月ヨリ十二月ニ至ル期間ハ前年ヨリ一層漁業股盛トナリ漁獲物豐富ト成ル昨年ト同シク漁民ノ本籍別ハ鹿兒島、山口、大分、宮崎ノ諸縣ニシテ漁具ハ發動機附漁船ニ依ルモノハ曳繩、延繩、日本形漁船ニ依ルモノハ一本釣、延繩、筍等ヲ用ヒ漁獲魚類ハ鯛、旗魚、鮪、鯖等ヲ主ナルモノト爲ス又本島人ノ漁業ハ一般ニ在來ノ沿岸漁業ニシテ沖合漁業ニ至リテハ未ダ不振ノ域ヲ脱セス殊ニ安平以北ノ漁村ハ地勢港灣地先等ノ關係上一層其感ヲ深フスレトモ同地以南ノ漁村ニ至リテハ内地式ノ漁具、流法ニ依ルモノ漸加スルノ狀態ニ在リ本年ハ鰯下沿海鱈、鱈、鰹、鮪等ノ回游多ク就中鮪ノ群來ハ三十年以來ナリト稱セラレ一般漁業亦頗ル活氣ヲ呈セリ漁獲物ノ一萬圓以上ニ達セルモノハ烏魚、塗托魚、沙仔魚、釘挽魚、鮪仔、加納魚、鰹仔、飛鳥魚、蝦、鰻甲魚、烟仔魚、兩刀魚、狗母蝦ノ十三種ナリトス

以下大正元年以來本年ニ至ル五箇年間ノ漁船、漁具及水産漁獲物ヲ列表セシ

漁船及漁具

第五編 水産業 第二章 漁業

年次	數量	價格	年次	數量	價格
大正元年	4,101,588斤	2,993,355	大正四年	5,477,136斤	4,337,377
大正二年	4,768,039斤	3,411,296	大正五年	7,111,201斤	5,181,111
大正三年	5,033,912斤	3,757,078			

阿緱廳報告

漁業者ハ專業兼業ヲ合シ本島人三千三百六十六人内地人十人合計三千三百七十六人漁船ハ發動機附漁船二、木造船四〇、竹筏七百七十三合計八百五十二隻網數六百六十六隻漁業者、漁船、漁具共ニ港東中里東港附近其ノ大部分ヲ占メ德和里龍泉水方面之ニ亞ク大正五年中ニ於ケル漁獲ヲ前年ト對照セハ左ノ如シ

即チ本年ハ前年ニ比シ木造船ノ増加殊ニ著シク竹筏漁網共ニ増加セリ漁獲物ニ於テモ亦百六十五萬一千九百餘斤其價額十八萬三千六百圓ヲ増加セリ

價額中養殖用稚魚九、二九六、四七〇尾價額二四、三九四圓ヲ含ム  
價額中魚苗六、六六六、〇〇〇尾價額一八、四七二圓ヲ含ム



第五編 水産業 第二章 漁業

臺東廳報告

漁業ノ主ナル地ハ火燒島ニシテ廣郷南郷之二次キ許可漁業者ハ火燒島四十四廣郷七、届出漁業者ハ火燒島三百五十  
七、廣郷六十三、南郷十三ニシテ其漁獲物ノ主ナルモノハ鯧仔、卓醋、加蚶魚、白腹魚、烏魚、沙仔魚、魷甲、魷仔、塗托、  
白帶魚、飛魚、釘挽、鰻等其水産動物ニシテ新郷ノ蟹、蚌、火燒島及廣郷、紅頭嶼ノ九孔トス海産類トシテハ僅ニ火燒島ノ  
海苔アルノミ

花蓮港廳報告

廳下ニ於テ近年惣田饒待湖漁業勃興セルノ外未タ見ルヘキ漁業ナシ、漁業者、漁具及漁獲高左ノ如シ

年 別	漁業者數	漁 具		漁 獲 高		摘 要
		種 類	數	數 量	價 格	
大 正 三 年	二二二	網	五八	107,400斤	1,217.74	漁獲物ノ主ナルモノハ鯧、鯉、旗魚等ナリ
大 正 四 年	二二二	同	七二	117,700斤	1,217.74	同
大 正 五 年	一五九	同	八〇	104,200斤	1,217.74	同

澎湖廳報告

廳下大正五年中ノ漁獲狀況ハ平年ノ約二割五分ノ増前年ノ不漁ニ比較シ約六割二分餘ノ増收ニシテ左表ニ示スカ如  
シ然レトモ同年ハ例年盛流アル際、鯉漁業等ハ何レモ不振ヲ來シ石花菜、鯧、鯉、雜漁業ハ顯著ナル成績ヲ收ムルヲ得タリ  
殊ニ石花菜漁業ニ於テハ領臺以來ノ大收穫ナリキ尤本廳下ノ石油發動機船千餘隻及臺灣本島打狗方面ヨリ出動セル大甲丸暨  
丸ノ如キハ本島列島近海ニ於テ鯧、鯉繩漁業ニ從事シタリシモ何レモ殆ント漁獲ナカリキ此不漁ノ原因ハ當年ハ當廳下ニ於  
テ雨季中早天打續キ降雨ナカリシ結果魚族ノ近海ニ來遊セサリシ故ナラントハ一般ニ唱フル處ナレトモ是カ真相ニ關シテハ  
講究スヘキ問題トス以上ノ如ク本年當廳下ニ於ケル發動機船漁業ハ其成績不良ナリシト雖當業者ニ於テハ尙之ニ屈スル色ナ  
ク本年ニ於テモ盛ニ該漁業ニ從事セントスル好現象ヲ呈シツツアリ

第三章 製造品

第一節 本島人ノ製品

- 一、熟魚 鯧、鯉等ノ小魚ハ勿論「ソーダ」鯉ノ如キモ切身トシテ之ニ製ス
- 二、煮乾 鯧、鯉ノ多漁ノ時ハ主トシテ之ニ製造ス
- 三、「ソーダ」鯉ノ鯉節 内地式ニ模倣シテ荒節ノ程度ニ迄之ヲ製造ス臺北、澎湖及宜蘭廳下ノ産出額少カラス
- 四、鹽魚 何魚ニ限ラス多漁ノ時ハ之ニ製造ス然レ共氣候ノ關係上及用鹽ノ結晶大ナルトニ依リ鹽分ノ肉味ニ滲透スル前既ニ腐敗ヲ醸スノ傾アリテ良品ヲ得ル能ハス
- 五、魚翅 各種ノ鱈鱗ニテ之ヲ製造ス堆超ト爲スモノ稍多ク品位ノ佳良ナルモノヲ出スニ至レリ
- 六、臘仔 從來ヨリ此製品アルモ内地式製品ニ及ハサルコト遠シ然レトモ近時内地人ヲ教師トシテ

年 別	數量	價格	數	量	價	格	年 別		數	量	價	額
							大 正 三 年	大 正 四 年				
大 正 三 年	11,747,666斤	1,217.74	14,311,111	17,288,888	1,217.74	17,288,888	大 正 三 年	11,747,666	17,288,888	1,217.74	17,288,888	
大 正 四 年	11,747,666斤	1,217.74	14,311,111	17,288,888	1,217.74	17,288,888	大 正 四 年	11,747,666	17,288,888	1,217.74	17,288,888	
大 正 五 年	11,747,666斤	1,217.74	14,311,111	17,288,888	1,217.74	17,288,888	大 正 五 年	11,747,666	17,288,888	1,217.74	17,288,888	



内地式製法ヲ傳習シタル結果稍良品ヲ出スニ至レリ

七、鹽干魚 氣候ノ關係上良品ヲ得難シ陽熱強キニ過クル爲外部早ク乾燥シテ内部ノ水分ヲ蒸發シ難キカ爲ナリ之カ産額亦多カラス要スルニ本島水産ニハ製造品トシテ見ルヘキモノ少シ

### 第二節 内地人製品

一、鯉節 眞鯉ノ漁期盛夏ノ候ナルヲ以テ生賣スルヲ得サルカ故ニ殆ト其全部ヲ節ニ製造ス、目下此製造ヲ業トスルモノハ、臺灣水産株式會社、及臺灣海陸産業株式會社、吉井商店其他ニシテ兩者共基隆附近ニ其ノ製造工場ヲ置ケリ短キ期間ニ於テ職工ノ殆ト全部ヲ内地ヨリ招來セサルヘカラサルニ依リ職工賃多額ニ上リ收支相償ヒ難キ狀況ニ在リタルモ漸次本島人職工ヲ養成シ之ニ代フルノ方針ニテ進ミ來リタルヲ以テ近年ハ其生産費ヲ減スルト共ニ品質ノ改善ニ依リテ經濟狀態次第ニ堅實ト成リツツアリ

二、魚類ノ罐詰 本島ハ氣候ノ關係上各種製品ヲ製造スルコト困難ナリ罐詰ノ如キハ理想的ノ製法ナルモ相當ノ年所ヲ經ル迄ハ製品ノ賣行キ掛々シカラサルト固定スヘキ資金少カラサルトニ依リ成功シ難シ、然レ共漸ヲ以テ進マハ必スシモ見込ナキニ非ス

三、臘仔 從來本島式ノモノハ鹽味淡ク又色澤惡ク内地品ニ比シ著シク劣レリ、近來鹿港ニ於テハ

内地人ヲ教師トシテ其製法ヲ傳習シ臺南、打狗等ニ於テモ亦内地人ノカ製造ヲ試ミ内地ニ移出スルモノ年々其ノ額ヲ増シツツアリ

特ニ臺灣漁業株式會社ニテハ本年度ヨリ教師ヲ招聘シテ之カ製造ニ從事シタルヲ以テ長崎ノ製品ニ比シ遜色無キ良品ヲ出スニ至レリ

製造品ニ關シ主ナル應ノ報告ヲ摘録スレハ左ノ如シ

臺北應報告 總節製造業 本業ハ數年來之カ獎勵ニ勉メ銳意指導監督ノ任ニ當リ男女職工ノ養成ト製品ノ改善ヲ計リシカ從來ノ製造業者タル臺灣水産及臺灣海陸産業ノ兩會社ノ外本年ハ他二、二ノ製造業者ヲ増加スルニ至レリ殊ニ本期ハ豐漁ニテ原料ヲ激増セシモ前記ニ於ケル經驗ト製造設備ノ改善ト養成職工ノ増加ハ多大ノ原料ヲ遺憾ナク處理製造セシメ且ツ製造方法ノ細心ナル注意ト努力トハ能ク内地製品ニ比シ遜色ナキ精良品ヲ出シ臺灣節トシテノ眞價ヲ認メラルルニ至レリ其製造高ハ七萬五千貫ノ多キニ達シ而モ内地鹽漁業不漁ノ結果市價好況ヲ呈シ頗ル順調ノ觀アリ其他本島人製造經營ニカカル乾鹽魚年額十五萬圓ヲ算スルモ製品ハ未ダ精良ノ域ニ達セス又主ニ本島南部及宜蘭方面ヲ販路トス需用増進ノ爲價格ハ異常ノ高價ヲ以テ迎ヘラルル就中煮干ハ總節ニ次ク重要品ニシテ年額七萬圓乾魚之ニ次キテ二萬圓其他鹽魚、魚翅、海苔等僅少ニ過キサルモ一般ニ相應ノ收益ヲ擧ケツツアリ

宜蘭應報告 一般漁業發展ニ伴ヒ製造業ノ増進ヲ見ルハ蓋シ自然ノ傾向ナラン即チ本年中ノ製造高ハ一萬九千九百二十七圓ニシテ之ヲ前年ニ比スレハ實ニ一萬一千二百九十九圓ヲ激増シ之ヲ製品別ニ示セハ乾魚ノ一萬六百十八圓ヲ最多トシ煮干ノ三千三百圓之ニ亞キ其ノ他ニアリテモ漸次増加ヲ示シツツアリ

臺中應報告 蠔蚶及臘仔製造ハ漁業不況ノ結果原料不足ヲ來シタルモ臘仔ハ南部ノ漁獲物ヲ原料ニ供シ臺中街ニ於テ製造シタル者アリ技術未熟ニシテ鹿港品ニ劣ル事大ナリ本年ニ於テハ鹿港製品ノ七百腹ニ達シタル外見ルヘキ製品ハ少シ



第五編 水産業 第三章 製造品

嘉義廳報告 水産業 漁獲高比較的少量ナルヲ以テ製造高從ツテ不振ノ域ヲ脱セス鱈仔、魚翅、鹽魚、乾蝦、乾魚ノ數種ニ過ギスシテ製法亦粗雜ナリ獨リ鹽業ハ專賣局ノ獎勵事業ナルヲ以テ臺南廳下ニ接スル東石港支廳管内ニ四百四十甲ヲ有シ盛ニ製鹽シツアリ本年ハ天候極メテ斯業ニ好適セシヲ以テ未曾有ノ增收ニシテ殆ト前年ニ倍加スル狀況ナリキ

年次	魚翅		鹽魚		乾魚		乾蝦		價額合計
	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額	
大正元年	1,100斤	1,100円	1,100斤	1,100円	1,100斤	1,100円	1,100斤	1,100円	4,400円
大正二年	1,100斤	1,100円	1,100斤	1,100円	1,100斤	1,100円	1,100斤	1,100円	4,400円
大正三年	1,100斤	1,100円	1,100斤	1,100円	1,100斤	1,100円	1,100斤	1,100円	4,400円
大正四年	1,100斤	1,100円	1,100斤	1,100円	1,100斤	1,100円	1,100斤	1,100円	4,400円
大正五年	1,100斤	1,100円	1,100斤	1,100円	1,100斤	1,100円	1,100斤	1,100円	4,400円

生魚ノ取扱

管内生魚 乾鹽魚類ノ消費高八年々其ノ數ヲ増加シ畜肉ノ消費ニ多少ノ影響ヲ與フル狀勢ヲ呈セリ管内魚市場ハ嘉義、鹽水、港、樸仔脚、北港、店仔口ノ五箇所ニシテ此ノ總取扱高二百九十七萬八千二百三十斤價額三十四萬二千六百六十二圓ニ達ス内嘉義魚市場ハ臺灣漁業株式會社ノ經營ニ係ル魚類取扱高及價額ヲ前年ト對照スレハ左ノ如シ

年次	別	斤	價	備
大正二年	大正	607,790	72,934	本年二月創設
大正三年	大正	955,320	116,390	
大正四年	大正	1,189,251	148,460	
大正五年	大正	1,257,435	161,652	

臺南廳報告

水産物ノ製造ハ之ヲ專業トスル者ナシト雖モ各地ニ兼業者散在シ製品ハ鱈仔一萬四千九百圓ヲ始トシ、鱈、鹽魚、乾魚等之ニ次ク鱈仔ハ臺灣漁業株式會社及内地人ノ二三製造ニ從事シ何レモ優良ナル製品ヲ出シ東京大阪其他内地ノ諸都市ニ移出シ益々臺灣鱈仔ノ名聲ヲ高カラシム本島人ノ製品モ亦一段ノ進歩ヲ示シ數量價額共ニ増加セリ鱈、鹽魚、乾魚ハ昨年ニ比スレハ其產額減少シタシモ製品ノ品質良好ナルモノ多シ

阿緞廳報告

製造物ハ鱈仔、魚翅、鹽魚、乾魚ニシテ其產額甚タ少額ナリ製造地ハ港東中里東港街大部分ヲ占メ琉球嶼之ニ次キ其他德和里、興文里、至厚里等ニ少額ヲ産スルニ過キス本年ハ烏魚不漁ノ爲メ鱈仔ノ製造減少シ鹽魚ノ減少ハ鮮魚ノ需要増大セルニ因ル本年中ノ製造額ヲ前年ト比較セハ左ノ如シ

年次	數量	價額	備
大正五年	11,238斤	2,855	
大正四年	24,167	4,577	

第五編 水産業 第三章 製造品



第五編 水産業 第四章 養殖業

臺東廳報告 水産製造物トシテハ鱈魚、乾魚、魚翅ニシテ其年額鱈魚百九十三圓乾魚二十四圓魚翅三十一圓ニシテ別ニ水産製造場等ナシ

澎湖廳報告 大正五年中當廳下ニ於ケル水産製造高ハ平年ニ比シ約三割餘前年ニ比シ約一割餘ノ増加ヲ示シタル事左表ノ如シ如

此増額ハ漁獲物ノ増加ニ伴フ當然ノ結果ナリト雖モ常年ハ例年盛漁ナリシ德田廳漁業ノ不振ノ爲メ總額ノ製造高殆ント皆無ナリシモ魚翅、鹽鱈、煮干魚、鹽干魚及白曝干等ノ多産ナリシニ因ルモノニシテ近來本廳下ニ於ケル水産物製造高ハ逐年増額ヲ示シツツアリ是レ其製造處理方法ノ進歩發達ニ伴フ現象ニシテ將來ニ於テモ生活嗜好ノ向上ニ連レ益々製造事業ノ隆盛ニ赴カントスル趨勢ヲ示シツツアリ

年次	數量		價格	
	數量	價格	數量	價格
大正三年	六三三、六三〇斤	三五、八四九		
大正四年	六五四、二五七	四三、五九三		
大正五年	七六七、九三二	四八、一一七		
比較	增	一一三、六七六		四、五二四

第四章 養殖業

本島ノ養殖業ハ鹹水及鹹淡水交和ノ所ニ在リテハ牡蠣、蟹、蝦、鰻、虱目魚、淡水ニ在リテハ鯉魚、草魚、鯉魚、魷魚(鯉)等ノ養殖行ハル就中西南部ノ虱目魚及牡蠣ノ養殖ヲ以テ宰トス養殖ノ收穫高海面漁獲高ト殆ト伯仲ノ間ニ在ルカ如キハ内地沿海府縣ノ何レニ於テモ見サル所ニシテ實ニ本島ノ

特色ナリトス、本島ノ養殖業ハ何レモ本島人ノ經營ニ係ル、唯近年臺灣海陸産業株式會社カ東港ニ於テ之ヲ經營スルニ至レルアルノミ然レトモ其養魚方法ハ尙本島式ヲ脱スル能ハス

主ナル廳ノ報告ヲ摘録スレハ左ノ如シ

臺北廳報告 養殖業ハ從來本島人ノ經營ニ係リ草魚、鯉魚等ヲ養殖スルモ飼養管理極メテ幼稚ニシテ其產額九千九百七十六圓ニ

過キス例年ニ比シ著シキ變動ナシ

宜蘭廳報告 廳下ノ本業ハ沿海漁業ノ比較的發達セルト魚苗ノ高價ナルトニ依リ未ダ著シキ發展ヲ見ス現今ハ頭圍及員山堡ニ於

テ鯉、草魚、烏魚、鯉魚等ノ淡水養魚ヲ爲ス者アリ其ノ使用地面積僅カニ八甲餘ニ過キス本年ノ產額ハ二百四十五圓ニシテ之ヲ前年ニ比スレハ百十二圓ノ増加ナリ

桃園廳報告 坤地八千五百三十七筆其面積七千八百六十二甲ヲ有益ニ利用セシムル目的ヲ以テ廳農會ニ於テ灌溉用埤池改修ニ件

ヒ養魚ノ設備ヲ爲サシムルト同時ニ池ノ狀況ト地質ニ鑑ミ放養スヘキ各魚ノ配合放養率等ヲ鰻魚ニ指示シ大正二年度本事業著手以來殖産局附屬管理水産試業所ヨリ養成魚苗ノ無償配布ヲ受ケ更ニ是ヲ會員ニ配布シ埤池養魚獎勵ヲ行ヒタル結果現在養魚池三千三百八十三面積三千三百三十五甲餘ニ及ヒ本年捕魚セル養魚池一千四百七十七面積一千二百六十五甲ヨリ漁獲高三萬七百八十三圓ニ達セリ

本養殖業ハ獎勵日尙淺ク未ダ充分ナル發達ヲ見ル能ハサルモ將來農家ノ有利ナル副業トシテ經營サルルニ至ルヘシ

新竹廳報告

養殖業ハ鹹水及鹹淡水交和ノ所ニ在リテハ牡蠣、虱目魚、魚ノ養殖行ハル蓋シ本期ニ於ケル淡水魚養殖ハ降雨ノ寡少ノ爲メ稚魚ノ發育不真ナリシヲ以テ其ノ漁獲高前年ニ比シ減少セリ而シテ鹹水養殖魚介中養殖業ハ其ノ主ナルモノニシテ累年擴張發展ノ傾向ナルモ本年ニ於ケル力漁獲高ハ氣候不順ノ結果前年ニ比シ稍減少セリ

第五編 水産業 第四章 養殖業



第五編 水産業 第四章 養殖業

臺中廳報告

牡蠣ノ養殖ハ初期ニ於テハ稚蠣ノ養竹ニ附著ノ狀況良好ナリシカ漸ク成長スルニ及ヒテ激浪ノ爲メ打落サレタル所ハ甚ダシキ被害ヲ受ケタルモ其後ノ發育良好ニシテ前年ニ比シ約一割方増收セリ養魚池ハ對岸ヨリ輸入セル魚苗三百六十萬五千尾ニシテ昨年ニ比シ約百三十八萬五千尾ヲ増加セリ是レ鯉魚百七十萬尾ヲ増加セルニヨルモノニシテ鯉魚、草魚ハ一般ニ魚價高價ナル爲メ寧ロ輸入ヲ減セリ本島產烏仔魚二百二十五萬五千尾ヲ採集シ需用ヲ滿シタル爲メ本期收穫ハ前年ニ比シ約三割方増收セリ

南投廳報告

本年ニ於ケル養殖場數九十四箇所其面積合計十三甲九分三厘七毛前年ニ比シ二十九箇所面積六甲四分八厘七毛ヲ増加セリ而シテ其養殖シタル魚ハ鯉魚、草魚、鯉魚、鯪魚、鯪仔魚等ニシテ其漁獲數一萬七千七百七斤價格三千二百圓トス之ヲ前年ニ比スレハ數量ニ於テ千三百五十八斤ヲ減シタルモ價格ニ於テ三百九十七圓ノ増加ヲ來セリ是レ漸次需用ノ増加ニ伴フ價格ノ上昇ニ因ル而シテ本期農會ニ於テハ殖産局ヨリ鯉魚七萬尾ノ無償配付ヲ受ケ日月潭ニ放養シ其成績未タ分明ナラサルモ之カ爲メ地方養殖業ヲ覺醒シ各方面ニ互リ其供給ヲ受ケントスルモノ續出シ漸次發展ノ機運ニ向ヘリ

嘉義廳報告

淡水養魚ハ各支廳ニ跨リ其池數千七百七十五箇所面積三千五百五十六甲ニシテ年々多少ノ増加ヲ示シツツアリ、養殖魚種ハ鯉魚、草魚、鯉魚、虱目魚ノ順位ニシテ此ノ他鯪、鯪等數種アリ、鹹水養魚ハ池數千六百六十箇所面積二千九百九十五甲前年ニ比シ池數二百一十一、甲數六百一十甲ヲ増加セリ養殖魚種ハ虱目魚、鯪及鯪等トス、養殖業ハ兩三年風水害ノ被害ナキ爲メ稍々產額ヲ増加セリ、左ニ累年ノ成績ヲ掲クヘシ

養殖業者及漁獲高

年 別	流 業		計 業		場 數	面 積	收 穫	價 額
	專 業	兼 業	計	業				
大 正 元 年	1910	11,200	11,200	11,200	11,200	11,200	11,200	11,200
大 正 二 年	1911	11,300	11,300	11,300	11,300	11,300	11,300	11,300

大 正 三 年	1912	11,400	11,400	11,400	11,400	11,400	11,400	11,400
大 正 四 年	1913	11,500	11,500	11,500	11,500	11,500	11,500	11,500
大 正 五 年	1914	11,600	11,600	11,600	11,600	11,600	11,600	11,600

臺南廳報告

廳下本年末現在水產養殖場ノ所在ハ一市三十四堡里一百街庄ニ跨リ場數二千二百九十九面積一萬六千九百五甲餘ニ達ス而シテ本年ハ鹹水池養殖ニ於テハ好況ナリシモ淡水池養殖ニ於テハ不況ヲ示セリ是レ前者ハ暴風雨其他天然ノ障害ナカリシコトト虱目魚稚魚供給ノ比較的潤澤ナリシコトニ基キ後者ハ夏期雨量少ク養魚用水ノ缺乏ヲ告ケタルニ因ルモノナリ最近五箇年間ノ統計ヲ示セハ左ノ如シ

年 次	池ノ種別	養殖場面積	數	量	價 額
大 正 元 年	鹹水池	11,100	11,100	11,100	11,100
大 正 二 年	同	11,200	11,200	11,200	11,200
大 正 三 年	同	11,300	11,300	11,300	11,300
大 正 四 年	同	11,400	11,400	11,400	11,400
大 正 五 年	同	11,500	11,500	11,500	11,500

第五編 水産業 第四章 養殖業

鹹水養殖ニ於テハ本年ハ昨年ヨリ面積十九甲產額五十二萬一千五百八十七斤同價格七萬四千四百二十三斤ヲ増加ス即チ一甲當產額千六十四斤ニシテ之ヲ昨年一甲當產額九百四十九斤ニ比スレハ一割一步ノ増收ナリ是レ廳下水產養殖ノ幸タル虱目魚養殖ノ好結果ナリシニ外ナラサルナリ



第五編 水産業 第五章 製鹽業

又淡水養殖ニ於テハ面積千七百十五甲ヲ増加シタレトモ產額ニ於テハ八十六萬三千四百八十六斤價額四萬四千四百七十一圓ヲ減少ス之チ一甲平均產額ニ付テ見レハ百三十八甲ニシテ前年ノ二百四十一斤ニ比スレハ四割二分以上ノ減少ナリ

阿緞廳報告 養殖ハ鹹水池二十三面積七百六十三甲餘淡水池三十八面積二十甲ニ端ダス就中烏樹魚最大ニシテ臺灣海陸產業株式會社カ比較的完全ナル設備ニ依リ經營シ居ル外他ハ言フニ足ラス將來ニ於テモ烏樹外温ノ利用方法講究以外大ナル發展ヲ期スル能ハサルヘシ、種類ハ虱目魚、鱈魚、草魚、鯉魚等ニシテ前年ニ比シ少シク増加ナリ示シ生魚需用ノ増加ニ伴ヒ魚價又前年ニ比シ多少ノ騰貴ヲ見タリ本年中ノ漁獲ヲ前年ト比較セハ左ノ如シ

年次	數量	價額	備考
大正五年	九九五九〇	八六九七五	
大正四年	四二五八二	五〇〇〇〇	

澎湖廳報告 本廳下ニ於テハ未ダ營利的ニ水産養殖業ヲ營ムモノナシ

第五章 製鹽業

製鹽業ハ專賣局主管ノ下ニ指導獎勵ヲ爲シ著々發展ヲ遂ケツツアリ製鹽地トシテ知ラレタルハ新竹、臺中、嘉義、臺南ノ四廳下ナリ、製鹽現況ニ付キ各廳報告ヲ摘録スレハ次ノ如シ

新竹廳報告 鹽田ハ主トシテ個人經營ニシテ農ヲ本業ニ製鹽ヲ副業トス而シテ製鹽法ハ天日製鹽ナルカ故ニ天候ノ順不順ハ之カ製造ニ大ナル影響ヲ及ホスモノナリ蓋シ本年ニ於ケル之カ製造ハ近年稀有ノ好成绩ヲ示シ前年ニ比シハ十九萬餘斤ノ增收ナリ今鹽田經營從事員數其ノ他ヲ表示セハ左ノ如シ

一、鹽田經營從事員數	從業者	從屬者
計	一九〇人	二一〇人
一、新舊式ノ鹽田面積	四〇〇人	
新式鹽田	二五・三二〇	坂副數
舊式鹽田	六五・六三〇	二〇副
計	九〇・九四二六	四、九〇五坵

一、製鹽數量價額	價額
下等鹽數量	四百萬五百八十二斤
價額	一萬六千二圓三十二錢八厘

臺中廳報告 本年中製鹽業ハ作業日數二百九日ニシテ昨年ニ比シ一日減シタルニ拘ラス未曾有ノ好成绩ヲ得タルハ製鹽ノ時期好天氣連續シ加フルニ風力強大ナリシ爲メ水分ノ蒸發盛ニシテ一日二三回ノ結晶ヲ見タル等其重ナル原因ニシテ昨年ニ比シ六割強ノ增收ヲ見タリ

臺南廳報告 本年ハ晴天多ク殊ニ七、八月ノ頃例年ノ兩期ニ際シテ天日ヲ仰クコト多カリシヲ以テ製鹽ニハ意外ノ好成绩ヲ呈シ廳下學甲寮、北門嶼、新昌里、鹽埕庄、永寧里、灣裡庄、維新里、烏樹林庄及鳳山下里紅毛港庄ノ鹽田共ニ好成绩ニシテ前年ニ比スレハ面積ニ於テ十一甲產額ニ於テ二千九百五十四萬六千四百五十四斤價格八萬九千三百十四圓ヲ増加セリ

大正元年以來ノ成績左ノ如シ

第五編 水産業 第五章 製鹽業



第五編 水産業 第五章 製鹽業

年次	面積	數量	價格
大正元年	六一五	五四〇六五九九	一〇八八
大正二年	六二六	六七〇〇一五三	二八六四
大正三年	六六三	八二七三二九七	一六五五
大正四年	六六三	七一五三三八七	一八〇七
大正五年	六七四	一一二九七四一	二二四九

效忠里安平街鹽田再製鹽工場ハ八月十六日南部再製鹽工場ト改稱ス品質色澤粒形共ニ宜シク販路ハ全島ニ需用アリ然レトモ  
 本年ハ製造高少ク價額三萬四百十四圓餘ニシテ前年ノ六萬三千二百二十圓ニ比スレハ二萬九千九百六圓ノ減少ナリトス

第六編 工業



## 第六編 工業

### 第一章 總論

歐洲動亂第三年ノ本島工業ハ内地諸工業勃興ノ餘響ヲ承ケ概シテ順調ノ發展ヲ告ケタリ就中其主ナルモノヲ擧クレハ糖業ハ天候順調ノ爲メ豊産ヲ告ケタルニ摺テ加ヘテ糖價昂騰相續キタルヲ以テ各製糖會社ハ莫大ナル利益ヲ收得セリ糖業ニ關聯スル糖蜜加工業ニ於テハ軍需品トシテ巨額ノ需要ヲ見タル酒精ニ二萬八千石三十五萬圓酒類(糖蜜ヲ原料トスルモノ大部分ヲ占ム)ニ三萬五千石二十萬圓ヲ増シ其他糖蜜利用工業トシテカラムル工場ノ新設セラレントスルモノアリ

糖業關係以外ノ工業ニシテ最大ノ發展ヲ示セルハ製帽業ニシテ從來ノ林投帽ハ原料品質ノ低落ト紙帽ノ競争トニ萎靡振ハサルモ紙帽ハ之ニ反シテ非常ナル勢ヲ以テ製帽界ヲ席捲シ價額ニ於テ百萬圓前年ノ約十割ヲ増加セリ帽子ニ亞テ好況ナリシハ鐵工業ニシテ本年ノ成績ヲ見ルニ工場ニ於テ百十九箇所製品ニ於テ六十四萬圓ヲ増加シ亦以テ諸工業發達ノ前驅タル實ヲ示セリ其他諸工業ニ於テ十萬圓以上ノ増進ヲ見タルハ織物、油、油精等ニシテ茶ハ上半期ニ於ケル下落ニヨリ煉瓦陶器類ハ建築界ノ不振ニヨリ共ニ十萬圓以上ノ減少ヲ來セリ其他ノ諸品ハ増減共ニ十萬圓以下トス

本年中新設セラレタル工場中特記スヘキハ打狗ニ於ケル淺野セメント工場ニシテ其他カーバイト工



第六編 工業 第一章 總論  
場ハ錫口ニ加里工場ハ各地ニ新設セラレタリ  
各種工場數及生産一覽表

種類	工場數		生産		同上	
	大正五年	大正四年	大正五年	大正四年	大正五年	大正四年
分蜜	35	33	3,840,000斤	3,117,000斤	+	723,000斤
含蜜	150	130	5,085,850斤	3,569,000斤	+	1,516,850斤
精米	64	57	6,101,100斤	4,545,900斤	+	1,555,200斤
粗茶	337	348	3,516,120斤	3,233,300斤	+	282,820斤
烏龍茶	161	161	1,464,000斤	1,510,000斤	-	46,000斤
包種茶	35	32	5,683,300斤	5,335,000斤	+	348,300斤
酒類	10	9	3,637,000斤	3,757,000斤	-	120,000斤
油類	77	77	3,235,800斤	3,235,800斤	0	0斤
麵粉	47	47	1,030,800斤	1,030,800斤	0	0斤
蠶絲	1	1	28,000斤	28,000斤	0	0斤
鳳梨	8	7	1,920,000斤	1,920,000斤	0	0斤
蜜餞	1	1	69,200斤	69,200斤	0	0斤
梨罐	1	1	1,000,000斤	1,000,000斤	0	0斤
紙物	1,200	1,171	2,946,800斤	2,722,000斤	+	224,800斤
金銀紙	3	3	7,920,000斤	7,920,000斤	0	0斤

第六編 工業 第一章 總論

尙參考ノ爲メ地方廳ノ報告ヲ掲クレハ左ノ如シ

臺北廳報告 一般産業界ノ順調ニ伴ヒ各種工業亦好況ヲ呈シ染料製造、加里製造、カーバイト製造等ハ多大ノ發展進歩ヲ示シタルモ未ダ廳下工業トシテハ一般ニ著シキ影響ヲ及ボスニ至ラス

宜蘭廳報告 廳下ニ於ケル工業ハ未ダ顯著ナル發達ヲ示サスト雖モ時代ノ變遷ニ從ヒ著々進運ニ赴キツツアリ而シテ本年中ノ工業界ハ或特種ノモノヲ除クノ外ハ一般ニ順調ニシテ生産増加ヲ見ル即チ樟腦外二十七種工業品總價額ハ一百九十七萬二千九百九十七圓餘ニ達シ之ヲ前年ノ一百二十六萬五千七百三十七圓餘ニ比スレハ實ニ七十萬七千二百六十一圓餘ノ激增ヲ來セリ而シテ今各種工業ノ概勢ヲ窺フニ樟腦及腦油ハ臺灣救濟團ノ業務擴張ニ依リ砂糖ハ原料蔗作ノ増加ノ爲精米ハ作柄佳良ト米價ノ稍々騰貴セル爲酒類、醬油ハ品質ノ改善ト販路ノ擴大セラレタル爲メ麵類、澱粉、糖類、糖漿、藍等ハ機械製造業者増加ニ依

種類	大正五年	大正四年	増減	大正五年	大正四年	増減	大正五年	大正四年	増減
帽	312	317	-5	3,840,000	3,117,000	723,000	1,111,000	1,010,000	101,000
七島	935	1,193	-258	2,745,000	3,397,000	-652,000	5,595,000	5,595,000	0
瓦管	51	57	-6	1,268,800	1,077,000	191,800	1,054,800	1,111,000	-56,200
鐵工	926	839	87	1,190,000	760,800	429,200	1,445,000	1,445,000	0
木工	925	795	130	1,110,000	1,110,000	0	577,800	881,800	-304,000
竹器	2,549	2,110	439	3,920,000	2,225,200	1,694,800	3,302,000	2,225,200	1,076,800
石灰	196	204	-8	2,919,500	2,225,200	694,300	1,598,000	1,497,000	101,000
靴	112	113	-1	3,620,000	2,225,200	1,394,800	2,225,200	1,497,000	728,200
藍草	19	11	8	2,225,200	2,225,200	0	2,225,200	2,225,200	0
染	353	279	74	4,525,000	2,225,200	2,299,800	3,302,000	1,497,000	1,805,000
製冰	28	22	6	1,110,000	1,110,000	0	1,110,000	1,110,000	0



第六編 工業 第一章 總論

リ金銀紙ハ信仰ニ基ク需用増加ノ爲鐵工品、木工品、竹器、石灰、石盤瓦、大理石、炭酸水類等モ亦各々其ノ當面ノ需用ヲ喚起シタル爲何レモ増加ナシタルニ粗製茶ハ歐洲戰亂ノ餘波ヲ受ク不引合ニテ市場相場昇ラヌ油及油粕ハ原料タル花生ノ作付面積減少セルト落花生仁ノ賣行比較的好況ナリシトニ依リ織物及靴ハ内地品ノ移入激甚ナリシ爲瓦、煉瓦ハ建築界ノ開散ナリシト鐵筋混凝土造物ノ流行等ノ爲何レモ多少ノ減退ヲ示セリ即チ左ノ如シ

大正五年 各種工場及生産對照表(△印ハ減)

Table with columns: 種類 (Category), 工場數 (Number of Factories), 生産 (Production), 高 (High), 同 (Same), 上 (Up), 價 (Price), 額 (Amount), 比較 (Comparison). Rows include categories like 樟腦油, 糖, 赤糖, 粉, 米, 茶, 酒, 醬油, 油, 麵粉, 蠶絲, 織物.

桃園廳報告

新竹廳報告

依リ製糖業及茶業ハ戰事國ノ需要増加ノ爲メ此他製酒製酒家内工事トシテ重要視セル製帽業等各著シキ發展ヲ告ケ而モ從

第六編 工業 第一章 總論

Table with columns: 種類 (Category), 工場數 (Number of Factories), 生産 (Production), 高 (High), 同 (Same), 上 (Up), 價 (Price), 額 (Amount), 比較 (Comparison). Rows include categories like 金銀紙, 瓦陶磁器, 鐵工品, 木器, 竹器, 石灰, 石盤瓦, 染料, 藍, 靴, 石, 竹, 水, 鐵, 瓦, 陶, 磁, 器, 金, 銀, 紙.

備考 一、染色欄生産額ハ原料消費斤量ヲ示シ同欄中ニ×印ヲ記セルモノハ仕上數量及價額ナリ 二、染色欄×印仕上價額ハ合計ニ算入セズ



第六編 工業 第一章 總論

來小規模ノ工業ハ漸次大規模ノ組織ニ變スルノ傾向ヲ生シ從テ地方的企業心ヲ刺激シ各種ノ工業開發ヲ促スニ至レリ

臺中廳報告

廳下ニ於ケル工業ノ主ナルモノハ製糖業ニシテ之ニ次ク製糖事業トス製糖事業ハ逐年不振ノ狀態ヲ示シ營業者ハ甚シク苦痛ヲ感シ挽回ノ策ヲ講シツツアリ其他製糖業ハ外國產黃麻ノ價格向上ニ依リ利益ヲ減殺セラレト雖モ順調ノ成績ヲ收メタリ

南投廳報告

管内ノ工業トシテ稍ヤ見ルヘキモノハ製糖業外酒造業業トシ其他ハ手工業ニ屬スル竹器製造其他ニ過キス就中時局ノ影響ニ依リ化學工業ノ香酒製造藍靛製造等本期ニ於テ勃興シタルモノ未タ試驗時代ノ域ヲ脱セスト雖モ將來有望ナルヘキ事業トス

嘉義廳報告

諸工業中製糖工業ハ偉數ノ發達ヲ成シ機械工業ノ先驅トナリ其組織亦會社經營ノ基礎ヲ建テ以テ他ノ企業ヲ促進スル所トナリ廳下ニ於テハ製糖業ノ勃興、粗糶精米業ノ發達ヲ見尙爾余ノ産業ノ發達ヲ助長スルニ至リ經濟上影響スル所尠ナカラス而シテ本年ノ產額實ニ三千九百三十萬五千圓ニシテ廳下總生産價額ノ七割八分ヲ示シ爾餘ノ工業生産價額二百萬圓ト合シ四千百萬圓ニ達セリ

今各種工業ノ大勢ヲ見ルニ天候順調ナリシテ以テ工業原料一般ニ豐收ナリシト戰亂ノ關係上經濟界ノ調順ヨリ製品價額ノ騰貴ニ基キ前年ニ比シ産額ヲ増加セシモノ尠シトモ種々ノ關係上休止若クハ産額ノ減少ヲ見タルモノアリ左ニ統括シテ前年トノ實績ヲ對照スヘシ

種類	工場數		生産高		同上價額	
	大正五年	大正四年	大正五年	大正四年	大正五年	大正四年
酒類	11	11	2,715,500斤	2,282,800斤	381,587.80圓	325,779.90圓
赤糖	12	14	6,043,000斤	5,875,500斤	1,124,270.00圓	658,880.00圓
分蜜糖	15	13	5,991,800斤	5,191,800斤	684,180.00圓	607,110.00圓

第六編 工業 第一章 總論

臺南廳報告

廳下ニ於ケル製造工業中最モ重要ナルモノハ製糖工業ナリ本年ハ去ル明治四十四年稀有ノ暴風雨アリシ以來大正元年二年三年ニ至ル四箇年間毎年秋季ニ於テ暴風豪雨ノ被害ヲ受ケ此間原料用蔗苗ノ不足ヲ訴ヘ一面米價暴騰ニ伴ヒ蔗作ヲ廢シテ米作蕃薯作ニ改ムルモノ續出シ爲メニ蔗園面積著シク減縮スルト共ニ甘蔗ノ作柄ハ風水害ノ爲メ甚シク收穫率ヲ減シ其結果產額ニ大減差ヲ來シタリ即チ暴風雨被害前後ノ產額高ヲ見ルニ

種類	工場數		生産高		同上價額	
	大正五年	大正四年	大正五年	大正四年	大正五年	大正四年
油類	76	51	9,418,800斤	5,643,400斤	1,078,210.00圓	1,078,210.00圓
油粉	76	51	9,418,800斤	5,643,400斤	1,078,210.00圓	1,078,210.00圓
紙類	13	13	11,218,100斤	11,120,000斤	1,174,270.00圓	1,174,270.00圓
金銀	13	13	5,718,500斤	5,718,500斤	1,174,270.00圓	1,174,270.00圓
煉瓦	50	50	1,781,200斤	1,781,200斤	1,174,270.00圓	1,174,270.00圓
鐵工	27	27	1,781,200斤	1,781,200斤	1,174,270.00圓	1,174,270.00圓
染工	27	27	1,781,200斤	1,781,200斤	1,174,270.00圓	1,174,270.00圓
泥工	27	27	1,781,200斤	1,781,200斤	1,174,270.00圓	1,174,270.00圓
竹器	10	10	5,991,800斤	5,191,800斤	684,180.00圓	607,110.00圓
製麵	10	10	5,991,800斤	5,191,800斤	684,180.00圓	607,110.00圓
粗製麵	10	10	5,991,800斤	5,191,800斤	684,180.00圓	607,110.00圓
木製器具	10	10	5,991,800斤	5,191,800斤	684,180.00圓	607,110.00圓
木製家具	10	10	5,991,800斤	5,191,800斤	684,180.00圓	607,110.00圓
線香	10	10	5,991,800斤	5,191,800斤	684,180.00圓	607,110.00圓
醬油	10	10	5,991,800斤	5,191,800斤	684,180.00圓	607,110.00圓
木炭	10	10	5,991,800斤	5,191,800斤	684,180.00圓	607,110.00圓
合計	196	141	42,818,800斤	34,191,800斤	8,174,270.00圓	6,071,110.00圓



年 期 別

產

糖

高

明治四十四年	(明治四十三年ノ植付原料ニシテ被害セサルモノ)	一、四一五、六三二
大正元年	(明治四十四年ノ植付原料ニシテ被害ヲ受ケタルモノ)	七二一、八五八
大正二年	(大正元年ノ植付原料ニシテ被害ヲ受ケタルモノ)	三七二、五一六
大正三年	(大正二年ノ植付原料ニシテ被害ヲ受ケタルモノ)	六〇四、三六一
大正四年	(大正三年ノ植付原料ニシテ被害ヲ受ケタルモノ)	七七九、四七三
大正五年	(大正四年ノ植付原料ニシテ被害ヲ受ケタルモノ)	一、二二四、四八六

ニシテ前表ニ依レハ稀有ノ大暴風雨アリシ後二年目ニ於テ產額最モ減少シ其翌年ヨリ漸次恢復シテ大正五年期ノ全ク被害セサル原料ヲ使用セルニ至リ大ニ恢復ヲ示シタリ即チ此ノ間ニ於ケル營業者ノ苦心ハ實ニ慘憺タルモノニシテ糖業會社ハ善良蔗苗ノ供給耕作資金ノ前貸肥料ノ配給原料買收價格ノ値上等有ラユル獎勵方法ヲ以テ蔗農者ヲ督勵シタル結果大正五年期ノモノニ至リ蔗園面積增加シタル天候ノ順調ヲ得タル爲メ原料ノ豐收ニ依リ產額額額ニ挽回シ糖價亦好氣配ナリシニ依リ漸ク好影響ヲ呈シ大正六年期原料(大正五年補)作付狀況ノ如キハ未曾有ノ増加ニシテ益々好況ヲ豫想シ各會社全蔗園ノ灌溉排水等ノ改良設備優良種ノ更新計劃等只管永遠的原料ノ增收設備ニ腐心シ著々實行シツツアルヲ以テ廳下糖業ノ基礎ハ將來益々鞏固ナルヲ得ヘシ

製糖工業以外ノ工業トシテハ粗糖精米、製酒、肥料等生産額ノ大ナルモノアリ近年電動力ノ供給ト歐洲戰亂ノ影響ニ依リ內國產工業ノ勃興ニ伴ヒ廳下ノ諸工業モ一般ニ活氣ヲ帶ヒタリ新規起業トシテ淺野セメント株式會社ノ廳下打狗ニ新設セル臺灣工場ハ起業費百三十萬圓ヲ投シ本年中ニ工場建設、機械據付、職員宿舍ノ建築其他附屬工事ノ殆ント全部ヲ竣成セルカ工場能力ハ現在一箇月セメント三萬樽即チ年產三十六萬樽ノ製造能力ヲ有シ大正六年春季ヨリ製造開始ニ至ルヘシ同工場ハ將ニ能力ヲ増加シ年產七十萬樽ノ製造力ニ改メ製品ノ販路ヲ本島內ニ求ムルノ外南洋方面ニ新販路ヲ求ムル計劃ナレハ將來有望ナルノミナラス愈々製造作業ヲ開始スルニ至ラハ本島新工業ノ一二數ヘ得ヘク地方産業ノ爲メ慶スヘキコトナリ又打

狗ニ於ケル臺灣肥料株式會社ハ本島產食鹽ヲ原料トスル亞爾加里製造業ヲ兼營スル計劃アリ又臺灣製糖株式會社ハ一大鐵工場ヲ起サントスル計劃アルモ本年中ニハ具體的計劃ノ域ニ至ラス要スルニ廳下ノ工業ハ從來大規模ノモノハ獨リ製糖工業アルノミナリシモ時運ノ要求ニ依リ漸ク各種工業共愈々勃興セントスルニ至リタルハ洵ニ喜フヘキ現象ナリトス

**阿緞廳報告** 廳下工業ハ製糖工業ヲ除キテハ甚ダ幼稚ニシテ顯著ナル發達ヲ示サストイヘトモ酒造及酒精製造、粗糖及精米、製油、製麵、醬油及味噌、製藍、染色、鐵工、竹器製造、木工業、林投纖維製造、瓦製造、製鹽業等相當ノ業能ヲ維持シ廳下ノ工業トシテハ又逸シ去ルヘカラサルモノアリ

**臺東廳報告** 主ナル工業ハ製糖及製臘ニシテ酒造、精米、木工、藤細工及石灰製造等之ニ次クモ製糖ヲ除クノ外微マトシテ未ダ振ハス

**花蓮港廳報告** 廳下ニ於ケル工業ノ主ナルモノハ製糖業、酒、醬油、味噌、醃漬業ノ外殆ント見ルヘキモノナシ

**澎湖廳報告** 廳下ハ天惠極メテ芝シカ土地ニ生産物ナキヲ以テ特ニ報告スヘキ事項ナキモ重ナル製造業ニ付當年中ノ概要ヲ述ヘシニ廳下ノ落花生油ハ地質優良ニシテ重要生産物タル輸移出品ナルカ己ニ述ヘルカ如ク其ノ原料タル落花生ハ稀有ノ凶作ナリシ爲メ製造業者ハ前年ニ比シ十月ヲ減シ而モ其ノ原料ノ一部ハ之ヲ臺灣中南部ノ移入ヲ仰キタル有様ナリシヲ以テ其ノ產額著シク減少シ前年ノ四分ノ一ニ達セス其ノ生産額額二萬三千餘圓ニ過キス而シ本油ハ主トシテ臺灣刺煙草製造用トシテ專賣局ニ納入シ油糟ハ專ラ肥料トシテ南濱ニ輸出セラルル麵類及米粉製造業ハ主ニ島內ノ需要ニシテ其ノ生産額額一萬七千餘圓蒸溜酒製造業ニ依ル生産額額二萬餘圓ニシテ是レ主トシテ廳下本島人ノ飲料ナルカ島內需用ヲ充タスニ足ラス臺灣本島ヨリ移入酒ハ千餘圓ニ達セリ釘農具等鐵製品ノ生産額額七千餘圓ニシテ專ラ臺灣本島ニ移出シ一部島內ノ需用ニ應セリ其他磁器石礪灰ノ生産額額二千三百餘圓ハ專ラ島內ノ需用ニ供シ内若干南部ニ移出セラルル建築用石材ノ產出一千五百餘圓石器(搗臼挽臼類)ノ生産額額約一千圓是又南部ニ移出セリ廳下ノ特産タル文石ハ近來漸ク世人ノ珍重スル所トナリ置物、筴、簪、カ



フス錠、其他裝身用トシテ相當ノ聲價ヲ有スルニ至リタルモ產額多カラズ其ノ生産價額僅ニ二千圓ニ過キス以上ノ外海産製  
造物ノ生産價額約三萬圓ニシテ地方ノ生産力極メテ微々タルモノナルヲ以テ媽宮港ニ於ケル年々輸移入ノ超過額實ニ五、六  
千圓ニ達セリ

### 第一章 製糖業

本島糖業ハ逐年長足ノ發展ヲナシツツアリテ澎湖廳ヲ除クノ外全島到ル處其產出ヲ見サルナキニ至  
レリ而シテ本島糖業ハ既ニ業ニ創業期ヲ脱シ今ヤ整理的統一時代ニ推移シ小ナルモノハ大ナルモノ  
ニ併合セラレツツアリ大ナルモノハ一層内容ノ健實ナル發達ヲ期シツツアリ本年期ハ天候實ニ順調  
ナリシト施肥潤澤且ツ蔗苗ノ供給豊富ナルトニ依リ其成績頗ル良好ニシテ前年度ニ比シ約八割ノ増  
收ヲ舉ケ未曾有ノ産額ニ達セリ詳言スレハ本期ニ於テ作業セル製糖場ハ新式製糖場三十五箇所其能  
力ニ比スレハ新式製糖場ハ場數ニ、能力九百噸ヲ増加シ改良糖廠ニ二箇所能力百八十噸ヲ減シ在來  
糖廠ニ於テ一箇所ヲ増セリ而シテ本期ニ於ケル甘蔗栽培面積十一萬四千四百五十一甲其收穫量五十  
七億三千五百二十一萬九千餘斤ニシテ原料ニ依リ製産セラレタル製糖高ハ分蜜糖四億八千四百  
二十五萬一千二百斤含蜜糖五千八百五十八斤總計五億三千五百十萬七千五百九十九斤ノ生  
産ナリ之ヲ前年期ニ比スレハ栽培甲數ニ於テ二萬九千三百一甲收穫量ニ於テ十八億四百四十一萬三千

三百三斤、產糖高ニ於テ分蜜糖一億七千二百五十萬一千百十二斤含蜜糖一千五百十五萬六千三百四  
十八斤總計一億八千七百六十六萬六千六百六十斤ノ異常ナル増産ヲ示スニ至レリ  
更ニ之ヲ資本ノ上ヨリ見レハ新式製糖會社ニ於テハ前年度ヨリ資本金三百五十萬圓ヲ拂込資本金一  
千三百八十餘萬圓ヲ何レモ増加セリ而シテ經營上ヨリ見レハ大正五年九月一日臺北製糖會社ハ臺灣  
製糖會社ニ合併サレ同社臺北製糖所ト改稱セラレ南日本製糖會社ハ八月十四日帝國製糖會社ニ合併  
セラル其他改良赤糖會社ノ合併セラレタルモノ四、五箇所アリ  
今砂糖生産狀況ヲ表示スレハ左ノ如シ

會社及場名	工場所在地	作業着手年	能力	資本金	拂込資本金
臺北製糖株式會社	臺北廳下崁庄	明治四十五年	英	1,000,000	1,111,414
南日本製糖株式會社	新竹廳三角店庄	大正二年	同	1,000,000	1,100,000
帝國製糖株式會社	同 水田庄	大正三年	同	1,000,000	1,100,000
新高製糖株式會社	同 臺中廳臺中街	明治四十五年	米	1,000,000	1,000,000
林本源製糖株式會社	同 臺中廳中寮庄	大正三年	同	1,000,000	1,000,000
大日本製糖株式會社	同 臺中廳下湖庄	明治四十四年	英	1,000,000	1,000,000
	同 臺中廳溪州庄	大正二年	同	1,000,000	1,000,000
	同 嘉義廳五間厝庄	明治四十二年	同	1,000,000	1,000,000
	同 嘉義廳五間厝庄	明治四十五年	同	1,000,000	1,000,000







即チ本期製糖、前報豫想ノ如ク督府ノ糖業獎勵施設ト當業者ノ努力經營ト相俟テ加フルニ天候ノ幸ヒセルアリ前述ノ如キ好成绩ヲ舉ケタルモノニシテ他方需要ノ方面ヨリ觀察スレハ歐洲戰亂ノ永續ハ船舶ノ不足、需給ノ變調ヲ來シ世界的ニ益々糖價ノ昂騰ヲ促カスノ狀勢ヲ馴致シ遂ニ前年度ニ比シ四千四百五十餘萬圓ニテ巨額ノ增收ヲ得タリ

新式製糖場分蜜糖生產高表 大正五年期

(自大正四年十一月至大正五年十月)

製糖株式會社	機械能 力噸數	原料使用高(斤)		製糖高(斤)		歩留(割)	
		大正五年期	大正四年期	大正五年期	大正四年期	大正五年期	大正四年期
臺北製糖株式會社	500	40,380,153	39,951,324	3,788,850	3,110,100	0.94	0.80
南日本製糖株式會社	310	5,981,289	5,151,271	5,244,966	1,781,500	0.88	—
帝國製糖株式會社	350	5,700,881	5,194,588	5,182,310	2,112,305	0.81	0.84
新高製糖株式會社	350	1,943,380	1,441,050	1,019,541	1,343,888	1.08	1.11
林本源製糖株式會社	350	7,584,400	5,491,190	8,002,990	5,824,825	1.08	1.11
大日本製糖株式會社	1,000	22,014,000	13,998,860	24,768,011	15,046,010	1.08	1.11
東洋製糖株式會社	1,000	19,922,900	9,968,060	19,954,100	10,622,325	1.00	1.14
南島樹港株式會社	350	1,848,182	1,257,885	1,901,990	1,787,890	1.01	1.18
斗六港株式會社	350	1,848,182	1,257,885	1,901,990	1,787,890	1.01	1.18
總計	5,000	118,480,000	69,551,000	127,768,011	70,000,000	1.01	1.11

製糖株式會社	機械能 力噸數	原料使用高(斤)		製糖高(斤)		歩留(割)	
		大正五年期	大正四年期	大正五年期	大正四年期	大正五年期	大正四年期
明治製糖株式會社	300	21,840,000	22,264,000	21,046,800	22,330,000	1.11	0.84
南島樹港株式會社	350	1,848,182	1,257,885	1,901,990	1,787,890	1.01	1.18
斗六港株式會社	350	1,848,182	1,257,885	1,901,990	1,787,890	1.01	1.18
總計	5,000	118,480,000	69,551,000	127,768,011	70,000,000	1.01	1.11



尙參考ノ爲メ本業ニ關シ各處ノ報告ヲ摘録スレハ左ノ如シ

臺北廳報告

臺北製糖株式會社ハ明治四十三年八月ノ創立ニ係リ能力五百噸ノ新式機械ヲ摺付ケ年々事業ヲ經營シ來リシカ本年九月一日臺灣製糖株式會社ニ合併セラレ同社臺北製糖所ト改稱セリ而シテ臺北製糖所ハ最近兩年來暴風雨ノ襲來ナク又病蟲害ノ被害少ク爲メニ原料豐富ナルト時局ノ影響ヲ受ケ糖價ノ暴騰セルトニヨリ良好ノ成績ヲ示シツツアルモ老梅製糖公司頂雙溪農場ハ小能力ノ舊式糖廠ニシテ資本薄弱蔗園面積狹ク且ツ地位ノ關係上前者ハ含鹽風ノ襲來ヲ受ケ施肥充分功ヲ奏セス爲ニ甘蔗ノ生育良好ナラサルモアリ從テ原料不足シ經營順調ナリト云ヒ難シ

宜蘭廳報告

宜蘭廳下ニ於ケル本糖ハ最近長足ノ勢ヲ以テ革新セラレ異常ノ發展ヲ見ルニ至レリ即チ本年ニ入りテハ從來宜蘭糖株式會社ノ經營ニ係ル茅仔寮改其糖廠ハ新竹廳下ニ移轉シタルニ代ハリ臺南製糖株式會社ハ來リテ同會社ノ經營セル七張庄改其糖廠ト鹿埔、阿里史、紅柴林、叭哩沙、冬瓜山ノ四舊式糖廠ヲ併合シ二結堡二結庄ニ能力四百噸ノ新式工場ヲ設ケ大ニ將來ノ發展ヲ策スヘク其ノ地歩ヲ固メ來期ヨリ作業ニ著手セントセリ職テ本期ニ於ケル本業ノ狀況ヲ見ルニ作業セル工場ハ改其糖廠二、舊式糖廠十箇所ニシテ原料ノ消費高三千九百二十七萬八千九百三十三斤製糖高三百十八萬二千八百九十一斤ヲ算シ歩留八歩強ヲ示シ之ヲ前年ノ事實ニ比スレハ原料ニ於テ七百九十二萬五千六百五十三斤產糖高ニ於テ六十七萬二千九百一十一斤ヲ增加セリ之レ全ク蔗園ノ増殖ニ因ル所ナリト雖モ亦一般農民ノ思想啓蒙ニ資フ所多カルヘシ即チ金肥ノ施用ハ從來極メテ微々タルモノ近時之カ施用ヲ爲ス者多ク甲當平均大豆粒六枚強ヲ使用スルニ至リタルト水田耕作ノ如キハ嘗テ見サル所ナリシカ前期中初メテ百五十甲步栽植ヲ見本期ニ於テハ更ニ五百甲步ヲ算シ益々發達ノ傾向ヲ示シツツアリ

桃園廳報告

年末工場數舊式糖廠十箇所砂糖生產高四十七萬二千二百五十八斤ニシテ前年ニ比シ糖廠數四、砂糖二十九萬八千七百六十七斤ノ増加ヲ見タリ價格ノ好況ニ伴ヒ新設糖廠ノ設置ヲ申請スルモノ續出シ最近臺灣製糖株式會社臺北製糖所採取區域

新竹廳報告

擴張ノ出願アルト同時ニ合名會社鈴木商店ニ於テハ二十二箇所ノ舊式糖廠設立ヲ申請シ尙本島人ノ計畫ニ係ルモノ四箇所ニ及ヒ廳下ノ糖業ハ長足進步ノ趨勢ヲ示スニ至レリ  
内ニ見サル多數ノ舊式糖廠ナリ尙益々發展ノ傾向ヲ呈セリ而シテ縱貫鐵路腹背ノ平地蔗園ハ新式改其糖廠ノ所屬ニシテ運輸ノ發達ニ伴ヒ之ヲ蔗園擴張ノ傾向ヲ生セリ蓋シ本期糖業ハ風力ノ被害ナカリシト米價ノ低落セルニ反シ糖價ノ昂騰ハ蔗作獎勵上良好ノ成績ヲ告ケ漸次發展ノ趨勢ヲ呈セリ即チ本期製糖高其他ヲ表示セハ左ノ如シ

種別	場數	原料消費高(斤)	製造高(斤)
新竹製糖工場	二	11,148,110	1,039,918
改其糖廠	一	8,717,000	8,717,000
舊式糖廠	九	8,818,117	6,311,075
計	一二	28,683,227	16,968,093

新式製糖場 新竹及中港ニ新式工場ヲ有スル南日本製糖株式會社ハ從來原料不足ニ加フルニ經營宜シキヲ得ス頗ル慘狀ヲ呈シタリシカ近年糖價ノ昂騰米價ノ下落植付ノ獎勵農民蔗作ニ對スル經驗等ニ依リ作付面積ヲ増加シ一面内部ノ改善ヲ計リタレハ今益々良好ノ成績ヲ收ムルニ至レリ

改良糖廠 太湖製糖場ノ一箇所ナルカ原料採取區域ハ主トシテ山地ニ屬シ平坦ナル農耕地ニテシテ從テ山地ノ傾斜面ニ耕作セルモノハ降雨時ニ其ノ表土ヲ流失シ培土ヲ行フ能ハス生育不良ニ歸スルモノ多カリシカ近來米價下落ノ結果水田蔗作ヲ試ムルモノ續出シ而モ沖繩種瓜哇種ノ蔗苗ヲ移入配付シ増殖ヲ計リタレハ漸次良好ノ成績ヲ收ムルニ至レリ

本期ニ於ケル舊式糖廠數ハ九十二箇所ニシテ其ノ原料消費高八千八百十四萬八千二百七十二斤此ノ製糖高六百三十一萬七百四十三斤ハ之ヲ前期ニ比シ多額ノ增收ナリ蓋シ舊式糖廠ハ運輸不便ノ山地小區域ニ屬シ製造法又此地方ニ適スレハ假令蔗苗



第六編 工業 第二章 製糖業

臺中廳報告

ノ不足ヲ告ケ劣等ノ苗ヲ挿植セルニ關ハラズ植付甲數擴張ノ結果自然増收ヲ告グルニ至レリ  
 新式製糖場ハ前期ト同シク四會社五工場此モノ能力二千八百五十噸改良糖廠ハ一工場ヲ増加シテ九工場トナリ此ノ  
 能力九百噸合計十四工場ニシテ能力三千七百五十噸トナレリ舊式糖廠ハ五十六箇所ノ設立ヲ見タリ  
 製糖用原料使用高ハ新式工場ニ於テ六億五千四百一十一萬三千六百六十斤改良糖廠ニ於テ一億四千六百一十一萬八千九百三十九斤  
 舊式糖廠ニ於テ六千四百七十三萬五千五百四十八斤合計八億六千四百二十八萬五千六百四十七斤ニシテ產糖額ハ新式製糖場ニ於  
 テ六千八百五十五萬四千九百六十七斤改良糖廠ニ於テ一千四百七十二萬九千九百九十一斤舊式糖廠ニ於テ六百十六萬二千五百  
 二斤ニシテ合計八千九百四十四萬六千六百六十九斤ナリ此ノ内赤糖產額ハ二千八百一十一萬一千六百九十三斤ヲ占メタリ此步留リテ  
 見ルトキハ實ニ一割三厘トナル亦良好ナル成績ト謂フヘシ今主ナル製糖場ニ就テ概況ヲ記セハ左ノ如シ  
 帝國製糖株式會社 本社ハ南日本製糖株式會社ヲ合併セルヲ以テ總能力一千七百十噸資本金七百五十萬圓株式十五萬株トナ  
 レリ尙前期來神戸市兵庫東尻池村ニ建設中ナリ精製糖工場ハ本年六月中竣功シ引續キ製造ヲ開始シ其成績良好ニシテ内外  
 市場ニ向ツテ製品販賣ヲ試ミツツアリ本期會社カ原料ヲ採取シタル總面積ハ田畑合計三千五百五十甲ニシテ採取原料ハ二億  
 六千五百九十五萬噸斤ニシテ一甲當リ收量七萬六千六百六十斤トナル之レハ前期ニ比スレハ一甲當約五十斤ノ増加ヲ示セリ  
 次期原料植付面積ハ三千九百五十七甲餘ニシテ本期ニ比シ四百七十七甲增加セリ耕作法ノ改良セラルト又天候順調ナリシト  
 ニヨリ其原料ハ更ニ豊富ナルヘキヲ信ス原料運搬用專用鐵道延長ハ二十八哩餘營業線十哩餘アリ原料運搬ノ迅速ヲ計ル爲原  
 料用貨車百輛有蓋車十輛緩急車一輛ヲ購入セリ而シテ本期末ニ於ケル諸車輛ハ機關車七輛客車四輛貨車五百七十輛ヲ算スル  
 ニ至レリ本期製糖ハ大正四年十一月十五日ヨリ開始シ四月二十一日終了セリ產糖高二十八萬九千九百八十六噸ニ上リ步留ハ一  
 割六厘ニ當ル百四十九萬六千餘圓ノ純益ヲ上ケ株主ニ對シ一割八歩ノ配當ヲ爲セリ、實ニ良好ナル成績ト云フヘシ次期製糖  
 ハ本年十一月一日ヨリ開始セリ  
 新高製糖株式會社 彰化工場、本期製糖用原料生育ノ見込ナク農耕セシモノアリテ實際收穫セル面積八千六百九十甲ナリ

第六編 工業 第二章 製糖業

キ、今期ノ天候ハ前期未降雨多量ナリシヲ以テ水田ヲ主トシテ蔗作セル本會社區域ニ於テハ多少發育ニ就テ懸念セル處アリ  
 シモ其後天候適順ナリシト共ニ農民ハ極メテ熱心ニ栽培セルヲ以テ著シク良好トナリ且ツ暴風雨期ヲ無事ニ經過セルヲ以テ  
 其原料收穫高ハ一億四千四百八十萬餘斤ヲ算シ一甲當リ平均收量ハ八萬六千六百六十斤トナリ前期ヨリ一萬七千七百斤ノ増收トナル會社  
 創立以來ノ最高記録ヲ示セリ次期甘蔗ノ植付甲數ハ田畑合計千八百七十甲ニシテ天候極メテ調順ナルヲ以テ目下ノ處一甲當  
 リ十萬斤ノ收穫ヲ見ルヘク豫想セラレ運搬機關ハ機關車ニ用ユル專用鐵道四十二哩六十九哩輕便鐵道二十五哩ニシテ是レハ  
 機關車五臺貨車四百臺ヲ使用シテ運搬ス製糖ハ大正四年十二月十一日ヨリ開始シ四月十六日終了セリ此產糖高十五萬二千九  
 百五十五噸餘ニシテ平均步留一割五厘六毛ニ當レリ精製糖工場ハ大阪市西區春出町ニ設置シ本期七月竣功セシテ以テ目下製  
 造中ナルカ其成績良好ナリ  
 林本源製糖株式會社 本期甘蔗ノ植付面積ハ田畑合計三千四百甲アリシモ流失等ニヨリテ廢耕セルモノアリシヲ以テ實際ノ  
 收穫面積ハ三千二百八十甲ナリキ此收量一億七千九百二十九萬餘斤ニシテ一甲當リ平均五萬五千斤弱ニ當リ植付甲數中畑面  
 積多キ本社ノ成績トシテハ誠ニ良好ナルモノナリ次期ノ植付ハ收量ノ増加ヲ圖ル爲地味肥沃ナル水田ニ獎勵ヲ試ミタリシガ  
 昨年來米價安値ナリシヲ以テ大ニ成功シ總植付甲數四千三百餘甲中水田植付面積ハ二千三百三十餘甲ニシテ其ノ後ノ天候良  
 好ナリシヲ以テ其ノ發育佳良ニシテ一甲當リ六萬斤以上ノ收量ヲ豫想セリ而シテ次期產糖ハ二十五萬噸以上ノ豫想ナリトス  
 鐵道ハ三十九哩餘ニシテ内十九哩餘ハ田中央二林間ノ營業ヲ兼テ尙ホ他二十一哩餘ノ輕便線ヲ有シ是レニ機關車六輛及五噸  
 車三百三十五臺ヲ使用シテ原料運搬ニ便ス、二林田中央間營業線ハ附近村落ノ發達ニ伴ヒ乘客貨物等々増加シテ本期ノ如  
 キハ三萬五千餘圓ノ收益ヲ擧ケタリ製糖ハ十一月二十一日著手シ五月二十四日終了セリ其產糖ハ十七萬九千五百四十一噸餘  
 ニシテ七十四萬八千餘圓ノ純益ヲ得株主ニ對シ一割五分ノ配當ヲナシタリ  
 東洋製糖株式會社 月眉製糖所、本期ノ甘蔗植付甲數ハ八百二十一甲ニシテ此内一般勸誘ニヨル甲數ハ百五十七甲ニ過キス  
 シテ他ハ賤耕地ニシテ自作經營ヲナシタルヲ以テ其收量著シク増加シ一甲當リ平均收量七萬六千斤強ニ上リ前期ノ二倍以上



第六編 工業 第二章 製糖業

ノ増収ヲ示シ總收穫高六千二百八十九萬八千餘斤ナリキ次新植付ハ一千四百九甲ニシテ内一般勸誘ニヨル甲數ハ三百八十甲ニテ他ハ全部自作ナル故其原料ノ發育頗ル良好シニテ一甲當リ九萬斤以上ノ收穫ヲ豫想スルニ難カラス鐵道ハ二十哩餘ニシテ内十二哩二十四鐘ハ後里庄大甲間ノ營業ヲ兼テ機關車三輛及貨車百輛ヲ準備シテ運搬ニ供ス製糖ハ大正四年十二月二十六日開始シ五月十二日終了センカ其產糖高七萬六千六百六十六俵ニシテ此步留リ一割一分一厘餘ニ當レリ而シテ本期總純益ハ三十四萬一千餘圓ニシテ本工場創立以來嘗テ見サル好成績ヲ示セリ

南投應報告

大正五年期ノ製糖工場ハ新式工場二箇所改良糖廠五箇所舊式糖廠三十箇所トス改良糖廠中明治製糖株式會社福觀堂工場ノ一箇所ハ本期作業ヲ休止セリ而シテ製糖工場ノ本期原料消費高ハ甘蔗二七一、五九八、一五九斤製糖高二九、五九〇、二二七斤ニシテ其製糖作業ハ熱レモ順調ニ過シタリ

改良糖廠中臺灣赤糖株式會社社寮工場及集々工場ハ本期同會社ニ於テ東洋製糖株式會社ト合併シ東洋製糖株式會社ニ於テ其工場事業ヲ繼承セリ本期糖價ノ好調ト原料甘蔗ノ豐收トニ依リ各製糖業者ハ一層其事業ヲ擴張スルモノ多ク恰カモ米價ノ低落ニ伴ヒ甘蔗栽培ノ歡迎ヲ受ケ其原料作付ノ如キ一般ノ便宜ヲ得事業内容ノ充實ヲ圖リツツアリ

嘉義應報告

本期糖價ハ歐洲戰亂ノ影響ニ因リ概シテ高値ヲ保持スルヲ得產糖額亦著シク増加シテ最高ノ記録ヲ示セシカハ斯界ハ未曾有ノ活況ヲ呈セリ糖下ニ於ケル製糖場數及其能力ハ新式製糖場十一箇所能力九千八百九十噸改良糖廠八箇所能力八百噸合計能力一萬六千九百九十噸噸外ニ舊式糖廠九箇所ヲ有ス而シテ此内改良糖廠一箇所ハ操業上ノ都合ニ依リ作業ヲ休止セシモ其他ハ何レモ本期製糖ニ從事セリ

各製糖ノ本期作業延日數ハ二千三百二十三日ニシテ之ヲ前期ニ比スルトキハ六百四日ヲ増加セリ又工場ノ平均作業日數ハ新式製糖場百二十六日改良糖廠七十七日舊式糖廠五十三日ナリ而シテ其總消費原料ハ二億八千二百七十四萬六千七百三十一斤此平均製糖歩留九分九厘ニシテ分蜜糖二百七萬四千四百五十五擔赤糖八萬四千三百三十一擔合計二百五十五萬五千七百八

十六擔ヲ產出セリ之ヲ前期產額ニ比スルトキハ實ニ八十三萬八千〇二十二擔ヲ増シ亦從來最モ產額ノ多カリシ四十四年期ニ比スルトキハ尙且五十三萬擔餘ノ増加ナリトス

本期中製糖場經營者ノ主ナル異動ヲ示サンニ東洋製糖株式會社ハ臺灣製糖株式會社ヲ合併シ資本金七千五萬圓ヲ増加シテ千七百七十五萬圓トナリ又大日本製糖株式會社ハ資本金六百萬圓ヲ増加シテ千八百萬圓トナレリ

本期原料買收價格ハ前期ト同シク各製糖業者ヲシテ之ヲ定メシメ本廠ニ於テ認可ヲ與ヘタルモノナルカ其買收實績千斤當リ改良種二圓九十七錢一厘在來種二圓三十七錢七厘平均二圓九十六錢六厘ニシテ之ヲ前期ニ比スルトキハ六錢六厘ヲ減シヨリ本期使用原料甘蔗ハ生育期間中概シテ天候順調ナリシカハ發育良好ニシテ收穫豫想十九億五千七百七十萬斤餘ニシテ實收量ハ増加シテ二十一億二千三百三十三萬九千九百二十一斤ニ上リ其甲當收穫量モ四萬八千八百斤トナレリ

本期甘蔗ノ植付ハ糖界ノ活況ニ連レ頗ル好成績ヲ呈シ當物四萬八千四百五十三甲ノ植付ヲ見其ノ後九百六十二甲廢耕セシニ依リ第二回產園調査ニ於テハ四萬七千四百九十一甲トナレリ之ヲ前期ニ比スルトキハ四千四百甲餘ノ増加ニシテ實ニ糖下ニ於ケル蔗園面積ノ最高記録ヲナセリ而シテ植付後一時旱魃ノ憂ヒアリタルモ其ノ後降雨ノ爲メ適應ノ濕潤ヲ得テ恢復シ又一部蔗園中ニ露菌病並萎縮病ヲ發生セシト雖モ幸ニシテ其被害大ナラス一般作況ハ概シテ良好ニシテ其收穫見込二十四億二千九百七十二萬七千二百八十八斤一甲當豫想收量五萬一千三百斤餘ニ上レリ

本期植付蔗園中新式製糖場並改良糖廠ニ於テ施用セシ金肥ハ其價格百五十六萬七千四百六十圓施用面積三萬七千二百二十四甲ニシテ前期ヨリ價格ニ於テ五十萬圓面積ニ於テ約六千甲ヲ増加シ又其施肥面積ハ蔗園全面積ノ約七割八分ニ該當シ逐年好成績ヲ呈シツツアリ本期中他糖管内ヨリ搬入セシ蔗苗ハ一千五百五十六萬七千三百八十四萬斤他糖管内ハ搬出セシ蔗苗ハ一千八百八萬六千六百斤ニシテ前期ノ搬入超過數三千九百萬斤ニ對シ本期ハ僅ニ四十八萬斤ノ搬入超過ニ止マレリ又本期製糖原料中七千九百七十四萬四千七百八十斤ハ臺南糖管内ヨリ引取リタルモノナルカ千七百七十四萬八千二百斤ヲ製糖原料トシテ臺南糖管内ハ搬出セシニ依リ差引三千二十九萬六千五百八十斤ノ搬入超過ナリトス

大正六年期製糖ハ各製糖場共原料豐富ナルカ爲新式製糖場改良糖廠共全部十二月初旬迄ニ製糖ヲ開始セリ

第六編 工業 第二章 製糖業



第六編 工業 第二章 製糖業

左ニ製糖高比較並大正五年期製糖場別製糖高ヲ掲ク  
製糖高累年比較

年 期	製糖場		製糖		赤糖		高糖	
	新式改良舊式	計	斤量	價額	斤量	價額	斤量	價額
明治四十五年期	自四、二	一〇	四〇	一、二五五、二六〇	一、二八四、九八〇	一、三〇五、七九〇	一、七五、一七二	一、七五、一七二
大正二年期	自元、二	九	三六	一、五八〇、五九〇	三、二〇四、三三三	二、八八、五五〇	三、八〇、七九三	七、八四、五〇九
大正三年期	自三、一	九	三七	一、〇〇七、四六六	二、八〇三、四九九	二、四四、二六〇	七、九三、八三〇	一、一三三、二八六
大正四年期	自三、一	七	二五	一、二六三、七八七	五、三九七、五二四	六、五八、九八八	一、二七、七四八	二、四九、八四四
大正五年期	自四、一	二	一〇	一、〇七、一四五、五八八	八、四三三、〇八三	一、一四六、三七九	二、五五、七八九	三、九三、五六一

大正五年期各製糖場別製糖高

製糖場別	製糖場	壓搾馬力	作業日數	甘蔗斤量	製糖高歩留	
					斤量	價額
大日本製糖株式會社臺灣第一工場	臺灣第一工場	1,100	147	2,870,680	2,835,930	99
新高製糖株式會社嘉義工場	嘉義第二工場	1,000	131	3,820,500	3,700,170	97
明治製糖株式會社蒜頭工場	蒜頭第一工場	1,100	133	3,071,500	2,978,081	101
東洋製糖株式會社斗六製糖所	斗六製糖所	900	115	1,890,800	1,821,124	96
北港製糖所	北港製糖所	500	130	1,800,000	1,738,000	101
南靖庄製糖所	南靖庄製糖所	1,000	115	3,374,000	3,211,715	98
同	同	1,000	105	1,981,800	1,919,980	101

第六編 工業 第二章 製糖業

臺南廳報告

廳下ノ工業中最モ主要ナル製糖工場ノ大正五年期作業セルモノハ新式工場ナク改良糖廊一箇所舊式糖廊二箇所ニシテ大正四年十一月ヨリ大正五年六月ニ至ル間ニ原料十億七千八百四十六萬六千〇四十七斤(鹽水港製糖拓殖會社ニ搬出セル

製糖場別	製糖場	壓搾馬力	作業日數	甘蔗斤量	製糖高歩留	
					斤量	價額
烏樹林製糖所	烏樹林製糖所	750	118	1,887,990	1,872,541	99
鹽水港製糖拓殖株式會社新營庄工場	新營庄工場	1,000	110	1,945,600	1,911,103	104
同	岸內第一工場	550	102	923,600	908,011	98
同	岸內第二工場	700	124	1,988,800	1,971,000	99
新式	計	900	135	2,118,000	2,098,500	99
卒顯榮改良糖廊	改良糖廊	80	33	1,077,900	1,046,611	97
臺灣赤糖株式會社大坵園工場	大坵園工場	100	53	785,000	767,130	98
同	鹿麻產工場	100	83	1,481,800	1,311,000	89
同	饒仔脚工場	60	81	699,500	673,000	96
同	白芒埔工場	60	77	726,200	682,000	94
沖臺拓殖製糖株式會社前大埔工場	前大埔工場	60	74	800,000	784,300	100
改良式糖廊	改良式糖廊	400	43	555,300	548,800	99
舊式糖廊	舊式糖廊	400	47	877,300	739,900	84
合計	合計	1,500	1,133	21,827,000	21,558,600	99

備考 斗六製糖所赤糖工場(能力三〇〇噸)ハ本期ハ壓搾ヲ爲ナス分蜜工場ヨリ移送セル糖汁ニ依リ製糖ノミチナシタルヲ以テ本表ニハ同工場ノ記載ヲ省ケリ而シテ製糖高ノ内斗六製糖所二、〇八三、一〇〇斤南靖庄製糖所六二五、四七〇斤ハ赤糖トス  
製糖高中ニハ未製品トシテ前期ヨリ持越シタル三九七、〇一一斤ヲ含ミ未製品トシテ來期ニ持越スヘキ一七一、四四三斤ハ之ヲ除キタリ



第六編 工業 第二章 製糖業

原料九千〇九十三萬六千六百十斤(除ク)ヲ消費シ糖産額一億二千五百十六萬六千二百九十七斤價格一千三百二十三萬七千二百五十二圓九十四錢ヲ製出セリ今各製糖工場ニヨリ其成績ヲ掲グルハ左ノ如シ

製糖會社工場別	作業開始及終了期	原料消費高	砂糖製産高	同上價格
臺灣製糖橋仔頭(第一)	自大正四年十二月六日 至大正五年四月三十日	一九六四七、七三〇斤	二、〇三三、五三〇斤	三、八八三、〇七〇圓
同 後壁林	自大正四年十二月二十二日 至大正五年三月二十二日	七、一六四、五八〇	七、〇九九、九九三	七、五八、六三六圓
同 灣 裡	自大正四年四月十三日 至大正五年四月十三日	一、四一八、二六〇	七、〇九九、九九〇	七、四四、八八八圓
同 三 崙 店	自大正四年十二月六日 至大正五年四月十七日	一、三三三、七二〇	一、三〇三、一七〇	一、三三三、〇七〇圓
同 車 路 城	自大正四年十一月二十一日 至大正五年四月二十一日	一、九七八、八八三	二、一七五、一七九	二、二二〇、〇七〇圓
同 明 治 製 糖 總 廠	自大正四年五月三十日 至大正五年五月三十日	一、八八三、三三〇	一、七五三、七六六	一、八八三、〇七〇圓
同 蕭 壠	自大正四年四月十四日 至大正五年四月十四日	二、九四八、四七〇	一、三〇三、九七〇	一、三三三、〇七〇圓
臺南製糖吧哖	自大正四年十二月八日 至大正五年五月八日	五、〇二二、四九九	四、八八三、一〇〇	五、〇二二、〇七〇圓
同 無水製改良糖廠	自大正五年一月八日 至大正五年四月八日	二、八五二、九七三	二、六六七、六六六	二、八五二、〇七〇圓
新 興 製 糖	自大正五年四月十一日 至大正五年四月十一日	六、一五五、五〇〇	六、〇三三、七八八	六、一五五、〇七〇圓
舊式糖廠二箇處	自大正四年十一月四日 至大正五年十一月四日	一、〇三三、四九九	一、〇三三、四九九	一、〇三三、〇七〇圓
計		一、〇三三、四九九	一、〇三三、四九九	一、〇三三、〇七〇圓

本年ニ於ケル糖下ノ産糖額ハ以上ノ如クナルカ今最近五箇年間ノ消長ヲ見ルニ左ノ如シ

年 次	原料消費高	産 糖 高	同 上 價 格
明治四十四年	一、〇三三、四九九	一、〇三三、四九九	一、〇三三、〇七〇圓
大正元年	六、七四七、四九九	七、二二一、八八八	七、七七九、六九九圓
大正二年	五、八八三、三三〇	五、七二二、五五五	五、八八三、〇七〇圓
大正三年	五、〇二二、四九九	五、〇二二、四九九	五、〇二二、〇七〇圓
大正四年	六、〇三三、七八八	六、〇三三、七八八	六、〇三三、〇七〇圓
平 均	七、四六九、〇九九	七、七七八、〇九九	八、三九九、〇九九圓

前表ニ依レハ本年期ハ前年期ニ比シ原料消費高ニ於テ二億七千八百一萬一千八百十六斤、産糖高ニ於テ三千七百十九萬九千三十一斤糖價ニ於テ二百五十九萬九千二百六十二圓七十錢ノ増加ヲ示シ前五年平均ニ比シ原料消費高ニ於テ三億三千五百五十六萬三千二百二斤産糖高ニ於テ三千七百二十八萬五千四百八十四斤糖價ニ於テ四百八十三萬七千五百三十八圓十錢三厘ノ増加ヲ示セリ即チ製糖工業ハ其原料タル甘蔗作ノ消長ニ伴ヒ増減スルモノニシテ次期原料トシテ本年植付ノ甘蔗作ノ作付面積二萬六千六百八十甲ニシテ前年ノ二萬四千六百七十甲(本期ノ消費ノ分)ニ比シ二千十甲ノ増作ナレハ次期ノ産糖高ハ本期ニ比シ更ニ増産ノ見込ナリ

阿緞廳報告

大正五年期ニ於テ操業セシ糖下ノ製糖工場、新式工場ニ改良糖廠及舊式糖廠各六箇所ニシテ何レモ極力事業ノ經營ニ當リツツアリ而シテ本期ニ於ケル糖下ノ製糖業ハ前年來ヨリ引續ケル糖價ノ騰貴及暴風雨其他ノ天災少ナカリシ爲メ原料甘蔗ノ作付漸次好況ニ向ヒタル結果大正二年以來累年原料ノ增收ヲ示シ從テ本期ノ如キハ其産糖高五千三百二十七萬二千九百九十四斤ニシテ之レチ前年ノ三千九百三萬七千五百三十一斤ニ比シ一千四百二十三萬五千四百六十三斤ノ増加ヲ見明治四十三年以降未曾有ノ糖業好況ヲ致セリ然レトモ糖下現在ノ製糖工場能力四千二百四十噸ヨリ推算スルニ本期ノ生産能力ハ猶

第六編 工業 第二章 製糖業



第六編 工業 第二章 製糖業

未々其七割内外ニ過キサルヲ以テ此ノ蔗作好況ノ機ヲ利用シ糖業者側ニ於テ原料作付ノ擴張及蔗園地ノ改良蔗苗ノ改良等極力其增收策ヲ講シタル結果蔗作ノ項ニ於テ述ヘタルカ如キ原料ノ増殖ヲ示シ次期ニ於ケル産糖額七千萬斤ヲ豫想セラルルニ至レリ

而シテ本期ニ於ケル各工場ノ操業狀況ヲ見ルニ前述ノ如ク原料増收ノ結果二三改良糖廠ヲ除キテハ各工場共順調ニ作業ヲ終了セリ只タ改良糖廠安部幸兵衛(現臺南製糖株式會社)十張製工場ニ於テ大正四年七月以降匪徒事件ニ依リ原料ノ收穫半減シタルト甲内埔支廠下ノ一舊式糖廠ニ於テ同様ノ被害ニ依リ遂ニ本期製糖ヲ休止スルノ止ムヲ得サルニ至リタル等ハ製糖事業上ニ於ケル支障ノ主ナル事項トス各製糖場ノ事業成績左表ノ如シ

第一表 製糖高表

製糖場區分	能力	作業日數	壓搾能力	產糖					計	砂糖歩留	備考
				第一種	第二種	第三種	第五種	計			
臺灣製糖株式會社 阿祿製糖所	1,000	181.11	6,884	11,400	1,200	1,200	1,200	15,000	92		
臺灣製糖株式會社 鹽水港製糖拓殖株式會社 旗尾工場	1,100	181.11	6,884	11,400	1,200	1,200	1,200	15,000	92		
計	2,100	362.22	13,768	22,800	2,400	2,400	2,400	30,000	92		
沖臺拓殖製糖株式會社 新成工場	500	51.10	3,442	5,700	600	600	600	6,900	92		
安部幸兵衛狗氣氣工場	500	51.10	3,442	5,700	600	600	600	6,900	92		
同内埔工場	500	51.10	3,442	5,700	600	600	600	6,900	92		
同十張製工場	500	51.10	3,442	5,700	600	600	600	6,900	92		
計	2,000	205.40	14,110	23,500	2,400	2,400	2,400	28,700	92		

第六編 工業 第二章 製糖業

第二表 製糖狀況表

製糖場區分	付原料面積	同上收量	支出金額	收入金額	差引△損益	備考
臺灣製糖株式會社 阿祿製糖所	85,999.9	3,908,110	1,705,896	2,202,214	496,318	
臺灣製糖株式會社 鹽水港製糖拓殖株式會社 旗尾工場	92,777.9	4,111,110	1,705,896	2,405,214	699,318	
計	178,777.8	8,019,220	3,411,792	4,607,428	1,195,636	
沖臺拓殖製糖株式會社 新成工場	11,111.1	3,888,000	1,705,896	2,182,104	476,208	
安部幸兵衛狗氣氣工場	11,111.1	3,888,000	1,705,896	2,182,104	476,208	
同内埔工場	11,111.1	3,888,000	1,705,896	2,182,104	476,208	
同十張製工場	11,111.1	3,888,000	1,705,896	2,182,104	476,208	
安藤改良糖廠	7,000.0	3,150,000	1,400,000	1,750,000	350,000	
臥龍改良糖廠	7,000.0	3,150,000	1,400,000	1,750,000	350,000	
計	68,000.0	23,100,000	10,000,000	13,100,000	3,100,000	



第六編 工業 第二章 製糖業

製糖場區分	付原料積	同上收量	支出金額	收入金額	差引	△損	△益	備考
-------	------	------	------	------	----	----	----	----

舊式糖廊六箇所	四一五八	三〇九七						
合 計	一七三六	五七九〇						

備考 原料作付面積中ニハ臺南廳下分ヲ含ム

臺東廳報告

製糖工場ハ臺東製糖株式會社ノ經營ニ係リ卑南新式工場一箇所及里壠支廳下ニ新開園改良糖廊一箇所成廣漢支廳下ニ廣繩産業合資會社ノ經營ニ係リ舊式糖廊五箇所直ニ巴厘衛支廳上ニ個人ノ經營ニ係リ舊式糖廊新設一箇所ニシテ臺東製糖株式會社卑南工場ニ於ケル製糖高ハ分蜜糖百二十九萬五千八百斤糖蜜三十四萬五千五百一十一斤新開園工場改良糖廊ニ於ケル赤糖四十一萬六千二百斤トシ舊式糖廊六箇所ニ於テ十九萬三千八百八十六斤トス尙臺東製糖株式會社ニテハ從來ノ里壠及新開園ノ二改良糖廊ヲ撤シ里壠庄ニ二百噸ノ新式工場設立ノ許可ヲ受ケタリシモ原料ニ尙不足ヲ告ケルノ虞アルヲ以テ本年ヨリ向三箇年間設立延期ノ許可ヲ受ケタリ

花蓮港廳報告

廳下ノ製糖ハ主トシテ鹽水港製糖拓殖株式會社ノ起業ニ係リ新式工場一箇所改良糖廊三箇所ヲ設立シ製糖ニ從事セシ以來生産高ハ著シク年々増加ナナセリ最近三箇年間ノ原料消費高及製糖高左ノ如シ

(在來四箇所ノ製糖高ヲ含ム)

年 期	原料消費高	製 糖		
		分 蜜	赤 糖	糖 蜜
大正三年	四六八五五元	三二八、一〇〇		一〇、〇〇〇
大正四年	六八、八〇〇元	三〇九、〇〇〇		一、四〇〇元
大正五年	八八、九四三元	三二七、八〇〇		一、〇〇〇元

第三章 糶摺及精米業

本業ハ年々進歩發達ノ氣運ヲ示シ舊式糶摺及精米法ハ漸次減少ノ傾向ヲ示シ同時ニ專業トシテ機械的作業ヲ營ムモノ累年増加ノ傾向アリ殊ニ近年泉式、芝浦及三相交流誘導電動機、岩田式汽機及アイターナル、システム石油發動機等ノ使用盛ナルニ至リシノミナラス各廳下ニ於ケル電力供給裝置ノ完成シタルニ次テ其動力ヲ利用スルモノ著シク増加スルニ至レリ今試ミニ動力ニヨリ本業ヲ營ム者ノ數ヲ掲クレハ左ノ如シ

糶摺業者數及使用動力二年對照表 (×ハ精米兼業)

廳 別	工場數	汽 力		五 斯 發 動 機		石 油 發 動 機		水 車 (内地本島形)		電 動 機		牛 力
		實馬力	實馬力	實馬力	實馬力	實馬力	實馬力	實馬力	實馬力			
臺 北	二八	×										
宜 蘭	二二	×										
桃 園	二二	×										
新 竹	八	×										
中 義	六	×										
嘉 義	二	×										

第六編 工業 第三章 糶摺及精米



大正四年	通計	花 蓮 港	阿 南	臺 南	汽 力		五 斯 發 動 機		石 油 發 動 機		水 車 (內地本島形)		電 動 機		牛 力
					臺數	實馬力	臺數	實馬力	臺數	實馬力	臺數	實馬力	臺數	實馬力	
一五八	二〇五	二〇五	一	六四	三八	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
		X													
		一九九													
		X													
		七六													
		X													
		一九三													
		X													
		七〇													
		X													
		一〇													
		X													
		七〇													
		X													
		一〇													
		X													
		一〇													
		X													
		一〇													
		X													
		一〇													
		X													
		一〇													
		X													
		一〇													
		X													
		一〇													
		X													
		一〇													
		X													
		一〇													
		X													
		一〇													
		X													
		一〇													
		X													
		一〇													
		X													
		一〇													
		X													
		一〇													
		X													
		一〇													
		X													
		一〇													
		X													
		一〇													
		X													
		一〇													
		X													
		一〇													
		X													
		一〇													
		X													
		一〇													
		X													
		一〇													
		X													
		一〇													
		X													
		一〇													
		X													
		一〇													
		X													
		一〇													
		X													
		一〇													
		X													
		一〇													
		X													
		一〇													
		X													
		一〇													
		X													
		一〇													
		X													
		一〇													
		X													
		一〇													
		X													
		一〇													
		X													
		一〇													
		X													
		一〇													
		X													
		一〇													
		X													
		一〇													
		X													
		一〇													
		X													
		一〇													
		X													
		一〇													
		X													
		一〇													
		X													
		一〇													
		X													
		一〇													
		X													
		一〇													
		X													
		一〇													
		X													
		一〇													
		X													
		一〇													
		X													
		一〇													
		X													
		一〇													
		X													
		一〇													
		X													
		一〇													
		X													
		一〇													
		X													
		一〇													
		X													
		一〇													
		X													
		一〇													
		X													
		一〇													
		X													
		一〇													
		X													
		一〇													
		X													
		一〇													
		X													



總計	花 蓮	阿 東	嘉 南	嘉 義	精		米	
					戶 數	職 工 數	價 額	量
大正四年	1,118	1,211	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111
大正三年	1,118	1,211	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111
大正二年	1,118	1,211	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111
大正元年	1,118	1,211	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111
明治四十四年	1,118	1,211	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111

尙參考ノ爲メ各廳ノ報告ヲ摘録スレハ左ノ如シ

臺北廳報告

稻摺業ハ月數四十九職工百七十二名アリテ廳下各地ニ散在スレトモ大稻埕、淡水、枋橋、新店、錫口等ヲ主ナル地トス本業ハ從來人力ヲ動力トスル土墾ヲ用ヒシニ近年米國式稻摺器ノ輸入セラレ該器ノ作業迅速ニシテ且ツ經濟的ナルヲ知ルニ及ヒ各地ニ觀望セラレ廳下大稻埕、枋橋、新店、淡水、枋橋等ノ稻摺業者ハ多ク之ヲ使用セリ而シテ之レカ動力ハ主ニ電力ヲ用ヒ普通(一馬力一日十時間)一臺ニ付四人ノ人夫ヲ要シ一日五十四石ヲ摺リ得其ノ能力ノ大ナル土墾ト比スヘキニアラス本年ノ稻摺額ハ十一萬五千七百二十八石ニシテ前年ニ約倍加セリ

宜蘭廳報告

廳下ニ於ケル本業ノ趨勢ハ漸次自家用稻摺並ニ精米業者ハ減少シ同時ニ專業ノ經營者増加スル傾アリ從來機械從業者ハ四箇所ニ過キサリシモ本年中ニ於テ新タニ設立セルモノ宜蘭頭圍ノ兩街及頂清水庄蘇港庄ニ各一箇所羅東街ニ二箇所計六箇所及動力ヲ機械ニ變更セルモノ二箇所合計八箇所ノ増加ヲ見ルニ至レリ而シテ是等ハ何レモ本島人米商業主土墾業者數名ノ共同經營ニシテ多管式蒸汽(Steam)同式又ハ岩田式蒸汽機(Steam)ヲ設備シ之ニ岡田式精米機三乃至四臺米國式稻摺機二乃至四臺ヲ据付ケ以テ各所相競フテ業務ノ擴張ニ努メツアリ是等機械ハ一日十時間作業精米十石摺日名ノ能力ヲ有セリ然リ而シテ本年中ニ於ケル廳下本業ノ狀況ヲ前年中ノ事實ニ比スレハ左ニ表示スルカ如ク稻摺ニ在リテハ月數ニ於テ二月數量ニ於テ六萬二千八百七十六石價額ニ於テ四十八萬圓七十二錢ヲ激増シ精米ニ於テ月數二月數量五千三百六十二石價格三千四百四十二圓ヲ増加シ今後益々其況ニ向ハントスル傾向ヲ示セリ

桃園廳報告

機械的稻摺及精米ハ益其ノ數ヲ増加シ年未現在二十四箇所生産玄米石數二十八萬四千七百九十五石精米石數三萬九百十四石前年ニ比シ十七萬七千七百七十一石精米一萬一千八百八十八石ヲ増加セリ時世ノ進運ニ伴ヒ今後廳下ニ電動力ノ普及セラルルノ日ハ益々新業ノ發達ヲ見ルニ至ルハシ

新竹廳報告

本業ハ近年頗ル發達シ從來ノ舊式ノ足踏又ハ水車ニ依ル精米業ハ漸次減少シ機械的作業ヲ營ム專業者累年増加ノ趨勢ナリ蓋シ同業者ノ増加ハ自然競爭ノ狀態ニ陥リ相互ノ收益ヲ減殺スルニ至リタルヲ以テ漸次合同其ノ他ノ組織ニ依リ新設制限スルノ傾向アリ

年 別	精		米	
	戶 數	職 工 數	價 額	量
大正三年	1,118	1,211	1,111	1,111
大正四年	1,118	1,211	1,111	1,111
大正五年	1,118	1,211	1,111	1,111



第六編 工業 第三章 粗摺及精米

臺中廳報告 粗摺ハ從來人力ニ依リシカ近來水力電力等ニ依リ器械ヲ運轉スルモノ漸ク多キヲ加ヘ精米ハ水車又ハ電力ニ依ルモノ多ク地方需用ヲ充スノ外管外へ移出スルモノ多キニ至レリ  
嘉義廳報告 廳下ニアリテハ精米業ハ多ク粗摺業ノ兼營ニ係リ間々專業ノモノヲ見ルモノアリ

年次	粗			精		
	戸數	職工數	價額	戸數	職工數	價額
大正三年	1,174	4,010	1,471,125 石	4,351	9,331	11,214,474 石
大正四年	1,180	5,151	1,870,911 石	4,811	10,000	13,070,000 石
大正五年	1,112	5,111	1,811,010 石	5,111	10,000	13,070,000 石

臺南廳報告 粗摺業者ハ前年ニ比シ工場數及其生産價格共増加ヲ示セルモ精米業ハ反テ減少セリ即チ左表ノ如シ

年次	粗			精		
	戸數	職工數	價額	戸數	職工數	價額
大正四年	1,155	1,010	1,150,000 石	1,180	5,101	1,150,000 石
大正五年	1,121	1,121	1,121,000 石	1,121	5,101	1,121,000 石

阿緬廳報告 廳下産業ノ大宗ハ米作ナルカ故ニ從テ粗摺精米工業ハ小規模ナカラモ其ノ發達ヲ見廳下主要工業ノ一タルヲ失ハス  
本年中操業セシ戸數粗摺八十四戸石數二十一萬六千五百五十三石精米五十七戸石數三萬八千二百二十二石ナリ之ヲ前年ト對照セハ左ノ如シ

大正五年粗摺精米表

第四章 製茶業

本年ノ春季ハ天候不順ニシテ雨量多ク産額前年ニ比シ幾分減少セルカ夏秋兩季ハ暴風雨ノ襲來ナク氣候適順ナリシ爲メ主産地タル桃園廳下ヲ初メトシ各産茶地ハ何レモ製造戸數ト産額ヲ増加シ結局生産額前年度ニ比シ一籌ヲ輸シタレト平年作以上ノ收穫ヲ上ケ品質良好ナルヲ得タリ本期取引狀況ハ春茶ハ價格頗ル好況ニシテ百斤平均二十二三圓見當ヲ唱ヒ一方山方ニ於ケル茶販賣人ハ先高ヲ見越シ賣惜ミノ狀アリシモ夏茶出廻期ニ至リ船腹不足ノ爲メ滞貨甚タシク需要地品薄ヲ報シタルニヨリ漸ヤク之カ船線ヲ爲シタルニ却ツテ反動的下落ヲ喚起シ年末ニ迫ヒ商狀稍恢復シ一高一低ノ曲折ヲ經タレトモ比較的好況ノ裡ニ取引終了ヲ告ケタリ其産額即チ左ノ如シ

年次	粗			精		
	戸數	職工數	價額	戸數	職工數	價額
大正四年	1,155	1,010	1,150,000 石	1,180	5,101	1,150,000 石
大正五年	1,121	1,121	1,121,000 石	1,121	5,101	1,121,000 石

本表精米戸數ノ激増ハ粗摺業トノ兼業ヲ別戸ニ計上セルカ爲ナリ

粗茶製造戸數及産額別表



廳別	製茶				數量	價額
	春	夏	秋	冬		
嘉南	11,811	11,811	11,811	6,405	45,000	9,700
桃宜	9,511	9,511	9,511	5,200	11,111	22,800
新桃	5,801	5,801	5,801	3,000	1,800,000	3,700,000
宜	5,801	5,801	5,801	3,000	1,800,000	3,700,000
計	33,924	33,924	33,924	17,605	1,111,111	2,300,000
大正四年	11,811	11,811	11,811	6,405	45,000	9,700
大正三年	11,811	11,811	11,811	6,405	45,000	9,700
大正二年	11,811	11,811	11,811	6,405	45,000	9,700
大正元年	11,811	11,811	11,811	6,405	45,000	9,700
明治四十四年	11,811	11,811	11,811	6,405	45,000	9,700

粗茶ノ産額及品質ハ較上ノ如クナルカ其製造方法ハ漸次改良ノ域ニ進ミ進歩ノ氣運ニ嚮ヒ一般山方製茶業者ハ先年來試用セル揉捻機ノ成績良好ニシテ之カ實益ヲ確知シタルカ爲メ之ヲ購入使用スル者累年増加ノ傾向ヲ示シ現在該機使用臺數九百六十臺ニ上リ其他炒蒸機、茶凋機等ニ於テモ著シキ増加ヲ示シツツアレハ將來本業改良上最モ好望ノ趨勢ニアリ機械使用數左ノ如シ

新式製茶機械使用數廳別表

廳別	製茶				數量	價額
	春	夏	秋	冬		
嘉南	11,811	11,811	11,811	6,405	45,000	9,700
桃宜	9,511	9,511	9,511	5,200	11,111	22,800
新桃	5,801	5,801	5,801	3,000	1,800,000	3,700,000
宜	5,801	5,801	5,801	3,000	1,800,000	3,700,000
計	33,924	33,924	33,924	17,605	1,111,111	2,300,000
大正四年	11,811	11,811	11,811	6,405	45,000	9,700
大正三年	11,811	11,811	11,811	6,405	45,000	9,700
大正二年	11,811	11,811	11,811	6,405	45,000	9,700
大正元年	11,811	11,811	11,811	6,405	45,000	9,700
明治四十四年	11,811	11,811	11,811	6,405	45,000	9,700

烏龍茶及包種茶再製茶戶數及産額廳別表

只市場搬出ノ製茶ノ大部分ハ舊式製法ニシテ未タ機械製茶ト鑑別シ得ル迄ニ特色ヲ發揮セシムルニ至ラサルハ遺憾ナリトス  
製茶再製業ハ春茶ノ出廻リ後レタル爲メ四月下旬ヨリ新茶ノ買入ト製培ニ著手シ取り急キ製茶ヲ爲シタル爲メ五月中旬ニハ既ニ全部營業ヲ開始スルニ至レリ而シテ烏龍茶ハ米國市場繁盛ノ爲メ前年度ニ比シ數量幾分劣レリト雖モ價額ハ略々同シカリシカ包種茶ハ爪哇市場變動甚タシカリシニ依リ數量ニ於テ四十五萬餘斤ノ增收ヲ擧ケタレト價額ニ於テ却ツテ三十七萬餘圓ノ減退ヲ示セリ  
今本年期ニ於ケル烏龍茶包種茶及再製業者ノ戶數及再製高ヲ示セハ左ノ如シ



















第六編 工業 第四章 製茶業

年次	製茶機	釜炒機	揉捻機	玉解機
明治四十四年	100	100	100	100
大正元年	100	100	100	100
大正二年	100	100	100	100
大正三年	100	100	100	100
大正四年	100	100	100	100
大正五年	100	100	100	100

粗製茶

年次	數量	價格
大正元年	11,118,902	2,440,258
大正二年	11,837,858	2,362,901
大正三年	15,186,029	2,906,750
大正四年	18,387,610	3,772,858
大正五年	18,859,238	3,808,340

再製烏龍茶 烏龍茶再製業ハ四月下旬ヨリ新茶ノ買入ト製焙ニ著手シ爾來順調ナ呈シ冬茶ノ終了期迄概シテ活勢ヲ持續シ其再製月數ハ四月再製高ハ四十九萬四千五百三十二斤價格十五萬四千八百九圓ニシテ將來粗製茶ノ増加ト共ニ產額増加ノ傾向アリ紅茶 日本臺灣茶株式會社ノ製造スル所ニシテ其作業狀況ハ前年ト異ナルコトナリ近來品質向上ニ就キ深ク研究ヲ重ネツツアルヲ以テ優秀品ヲ產出セリ  
本年申ノ製造高ハ十九萬七千七百六十二斤價格四萬四千二百四十八圓ナリ

新竹廳報告

農民主要ノ副業トシテ輸出向烏龍茶包種二種粗製ヲナスモノ及臺灣製茶株式會社三又河工場ニ於ケル粗製再製ヲ其ノ主ナルモノトス而シテ山方茶園ハ漸次擴張セラレ其產額又累年増進ノ趨勢ナリ蓋シ本期ハ需要地ニ於ケル消費狀況良好ナリシモノノ如ク取引商狀旺盛ニシテ之カ製造前年ニ比シ多增加ヲ示セリ即チ左ノ如シ

年別	數量				價格			
	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬
大正三年	55,886	58,119	58,048	11,118	10,944	8,185	6,788	10,801
大正四年	61,010	58,921	58,338	11,838	11,807	9,484	5,884	11,111
大正五年	65,464	58,921	58,921	11,838	11,838	10,101	5,884	11,111

日本臺灣茶株式會社三又河工場春茶期ニ於ケル生茶買收ハ三月十一日ニ始マリ五月二十日ヲ以テ終了ス蓋シ此間買收總量ニ十萬七千二百二十四斤ハ前年同期ニ比シ八萬五千六百四十四斤餘ノ増加ナリ是レ春期以來氣溫順調ニシテ茶葉發育良好ナリシト一面一、二兩月ニ茶園二十一甲餘買收アリシカ大正二、三年度ニ涉リ植付茶樹四十甲餘ノモノ今ヤ甲當リ二三百斤ヲ摘採シ得ルニ至レルト其他數年來廢園同様ノ茶園約五十六甲餘ヲ手入レシ相當摘採量ヲ増加セシカ爲メナリ  
夏茶期ニ於ケル茶買收ハ五月二十一日ニ始アリ八月二十日ヲ以テ終了ス此ノ間買收日數ハ十四日間ニ於ケル生茶買收總量ニ十一萬九千九百一十一斤ハ前年同期ニ比シ十二萬七千二百七十七斤ノ増加ナリ  
秋茶期ニ於ケル茶買收ハ八月二十一日ヨリ十月十日ニ至ル買收日數四十六日間ニ於ケル買收生葉十五萬七千八百四十斤ハ前年同期ニ比シ三萬九千八百三十四斤ノ増加ナリ今月別生葉買收額並製造高ヲ表示セハ左ノ如シ



第六編 工業 第四章 製茶業

月別	生業	斤量	價	額	粗製出來	高
三月		11,838,100		1,183,810		211
四月		10,848,500		1,084,850		11,040
五月		14,948,000		1,494,800		11,040
六月		11,035,000		1,103,500		11,040
七月		10,688,000		1,068,800		11,040
八月		10,688,000		1,068,800		11,040
九月		10,688,000		1,068,800		11,040
十月		9,868,000		986,800		11,040
計		111,488,000		11,148,800		11,040

而シテ從來粗製ノミノ當工場ハ本年ニ入り再製業ヲ兼營スルニ至レリ粗製ノミヲ以テ甘スレハ自作茶園以外ノ原料供給ハ目下不可能ナルノミナラス原料供給不足ハ以テ時々午前中ニ止マルコトアルニ反シ再製業ヲ兼營スルニ到レハ原料ノ供給充分ナルト一面原料場洩レ如何ニ依リ機關部及從事職工ヲ有效ニ而モ經濟的ニ使用セラレ自然生産費降下ヲ見、經營狀況良好トナルナリ今本年度ニ於ケル再製茶搬出ヲ月別ニ表示セハ左ノ如シ

月	割	箱	數	總封度數	月	割	箱	數	總封度數
三月			3,610	36,100	三月			1,500	15,000
四月			3,300	33,000	四月			6,400	64,000
五月			5,810	58,100	五月			5,950	59,500
六月			5,810	58,100	六月			1,180	11,800
七月			5,810	58,100	七月			1,180	11,800
八月			5,810	58,100	八月			1,180	11,800
九月			5,810	58,100	九月			1,180	11,800
十月			5,810	58,100	十月			1,180	11,800
計			51,080	510,800	計			11,880	118,800

本期春茶ハ百斤二十三圓臺ノ高値ニテ取引セラレ其ノ數量又前年ニ比シ多大ノ増加ヲ示シタルカ夏茶期ニ至リ大稻埕ノ滞貨増加並船腹不足ト相俟テ茶價ノ下落ヲ來シ一方山方ニ於ケル茶販人ハ先高ヲ見越シ賣惜ミノ結果取引商狀閑散トナリシモ秋季ニ至リ再ヒ十七圓臺ハ十九圓臺ニ向上シ商狀漸次回復シタレハ冬季ニ至リ稍順調ナル取引商狀ヲ呈シタリ

臺中應報告 葫蘆墩、沙鹿、東勢角支廳下ニ於テ產ス望月式機械ヲ用ヒテ製造ス其他苗栗三堡月眉庄方面ニ於テハ舊來ノ製法ニ依リテ製造ス栽培甲數ノ減少ニ伴ヒ產額幾分ノ減少ヲ見タリ

南投應報告 廳下ニ於ケル製茶工業ハ茶業者各自ニ於テ在來法又ハ新式機械ニ依リ製造スルニ過スシテ從テ大產出ヲナスモノナシ而シテ本年ニ於テ廳下ヨリ產出シタル製茶ハ四十六萬千八百六十二斤ニシテ其價格十二萬四千六百四十四圓トス之ヲ前年ニ比ストキハ數量三萬四百四十二斤ノ減少ヲ來セリ之レ發芽期ニ於ケル製茶ノ價格好真ナルニ本ツキ前年ニ比シ五千六百十二圓ノ增收ヲ得タリ

第五章 酒造業及酒精製造業

本島酒造業ハ年々發達ノ氣運ニ向ヒツツアリテ從來個人經營ノモノモ漸次合資若シクハ組合トシテ組織合同ナルルニ至レリ而シテ酒造業ノ大部分ハ支那酒ナレトモ臺北廳下ノ芳釀社ニテ清酒ヲ釀造シ初メテヨリ年々其品質ヲ改良シ產額ヲ増加スルニ至レリ而シテ本島人ノ嗜好モ向上ノ途ニアリテ需要増進ノ傾向アリ



酒精製造業ハ其發展ノ最モ顯著ナルモノニシテ各地各工業ノ旺盛ナル需要ニ對シ原料糖蜜豊富ナルガ爲メ供給ニ差闕フル無ク本年ノ生産高ヲ前年ノ其ニ比較スレハ實ニ二萬八千六百餘石ノ増加ヲ告ケ總産額約六萬五千石ニ達スルノ盛況ニアリ酒精工場ハ十箇所アリテ就中阿緞廳ノ臺灣製糖株式會社阿緞酒精工場ノ如キハ二萬餘石ノ製造ヲ爲シ大正三年度ニ於ケル本島總産額一萬四千石ヲ超スコト六千石ニ及フ其他嘉義廳管内ノ臺灣製酒株式會社、明治製糖會社ノ約二萬五六千石其他新高製糖ノ七千五百石等頗ル顯著ナル成績ヲ示セリ即チ左ノ如シ

酒類製造石數廳別表

廳名	釀造酒	蒸餾酒	再造酒	合計
臺北	5,700	11,870	6,880	24,450
宜蘭	—	8,920	8,880	17,800
桃園	—	8,880	8,880	17,760
新竹	—	9,000	—	9,000
臺中	—	9,900	—	9,900
南投	—	11,100	—	11,100
嘉義	—	11,100	—	11,100
臺南	—	11,100	—	11,100
阿緞	—	11,100	—	11,100
合計	—	80,760	25,560	106,320

酒精製造石高表

廳名	大正五年度	大正四年度	大正三年度	大正二年度
臺北	15,197	11,111	8,880	8,880
宜蘭	17,760	11,111	11,111	11,111
嘉義	17,760	11,111	11,111	11,111
臺南	17,760	11,111	11,111	11,111
阿緞	17,760	11,111	11,111	11,111
合計	86,237	56,655	43,394	43,394

尙參考ノ爲メ各廳ノ報告ヲ掲クレハ左ノ如シ

臺北報廳告 酒造、釀造酒業ハ臺北ニ七月某日ニ四月アリ職工二百二十名ヲ有シ清酒四千九百八十二石濁酒百十七石紹興酒六百

三十三石ヲ産ス其主ナル工場ハ日本芳釀株式會社トナス資本金百三十萬圓ニシテ年中釀造ヲナシツツアリ



第六編 工業 第五章 酒造業及酒精製造業

蒸餾酒業各地ニアリテ戸數三十三職工二百八十八ヲ有ス米酒八千五百石、蕃薯酒一千三十五石、糖蜜酒四百四十石、燒酎二百五石泡盛二千六百七十七石計一萬二千八百五十七石ヲ産ス再製酒業ハ殆ント蒸餾酒業者ノ兼營ニシテ戸數三十一職工三百十六名アリ産額六千九百八十五石ニシテ内五千七百九十五石ハ紅酒トナシ他ハ少量ノ藥酒、栗仔酒、白酒、烏豆酒、味淋等ナリ廳下製酒業ハ近年著シク發達シ日本芳釀株式會社製出ノ胡蝶蘭ノ如キハ内地製清酒ニ遜色ナキニ至リ一般ニ愛用セラレ需要益々多キヲ加フ

宜蘭廳報告

廳下ノ製酒業ハ近來其ノ發達ノ跡頗ル見ルヘキモアリ即チ現在ノ營業者ハ宜蘭、羅東、叭哩沙、利澤簡、蘇澳、大溪ノ六公司ノ各工場及宜蘭製酒公司頭園分工場トノ七箇所ニシテ蘇澳及大溪ノ兩公司ハ内地人及本島人ノ共同經營ナルモ其ノ他ハ何レモ本島人ノミノ經營ニ係リ專ラ米酒、紅酒、藥酒ノ如キ本島酒ノ製造ヲ爲シツツアリ獨リ羅東公司ニ於テハ前年ニ引續キ泡盛及味淋酒ノ製造販賣ヲ爲セシニ相當ノ實行アリシノミナラス臺灣勸業共進會ニ出品シ各銀賞牌ヲ受領スル等其成績至テ良好ナリシモ工場ノ都合上一時之カ製造ヲ中止セリ而シテ一方本島酒ハ各工場共其品質良好ニシテ是亦前記共進會ニ於テ何レモ銀賞或ハ銅賞ヲ受領シ殊ニ宜蘭製酒公司出品ノ紅酒ハ金賞牌ヲ受領セシ爲人氣頗ニ加ハリ臺北大稻埕、淡水、基隆、桃園、新竹地方ニ向テ販賣特約店ヲ設ケ盛ニ販路ノ擴張ニ努メ更ニ九月ニ入りテハ對岸廈門へ輸出ヲ試ミシニ是亦彼地ノ人氣ニ投合シ特約店ノ申込ヲ受ケル等頗ル好況ナリ之カ爲各公司ハ相競フテ品質ノ向上ヲ謀リ且製造高ヲ增加シ販路ノ擴張ニ努力シツツアリ本年中ニ於ケル實況ハ米酒八千五百二十二石價額十三萬四千四百八十七圓餘紅酒三千八百五十四石價額十二萬八千六百九十四圓餘合計一萬一千九百六十六石價額二十六萬三千八百八十一圓餘ニシテ之ヲ前年ノ實績ニ比スレハ紅酒ニ於テ七百二十五石米酒ニ於テ百五十四石總價格ニ於テ四萬八千六百六十六圓餘ノ激增ヲ見ルニ至レリ即チ左ニ表示スルカ如シ

大正五年 中酒類製造石數對照表(△印ハ減)

Table with columns for Year (大正五年, 大正四年), Quantity (數量), Price (價), Amount (額), and Total (計). It compares production of rice wine (米酒) and red wine (紅酒) between the years 1916 and 1915.

桃園廳報告

酒類ハ本島人生活程度ノ向上ニ伴ヒ再製酒殊ニ紅酒ノ需要ヲ激增シ從テ品質ヲ改良シタリ年末製造戸數十四戶蒸餾酒四千四百八十七石餘再製酒三千二十一石餘總價格十八萬二千八百圓餘ニシテ前年ニ比シ著シク產額ヲ增加シタリ白柚紅柚ノ製造所ハ六箇所ニシテ其ノ生産高前年ニ比シ大差無シ

新竹廳報告

酒造業ハ累年發達ノ傾向ヲ示シ從來ノ個人經營ノモノモ漸次合同其ノ他ノ組織ニヨリ大規模トナリ製造法亦改善ノ趨勢ナリ蓋シ右酒造業者ハ本島産内地酒造者一名ヲ除ク外何レモ本島酒ノ製造ニ從事セルモノニシテ其ノ本期ニ於ケル之カ製造ハ米價ノ下落ヲ告ケタルニ不拘需要少シモ減セサル狀ヲ呈シタレハ前年ニ比シ數量ニ於テ稍減セシモ價額ノ増大ヲ告ケタリ今之カ產額ヲ表示セハ左ノ如シ

Table with columns for Year (大正五年, 大正四年, 大正三年), Quantity (數量), Price (價), Amount (額), and Total (計). It compares production of brewed wine (釀造酒), re-manufactured wine (再製酒), and distilled wine (蒸餾酒) between the years 1916, 1915, and 1914.

臺中廳報告

人口増加ニ伴ヒ酒類ノ需要ヲ増シ好況ヲ呈ス酒精ハ歐洲戰亂ノ餘波ヲ受ケ是亦需要増加シ好況ヲ示セシカハ大正製



第六編 工業 第五章 酒造業及酒精製造業

酒株式會社臺中工場及新高製糖株式會社ニ於テハ盛ニ製造ヲナセリ

南投廳報告

管内ノ釀造業者ハ十四ニシテ孰レモ舊式機械ニ依リ酒造ス本期ニ於ケル造石高蒸餾酒五、四四一石再製酒一、三八四石釀造酒六六石ニシテ前年ニ比シ蒸餾酒ハ五七二石ヲ減シタルモ再製酒ニアリテハ一、三七七石ヲ増加セリ是等酒類ハ概シテ地方消費ニ供給スルモノニシテ從來甘蔗酒ノ需要多カリシモ一般嗜好ハ米酒ニ傾キ原料米ノ價格低廉トニ依リ其製造ニ便宜ヲ得益々地方的ニ發展スルノ機運ニ際セリ

嘉義廳報告

戰亂勃發ノ影響ヲ受ケ俄カニ其ノ組織並工場ヲ擴張シ來リタルハ酒精工業トス斯業ハ豐富ナル糖蜜ヲ利用スル工業ニシテ從來之レカ製品ハ主トシテ火藥製造ニ供給セシモノナルカ最近ニ至リ其販路ヲ海外ニ求メ飛躍ヲ試ミツツアリ

酒類ハ專ラ管内若クハ島内各地ニ供給スル目的ニテ在來ノ釀造法ニ依リ小規模ニ製造スルモノト前記酒製工場ニ於テ兼營スルモノトアリ而シテ本年ノ生産總石數ハ糖蜜酒ノ生産減少ニ基キ前年ヨリ三千七十五石ヲ減スルニ至リシカ酒精ノ生産ノミニツキ對比スルトキハ前年ノ一萬七千二百四十八石ニ對シ三萬二千三百三十一石ニシテ一萬五千八十三石ヲ増加セリ尙工場數ノ減少ハ漸次基礎確實ナルモノニ併合セラルル傾向ニアリテ反ツテ斯業ノ進運ヲ知ルニ足ル

製酒業消長

年 別	釀 造 酒		蒸 餾 酒		再 製 酒	
	戶數	職工產額	戶數	職工產額	戶數	職工產額
大正三年	三	三石	一	一石	五	六〇八石
大正四年	一	一石	一	一石	四	二一八石
大正五年	二	二石	一	一石	五	二一八石

臺南廳報告

内地移入酒ノ騰貴セル爲メ島内需要者ハ比較的廉價ナル島内品ヲ消費スルモノ増加シタル結果釀造酒ハ製造戶數及生産額ニ於テ増加ヲ見タリ尙本島式蒸餾酒及酒精製造ハ主要原料トシテ糖蜜ヲ使用スルヲ以テ糖蜜ノ豐富ナルニ從ヒ之亦製

造戶數及其產額ヲ増加セリ酒精ノ如キハ二工場ニ於テ殆ント全能力ヲ發揮シテ產出スルカ故ニ著シキ増額ヲ示シ前年ノ約三倍ヲ生産セリ今各酒別產額ヲ舉グレハ左ノ如シ

年 次	釀 造 酒		蒸 餾 酒		再 製 酒		價格計
	戶數	產額	戶數	產額	戶數	產額	
大正四年	三	三石	一	一石	五	六〇八石	四九七石
大正五年	二	二石	一	一石	五	二一八石	二〇九石

但蒸餾酒ノ内酒精ニ付テ別記スレハ

前年一月三千三百三石 此價額十四萬九千九百三十二圓ナリニ對シ本年ハ二月九千七十七石 此價額二十一萬五千六百五十六圓ナリ

阿緞廳報告

大正五年度酒類釀造高

種 類	大 正 四 年		大 正 五 年	
	戶數	職工產額	戶數	職工產額
釀造酒	二	二石	二	二石
蒸餾酒	一〇一	一〇一石	一〇一	一〇一石
再製酒	一	一石	一	一石
計	一〇四	一〇四石	一〇四	一〇四石

本表中大正五年ノ釀造戶數三十八戶ハ各種兼管ヲ別戶ニ計上セルカ故ニ實際ノ釀造戶數ハ二十五戶ナリ

酒精工場ハ高砂酒造株式會社ノ後身タル赤司製酒工場及臺灣製糖株式會社阿緞酒精工場ノ二箇所ナリ歐洲戰亂ノ影響ヲ受ケ酒精ノ販路益々擴張シ價額モ亦昂騰セルヲ以テ全能力ヲ發揮シ大規模ニ製造セシ結果其ノ製造高二萬二千九百四十六石三斗

第六編 工業 第五章 酒造業及酒精製造業



第六編 工業 第五章 酒造業及酒精製造業

四升七合ニシテ前年ノ一萬六千三百十九石三斗五合ニ比シ六千六百二十七石餘ノ増加ナリ大部分ハ臺灣製糖株式會社阿嶺工場ノ製造ニ係リ赤司工場ノ製品ハ内二千九百四十八石餘ニ過キス  
臺東廳報告 廳下ニ於テ製造スル酒類ハ蒸溜酒ノミニシテ廣郷産業合資會社其他個人經營ノモノ等六箇所ニシテ本年中製造セル種類數量ハ左記ノ如シ

酒名	製造高	酒名	製造高
米酒	四九九・五七四	藥酒	四・七三二
池盛酒	二二五・九六八	糯米酒	二・三二九
糖蜜酒	九六七・四三五	計	一、七〇八・二六三
砂糖酒	八・二二五		

花蓮港廳報告 最近三箇年ニ於ケル工場數及生産額

年別	工場數	生産量	生産額
大正三年	九	三、五九七	一〇二、四六八
大正四年	九	五、四八一	一〇五、七六〇
大正五年	九	四、四四五	一一三、五八〇

澎湖廳報告 蒸溜酒

製造月數	職工數	生産量	生産額
十二月	十二人	千二百三十七石	二萬七百八十八圓

第六章 製油業

本島ニ於ケル製油原料ノ主ナルモノハ落花生及胡麻ニシテ菜子之ニ亞キ其主産地トシテハ新竹、臺中、嘉義、臺南及臺北ノ各廳管内ナリトス、由來本島人ハ日常食料トシテ油類ヲ消費スルコト多大ナルヲ以テ全島到ル處ニ多少ノ産出ヲ見サルナシト雖モ未タ以テ島内ノ需要ヲ充スニ足ラス而シテ本年ノ製油産高ヲ見ルニ落花生油ノ産高前年ニ比シ約二十萬斤ノ減退ヲ見タルカ胡麻油ニ於テ約五十萬斤、其他ノ油ニ於テ約五十四萬斤ヲ何レモ増加セリ殊ニ後者ノ増加ハ顯著ニシテ十倍以上ニ達セリ是レ臺北廳下ニ於ケル菜種ノ増産ニ因ルモノニシテ尙ホ油糟ニ於テモ亦其ノ増加ヲ見タリ而シテ本年製油ノ産額及價額ヲ示セハ左表ノ如シ

製油戶數及産額別表

廳別	製造戶數	産額(斤)			價額(圓)		
		花生油	胡麻油	其他油	花生油	胡麻油	其他油
臺北	105	11,110	1,110	1,110	111.1	111.1	111.1
宜蘭	1	100	100	100	100.0	100.0	100.0
桃園	1	100	100	100	100.0	100.0	100.0
新竹	1	100	100	100	100.0	100.0	100.0
臺中	1	100	100	100	100.0	100.0	100.0
南投	1	100	100	100	100.0	100.0	100.0
合計		11,410	1,410	1,410	114.1	114.1	114.1

第六編 工業 第六章 製油業



年別	製造者	產額(斤)				價額			
		花生油	胡麻油	其他油	計	花生油	胡麻油	其他油	計
大正四年	1,000,000	1,000,000	1,000,000	3,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	300,000,000	
大正三年	1,000,000	1,000,000	1,000,000	3,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	300,000,000	
大正二年	1,000,000	1,000,000	1,000,000	3,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	300,000,000	
大正元年	1,000,000	1,000,000	1,000,000	3,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	300,000,000	
明治四十四年	1,000,000	1,000,000	1,000,000	3,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	300,000,000	

尙參考ノ爲メ各應ノ報告ヲ掲クレハ左ノ如シ

臺北廳報告 製油業ハ落花生油、胡麻油ヲ主トシテ殆トシテ下ニ製造シテ戶數五十五ノ多キニ達スルモ悉ク家内工業ニ屬ス且ツ其ノ多クハ兼業者ニシテ舊來ノ製法ヲ墨守シ産額極メテ微縮ナルモ前年ヨリ稍々増加シ落花生油、四萬一千四百六十九斤價額

約八千圓胡麻油五萬三千二百斤價額約一萬五千圓ヲ産ス茶油ハ小基隆及水返脚ニ各一製造者アルモ落花生及胡麻油製造者ノ兼營トス産額ハ僅カニ八百五十七斤價額二百五十八圓ニシテ前年ヨリ減少セリ大豆油製造ハ昨年末基隆在住者藤田伊奈助ナ

桃園廳報告

酒類ハ本島人生活程度ノ向上ニ伴ヒ再製酒殊ニ紅酒ノ需要ヲ激増シ品質ヲ改良シタリ年末製造戶數十四戶蒸餾酒四

年別	製造者	產額(斤)				價額			
		花生油	胡麻油	其他油	計	花生油	胡麻油	其他油	計
大正五年	1,000,000	1,000,000	1,000,000	3,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	300,000,000	
大正四年	1,000,000	1,000,000	1,000,000	3,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	300,000,000	
對前年增減									

大正五年 中製油産額對照表(△印ハ減)

ルモノ同地田登港庄ニ工場ヲ設ケ原料大豆ハ滿洲ヨリ仰キ之カ製造ニ從事セルカ相當ノ好果ヲ擧ケ本年油五十二萬九千九百五十三斤價額六萬八千九百圓ヲ得タリ尙大豆油積ハ五百五十二萬二千七百七十五斤價額十六萬八千三百圓アリテ肥料トシテ賣行良好ナリ將來有望ナル事業ノ一トシテ世人ノ矚目ニ値ス又來年度ニ於テハ事業ヲ擴張シ株式組織ニナサント奔走中ナリ

宜蘭廳報告

年々二十萬斤以上ノ管外搬出ノ餘力ヲ有シ且ツ他廳下産ニ比シ其品質佳ナルノ由緣ヲ以テ從來一般ニ歡迎セラレツツアリシ廳下産落花生油ハ比年其ノ需要ヲ激増シ來リ宜蘭物産組合ノ如キハ本年モ引續キ專賣局ハ十五萬斤ノ納品ヲ爲シ一面工場ノ擴張ヲ行ヒ精米ニ使用スル蒸氣動力ノ一部ヲ製油ニ割用シ以テ機械的搾油ヲ爲シ其他ノ工場ニ於テモ能力ノ發揮ニ努メ何レモ多數先キ注文ヲ受ケ之カ製造ヲ爲セシ實況ニシテ市價爲メニ騰貴シ一時百斤當二十一圓強ヲ唱フルニ至リ賣品ニ拂底ヲ告グルコト屢々ナリキ而シテ本年ノ製油産高ヲ見ルニ前年ニ比シ胡麻油ハ五百十斤ヲ増加セシモ落花生油ハ十八萬七千四百三十斤ヲ減シ總産高四十三萬六千八百十斤ヲ示セリ之レ主トシテ作付面積九十餘甲ヲ減シタルト落花生仁ノ需要多ク管外ニ搬出スルモノ増加シタル爲原料ノ騰貴ヲ誘致シタルトニ因ルモノノ如シ今左ニ前年トノ比較ヲ表示セン



第六編 工業 第六章 油業

造所ハ六箇所ニシテ其ノ生産高前年ニ比シ大差無シ

新竹廳報告

廳下ノ製油業ハ落花生胡麻菜種ヲ主要原料トシテ主トシテ日常食料ニ供セラル而シテ本年ニ於ケル之カ産額ハ落花生油四三〇、九五八斤胡麻油二九、三五六斤菜種油五、九六〇斤ニシテ何レモ前年ニ比シ多大ノ増加ヲ示セリ之レ財界振興ニ依ル需要ノ増加及農作期ニ於ケル風雨被害ノ影響ナカリシニ因由スルモノナリ即チ左ノ如シ

年 別	戸 數	職工又ハ從業者		產 額		價 額	
		油	槽	油	槽	油	槽
大正三年	八七	二八三	三一〇	一、三三〇	一、三三〇	三、五〇〇	三、五〇〇
大正四年	九二	一、四一	一、四一	一、四一	一、四一	三、五〇〇	三、五〇〇
大正五年	八九	一、四一	一、四一	一、四一	一、四一	三、五〇〇	三、五〇〇

臺中廳報告

落花生及胡麻ヲ主ナル原料トス菜種ハ稀ナリ製品ハ多ク地方ノ需要ヲ充スニ過キスシテ管外へ移出スルモノ至テ少シ

嘉義廳報告

原料作物ノ豐凶ニヨリ其ノ産額ニ著シキ増減ヲ免レズ然レトモ内落花生ハ甘蔗ノ輪作物トシテ好適シ胡麻子油ト共ニ其油槽ハ施肥觀念ノ普及ト共ニ新業ノ發達ヲ促ス傾向ナシトセス只製油法全ク舊法ヲ脱セズ年來ノ舊式器物ヲ使用スルニ止マレリ茶油ハ山間ノ山茶花ノ種子ヨリ採取ス其數量油二千二百十三斤價額七百八圓計八百八十五圓ニ過キス本年十月以降東洋製糖株式會社北港製糖工場内ニ新式直立式高壓汽罐一臺二十一馬力汽機一臺二十一馬力ノモノヲ新設シ搾油スルニ至リ新界ニ一生面ヲ開キタル感アリ管内ノ製品ハ本年中專賣局ト特約シ製煙ニ供スル目的ヲ以テ販路ノ擴張ヲ見ルニ至レリ

第七章 製麵業

本島ノ麵類ハ之ヲ大別シテ麥粉製、米製及豆粉製ノ三種トス其中米粉ノ産額前年度ニ比シ幾分増加セリト雖モ他ハ少シク減少ヲ示セリ這ハ戰亂ニ基ク原料ノ騰貴ノ爲メナリトス而シテ年々多少ノ増減アリト雖モ特ニ著シキ程度ニ至ラス今各廳ニ於ケル新業ノ一般ヲ表示セハ左ノ如シ

機械製麵業者一覽表

機製數	機麵數	機帶數	機控數	原動種類	馬力	住 所	氏 名
一	一	一	一	人 力		龍野新起橋街一ノ三七	西川 水一
一	一	一	一	同		同 歌慈市街四ノ一	金子 喜六
一	一	一	一	同		城内撫臺街二丁目	原澤 文二
一	一	一	一	同		同 書院街二丁目	大崎 竹次
一	一	一	一	同		同 北門街三丁目	松下 辰次
一	一	一	一	同		三板橋庄大正街	加藤 辰太郎
一	一	一	一	同		古亭村庄八五	林田 虎
一	一	一	一	同		三貂堡頂雙溪庄土名頂雙溪街一三〇	蔡南 陽
一	一	一	一	同		同 魚行庄土名公館九	呂舟 連
一	一	一	一	同		興直堡新庄土名新庄街四五	鄭盛 明
一	一	一	一	同		本城堡宜蘭街土名乾門一三一	李盛 周
一	一	一	一	同		同 坤門一三六	胡賜 生

第六編 工業 第七章 製麵業











廳別	製造戸數	職工又ハ 從業者	產			價			
			麥粉製	米製	豆粉製	計	麥粉製	米製	豆粉製
阿 東	21	1,499	22,110	101,284	7,801	4,943	1,491	10,580	5,191
臺 東	2	5	5,000	11,000	5,500	11,000	11,000	11,000	11,000
花 港	4	14	12,000	4,000	—	16,000	11,000	—	11,000
澎 湖	4	14	11,739	4,000	—	15,739	9,996	—	9,996
計	105	1,532	52,849	119,284	13,101	21,943	12,981	32,900	15,377
大正四年	104	1,400	47,013	112,310	12,101	21,500	12,101	31,702	14,900
大正三年	104	1,400	47,013	112,310	12,101	21,500	12,101	31,702	14,900
大正二年	104	1,400	47,013	112,310	12,101	21,500	12,101	31,702	14,900
大正元年	104	1,400	47,013	112,310	12,101	21,500	12,101	31,702	14,900
明治四十四年	92	1,291	44,845	104,044	11,735	20,444	11,735	30,184	14,235

尙參考ノ爲メ各廳ノ報告ヲ掲クレハ左ノ如シ

臺北廳報告 廳下各地ニ於ケル製造戸數ハ百七十四ニシテ前年ヨリ四月ヲ減ス大麵、麵線、米粉、豆粉等ニシテ產額二十四萬六

千七百餘圓ヲ増加セシハ價格ノ騰貴ニ因ルモノナルヘシ而シテ之カ消長ハ年々大同小異ニシテ五、六ノ内地人及二、三ノ本島人ノ製麵機械ヲ使用スル外他ハ悉ク在來ノ製造法ニ依レリ

宜蘭廳報告 廳下ニ於ケル本業ハ最近者シク物與シ小規模ノ機械ヲ使用シ製造ヲ爲ス者頗出スルニ至リ其ノ產額モ亦需要ニ伴ヒ

累年増加ノ趨勢ヲ示セリ即チ本年中ノ產出高ハ左ニ表示スルカ如ク前年ニ比シ麵線及素麵ニ於テ二萬二千餘斤ヲ減シタルモ

價値及大麵並ニ米粉ニ於テハ各々二萬斤餘ヲ増加シタリ

大正五年 中製麵高對照表(△印ハ減)

年 別	戸 數	從 業 人 員	產 額(斤)			價 額(圓)		
			大麵及素麵	麵線及米粉	計	大麵及素麵	麵線及米粉	計
大正五年	110	42	111,000	11,011	122,011	11,701	11,701	23,402
大正四年	112	42	111,000	11,011	122,011	11,701	11,701	23,402
對前年增減	1	0	0	0	0	0	0	0

桃園廳報告 製造戸數四十二其ノ生産高ハ大麵、素麵、麵線四十萬九千三百斤米粉二十三萬千六百斤價格合計四萬三千八百二十

六圓ニシテ前年ニ比シ少シク減退ノ狀アルハ米價低落ノ爲メ米粉ノ製造ヲ増加シタルモ一方麥粉製ニ於テ原料ノ騰貴ト生産

過剩ノ爲一時流行シタリシ大麵機械製造ノ激減ニ基因スルモノトス

新竹廳報告 麵類ハ價格割安ニシテ細民農民ノ嗜好ニ適シ一般ノ需要累年増加ノ趨勢ナリ蓋シ本年ニ於ケル之カ產額ハ大麵素麵

米粉豆粉ニテ總額九一二、一二二斤此價格七二、八一〇圓ナリ而シテ大麵素麵ハ前年ニ比シ產額増加セルモ米粉ハ多大ノ減退ヲ示セリ之レ最近大麵素麵ハ小規模ノ機械製造者増加スルニ反シ米粉ハ多大ノ手數ヲ要スル舊式製法ニ依ルモノナレハ自然斯ノ如キ傾向ヲ示セルナリ今之カ產額其他ヲ表示セハ左ノ如シ

年 別	戸 數	職工又ハ從業者	製 造 高 價 額		
			大 麵	素 麵	計
大正三年	111	111	111	111	111
大正四年	112	112	112	112	112
大正五年	113	113	113	113	113



第六編 工業 第七章 製麵業

臺中應報告 麵類ノ需要ハ年々増加シ産額増加ノ傾向ヲ示セリ製品ハ地方消費ニ止リ未ダ移出スルニ至ラス  
 嘉義應報告 一般ノ需要増加ニ伴ヒ其産額増加シツツアリ其製法及製品ノ種類ハ畧ホ同一ニシテ顯著ナル進歩ノ跡ナシ近年人  
 カヲ以テ機械ヲ利用スルモノ出テシト雖其ノ使用數至ツテ僅少ナリ左ニ其成績ヲ比較表示スヘシ

年次	戸數	職工	製 造				高
			大 麵	麵 線	米 粉	豆 筴	
大正元年	115	318	48,326斤	5,540斤	4,435斤	1,754斤	
大正二年	144	408	50,118	6,073	3,470	1,638	
大正三年	133	392	47,919	5,118	3,014	1,536	
大正四年	155	453	49,643	4,915	3,281	1,510	
大正五年	159	485	49,643	6,711	3,281	1,510	

臺南應報告 前年ニ比シ大差ナシト雖モ製造戸數ニ於テ五戸ヲ減シ生産額ニ於テ幾分増加ヲ見タリ今其内容ニ就キ見ルトキハ麵  
 餛又ハ大麵、素麵又ハ麵線及米粉製造ハ増加シ豆筴ハ少シク減少セリ其總額ヲ前年ニ比較スレハ

年 別	戸 數	產 額	價 格
大正四年	154	1,510	1,510
大正五年	159	1,510	1,510

第六編 工業 第八章 糖菓製造業

阿緞應報告 本年中製麵戸數七十二戸産額四十八萬八千二百四十一斤價額五萬一千九百四十七圓ナリ、大部分在來式製造ニシテ  
 製麵機、麵帶機麵機等ヲ設備セルモノ僅ニ七戸製麵機十三臺ニ過キス製品ハ饅頭、大麵、素麵、麵線、米粉、豆筴等ニシ  
 テ就中米粉大部分ヲ占ム前年ニ比シ戸數七戸増シ産額六萬七千三百二十九斤ヲ減シ價額ニ於テ二千三百三十六圓ヲ増加セ  
 リ即チ左ノ如シ

第八章 糖菓製造業

本島ニ於テ製造セラルル糖菓ノ主ナルモノハ蜜餞糖菓ト鳳梨罐詰ノ二種ニシテ前者ハ本島在來ノ製  
 造方法ニテ普通菓子商ノ副業トシテ製造セラルルモノニシテ近時之カ包裝ニ意ヲ用フルト共ニ外見  
 ノ體裁稍々完全セルモノアルヲ以テ製品ノ改良ト相俟テ販路開拓セラレ前年度ニ比シ製造戸數減少  
 セルニモ拘ハラズ其ノ産額ニ於テ約四割ノ増加ヲ告ケタリ

年次	戸數	數	價	額
大正五年	72	55,550	4,812	5,194

蜜餞製造及鳳梨罐詰戸數及産額別表



廳別	蜜		鳳梨		罐詰	
	戶數	職工數	戶數	職工數	數量	價格
臺北	11	39	2	15	110,000斤	6,200
宜蘭	12	18	1	1	10,000	1,200
新竹	11	18	1	1	10,000	1,200
嘉義	11	18	1	1	10,000	1,200
臺南	11	18	1	1	10,000	1,200
計	87	151	6	100	1,111,188	13,242
大正四年	91	145	7	115	1,017,729	12,729
大正三年	81	131	7	115	1,181,814	14,181
大正二年	64	111	6	115	1,181,814	14,181
大正元年	101	181	6	97	1,000,000	11,000
明治四十四年	101	181	7	111	1,181,814	14,181

臺北廳報告 例年ト大差ナキモ糖價並ニ其ノ他原料ノ騰貴ハ當業者ニ打撃ヲ與ヘタルノ如ク糖菓ノ値上ケ等幾分狼狽ノ色アリ

シモ先ツ順調ニ經過セリ

宜蘭廳報告 廳下ニ於ケル本業ハ最モ古キ歴史ヲ有シ未タ其ノ産額大ナラスト雖モ金柑及李ノ蜜餞ハ今ヤ宜蘭名産ノ一ニ算セラ

ルルニ至レリ從來各地ノ博覽會ニ於テハ金銀賞牌ヲ受領シ殊ニ本年ニ於テハ臺灣勸業共進會ニ出品シ閑院宮殿下ノ御買上ノ

臺南廳報告 糖菓類ハ漸次増加シツツアリ前年ハ二萬五千四百八十六圓ナリシモ本年ハ四萬四千七百三十七圓ニ昇レリ

今蜜餞及鳳梨罐詰業者ノ住所氏名又ハ商號ヲ示セハ左ノ如シ

住 所	蜜 餞 ノ 部	住 所	氏 名 又 ハ 商 號
臺北廳大加納堡大稻埕南街	寶 香 齋	臺北廳大加納堡龍匣口庄	ビリケン商會蜜餞工場
臺北廳臺北城內北門街	盛進商行蜜餞工場		
	鳳梨罐詰ノ部		
臺北廳大加納堡大稻埕日新街	泰 芳 商 會	臺北廳大加納堡依仁里街	季 芳 商 行
臺中廳員林街	濱口鳳梨罐詰製造工場	臺中廳員林街	德田鳳梨罐詰工場
臺南廳小竹上里九曲堂庄	興産株式會社工場	臺南廳大竹里新庄仔庄	臺灣鳳梨罐詰株式會社

第九章 澱粉製造業

本製造業ハ前報所載ノ如ク原料價額ハ割合ニ高價ニシテ製品價額一般ニ安價ナルヲ以テ引キ合ハサル爲メ製産額ハ前年度ヨリモ減退セリ左表ノ如シ

澱粉製造戶數及産額廳別表







第六編 工業 第九章 澱粉製造業

區分	動力	原料使用高	製品高	價額	住所工場主
澱粉	石油發動機一臺三馬力	アロールト 20000斤	11100斤	864元	下茄寒南堡竹仔門庄
麥粉	同	小麥 533石	7150	4745元	金于熊
其他	同	豌豆 23石	360	225元	大樓椰東頂堡北港街
同	畜力	同	5800	11元	郭
同	石油發動機一臺四馬力	同	32000	582元	同
澱粉累年生產高			111100	11847元	大坂田堡土庫庄
			1260	2277元	林
			45860	2580元	堡

大正三年	大正四年	大正五年
111100	111100	111100
1260	1260	1260
45860	45860	45860

臺南廳報告

從來ノ澱粉原料タル甘藷ハ近年其價格甚シク騰貴シタル爲メ之ヲ原料トスル工場ハ或ハ中止シ又ハ製造ヲ手控シツ  
ツアリ然ルニ本年稻南社ハ農林業ノ副業トシテアロールトノ栽培並ニ之ヲ原料トシテ是レカ澱粉ノ製造ヲ創メタルカ品質  
優良ニシテ市況亦好況ナルカ爲メ甚タ有望ナリ本年ノ産額ハ僅カニ二萬六千斤ニ過キサルモ明年ハ五十萬斤以上ヲ産出スル  
計劃中ナリ廳下本年ノ澱粉産額ハ前記ノ如ク甘藷ヲ原料トスルモノノ内事業休止セル者アリシニ依リ産額ハ前年ニ比シ減  
タルモ市況宜シキカ爲メ生産價額ハ却テ増額セリ即チ左ノ如シ

大正四年	大正五年
111100	111100
1260	1260
45860	45860

大正五年

第十章 織物業

本業ハ黃麻ヲ原料トセル製麻業ヲ除カハ依然不振ノ状態ニアリ即チ木綿織ハ益々衰頹ニ傾キ苧麻織  
及鳳梨織物モ亦不振ヲ免レス而シテ宜蘭廳利澤簡機業組合ハ之カ整理改善ニ力メ事業ヲ繼續スト雖  
モ之レ亦成績依然トシテ振ハス只獨リ臺灣製麻會社ハ大正二年事業ノ擴張ヲナシ機械ヲ増設シ大正  
三年三月全部ノ運轉ヲ始メテ以來益々發展ノ域ニ進ミ大正五年四月一日ヨリ同年九月三十日ニ至ル  
半年間ノ生産高ハ麻袋三十九萬五千餘袋麻布類九十五萬餘碼麻絲五萬餘听ナリ今各種機業別狀態ヲ  
表示セハ左ノ如シ

機業戶數及生産價額別表

廳別	木綿		苧麻		鳳梨		其他	
	戶數	價額	戶數	價額	戶數	價額	戶數	價額
臺北	12	1,200	1	100	1	100	1	100
宜蘭	12	1,200	1	100	1	100	1	100
桃園	12	1,200	1	100	1	100	1	100
合計	36	3,600	3	300	3	300	3	300

第六編 工業 第十章 織物業



年 別	木 棉		苧 麻		黃 麻		鳳梨織維		合 計	
	戶數	機數	戶數	機數	戶數	機數	戶數	機數	戶數	機數
大正四年	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111
大正三年	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111
大正二年	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111
大正元年	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111
明治四十四年	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111
計	5,444	5,444	5,444	5,444	5,444	5,444	5,444	5,444	5,444	5,444

尙參考ノ爲メ各廳ノ報告ヲ掲クレハ左ノ如シ

臺北廳報告

織物業ハ脚白、帶仔及黃麻ノ三アリ脚白及帶仔ハ本島婦女ノ纏足用ノモノニシテ從來多量ノ產額アリシカ近年解纏足者ノ増加スルニ從ヒ需要大ニ減シ衰運ニ向ヒツツアリ大加蚋堡芝蘭一堡ヲ主ナル產地トセルカ本年ハ製造戶數百六十三戶女工二百一名ニシテ脚白十萬丈四千五百圓帶仔二十二萬三千餘丈三千六百八十三圓ノ生產アリシニ過キス黃麻機業モ極メ不振ノ狀態ニアリ產額僅カニ三千五百餘疋價額約二千二百圓ナリ大加蚋堡芝蘭一堡ヲ主產地トシ機業戶數七十一アリ葬儀用被服ニ用ユ

宜蘭廳報告

廳下ニ於ケル本業ハ依然トシテ不振ノ狀態ニアリ就中利澤簡機業組合ノ如キ其ノ經營上ニ刷新ヲ加ヘ努メテ業務ノ改善發展ヲ圖リ來リタルモ既ニ養成セシ約二百名ノ女工ハ家事ノ都合上悉ク機織ノミニニ從事スルコト能ハサル結果漸次減少シ又其ノ製品ハ内地品ニ比シ尙幾多ノ遜色アルノミナラス價額ハ常ニ高價ニシテ實行好況ナラス而モ練習中ノ粗製品ハ尙殘存シテ益々營業資金ノ缺乏ヲ告ケ加之組合員相互間ニ意思ノ疎通ヲ缺キ經營意ノ如クナラサルモノアリテ益々不振ノ傾向ノ一方ナルノミナラス近年殆ント經營困難ノ狀態ナルヲ以テ近ク組合總會ヲ開キ之カ存廢ヲ熟議セント目下夫々準備中ナリ即チ本年中ニ於ケル織物業ノ狀況ハ上記ノ如ク頗ル不景氣ヲ以テ越年セリ今其ノ生產高ヲ見ルニ木棉織五十四圓麻織三十三圓黃麻織一千三百九十九圓鳳梨布二百六十一圓合計一千六百六十七圓ニシテ前年ニ比シ木棉織ニ於テ十四圓ヲ増加シ黃麻織ニ於テ三百六圓ヲ麻織ニ於テ六百七十七圓鳳梨布ニ於テ百四十圓ヲ減シタル爲總價額ニ於テ一千九百九圓ヲ減少セリ即チ左表ニ示スカ如シ

大正五年 中織物產額對照表 (△印ハ減)

年 別	木 棉		麻		黃 麻		鳳梨織維		布		計
	戶數	機數	戶數	機數	戶數	機數	戶數	機數	戶數	機數	
大正五年	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111
大正四年	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111
比 較	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△

臺中廳報告

麻織物ハ原料黃麻ノ產額増加ト需要ノ激増トニ依リ好況ヲ呈シ米袋ノ如キハ前年ニ比シ大ニ產額ヲ増セリ

臺南廳報告

當廳下ニ於ケル主ナル機織ハ脚白及帶仔ナントモ脚白ハ近時解纏足ノ風行ニ伴ヒ需要甚シク減少シ其他木棉織物鳳梨布織維織物等アレトモ產額僅少ニシテ前年ニ比シ大差ナシ其價額左ノ如シ



第十一章 製紙業

第六編 工業 第十一章 製紙業  
大正四年 總生産價額 三千九百六十二圓  
大正五年 總生産價額 三千五百六十五圓

本島ニ於ケル製紙業ハ今尙幼稚ニシテ從來原料トシテ幼竹ヲ用ヒ粗唐紙ヲ製造シツツアリ之カ主ナル産地ハ嘉義廳ヲ第一トシ南投、新竹廳之ニ亞ク遺憾乍ラ製法ハ何レモ舊式ノ粗唐紙製造法ニ依ル先年三菱合資會社ノ大規模ナル「バルブ」製紙工場中止以來何等面目ヲ改ムル如キ新式ノモノ起ラス即チ左表ノ如シ

製紙業者及産額別表

廠別	工場數	職工數	漉船數	産額(斤)		價額(圓)	
				竹紙	其他	竹紙	其他
臺北	8	75	1	18	6,711	4,948	9,995
桃園	8	75	1	18	6,711	4,948	9,995
新竹	5	178	1	18	6,711	4,948	9,995
南投	4	178	1	18	6,711	4,948	9,995
嘉義	3	178	1	18	6,711	4,948	9,995
計	28	504	5	72	27,056	19,888	49,948
大正四年	28	504	5	72	27,056	19,888	49,948

尙參考ノ爲メ各廠ノ報告ヲ掲ケレハ左ノ如シ

臺北廳報告 製紙工場アリ内五工場ハ本島人經營ニ屬シ貴仔坑區ニ四箇所アリテ竹紙ヲ製造シ景尾區ニ一箇所アリテ厚紙ヲ製造スルモ共ニ小規模ニシテ特ニ記スルニ足ラス産額極メテ少ナク他ノ三工場ハ内地人經營ニ屬シ大加納墾下坂庄ニ谷口郡那同榮古亭村庄ニ櫻井榮臺北監獄内ニ東郷元次郎請負事業ヲ爲ス谷口郡那ハ數年前ヨリ經營シ相應事業ヲ繼續セシカ時局ノ影響ハ藥品ノ暴騰トナリ且ツ獨立無探資金缺乏ノ爲メ紙價騰貴セリト雖途ニ經營難ヲ訴フルニ至リ業務振ハス櫻井榮ハ從來林投漂白業トセルカ前年來林投帽ノ紙製帽ニ壓倒サレシニ依リ本年十一月該工場ヲ製紙工場ニ變ヘタルモノナリ起業日尙淺ク事業ノ成續見ルヘキナシト雖壓紙三百七十五捲下張紙一萬二千五百枚ヲ製出セリ紙價暴騰ノ今日資本豐富ナルニ於テハ相當ノ發展ヲナスヘク有利ノ事業トス東郷元次郎ハ監獄内ニ囚人ヲ使役シテ作業ス本年ノ生産價額ハ三千二百九十圓ニシテ工賃ノ低廉其ノ他入費ノ輕減ハ他工場ニ比シ頗ル有利ノ地位ニアリ

宜蘭廳報告 廳下ニ於ケル本業ハ數年前宜蘭街本島人林元弼ナル者頭圍堡白石脚庄ニ工場ヲ設ケ山野一帶ニ搬生セル「シマガン」ヒ「楮皮及稻葉等ヲ主ナル原料トシ内地ヨリ技術者ヲ招聘シ製紙ニ著手シタルモ收支相償ハス途ニ之ヲ中止スルニ至レリ爾來本業ノ企劃ヲ試ミタルモノナシ

臺中廳報告 大正五年十月製紙業ヲ開始セルモノアルモ創業日淺ク試驗的製造セルニ過キス

嘉義廳報告 豐富ナル竹材ヲ利用シ在來式ニ依リ粗唐紙ノ製造ニ從事シツツアリ而シテ其産額ハ前年ニ比シ減少セシハ之レニ要

第六編 工業 第十一章 製紙業



第六編 工業 第十二章 金銀紙製造業

スル石灰ノ供給價格稍々騰貴セシニ因ルモノニシテ彼ノ三菱製紙所閉鎖以來新業ハ再ヒ舊態ニ陥リシト雖之レテ原料ト  
スル禮拜紙ノ消費尙盛ニシテ著シク産額ヲ減少スルカ如キコトアルヲ見ス

年次	工場數	職工數	漕船數	製紙	
				竹	高
大正元年	227	211	37	51,720	210,970
大正二年	287	193	58	57,040	231,840
大正三年	233	180	61	58,140	189,970
大正四年	309	233	68	59,130	189,500
大正五年	316	213	63	59,940	192,380

第十二章 金銀紙製造業

本業ハ本島製並ニ輸入粗唐紙ヲ原料トシ冠婚葬祭ニ燃燒スヘキ所謂金銀紙ヲ製造スルモノニシテ古  
來本島人社會ニ於ケル燃燒習慣タルヤ容易ニ罷脱スル模様ナク却テ禮拜紙ノ消費額益々増加スル傾  
向ニテ對岸地方ヨリ莫大ナル供給ヲ仰クト共ニ島内ニ於ケル之カ製造モ旺盛ナリ本年度製品價格昨  
年ニ比シ少シク劣ルト雖モ尙五十八萬二千餘圓ニ上ル左表ノ如シ

金銀紙製造戸數及産額應別表

廳別	戸數	職工數	産額	價額	
				竹	高
臺北	17	28	1,788,540	2,617,840	
新竹	50	121	1,180,100	1,921,600	
臺中	24	40	1,180,100	1,921,600	
南投	11	19	1,180,100	1,921,600	
嘉義	10	16	1,180,100	1,921,600	
臺南	2	3	1,180,100	1,921,600	
計	116	197	7,908,940	12,425,040	
大正四年	151	180	7,908,940	12,425,040	
大正三年	138	165	7,908,940	12,425,040	
大正二年	108	125	7,908,940	12,425,040	
大正元年	99	111	7,908,940	12,425,040	
明治四十四年	35	38	7,908,940	12,425,040	

尙參考ノ爲メ各廳ノ報告ヲ掲クレハ左ノ如シ

臺北廳報告 廳下製造戸數七十六ノ内四十五ハ延擧ニ在リ他ハ各地ニ點在スルモノトス職工三百二十八名産額約三百八十萬斤價

額二十六萬二千餘圓ニ達ス生産例年ト大差ナキモ本年四月共進會開催ト共ニ北港媽祖宮ヲ臺北ニ迎ヘタルニヨリ需要ノ激増  
ヲ來シ爾來各工場共ニ概シテ順調ニ經過シ取引活潑ナルモノアリ

宜蘭廳報告 金銀紙ノ消費額ハ人智ノ發達ニ伴ヒ比年減少ノ傾向ヲ示シツツアリト雖モ廳下ニ於ケル本業ハ尙尙盛シナリ即チ本



第六編 工業 第十二章 金銀紙製造

年中ニ於ケル實況ハ原料移入額ニ萬三千餘圓製造高八萬五千三百四十斤價額一萬五百五十四圓ヲ算シ前年中ノ事實ニ比スレハ製造高ニ於テ四千七百六十斤價額三千三百八圓ヲ增加セルモ一方原料移入額ニ於テハ五千圓餘ヲ減セリ左ニ前年ニ對スル本業ノ弛張狀況ヲ示サン

大正五年 中金銀紙製造高對照表(△印ハ減)

年別	戶數	職工數	產額	價額
大正五年	17戶	49人	8,540斤	10,554圓
大正四年	14戶	40人	7,000斤	8,500圓
比較	-	-	1,540斤	2,054圓

新竹廳報告

本島人信仰ニ使用スル金銀紙燒棄ノ陋習ハ今尙ホ脱スルコト能ハス却テ累年增加ノ趨勢ナルカ本期ニ於ケル之方製造高一、二三五、〇一八斤此價額八六、六六八圓ハ之ヲ前年ニ比スレハ多大ノ増加ヲ示セリ之レ財界回復ニ依ル一般需要ノ增加ニ基クモノノ如シ今最近三箇年ニ於ケル製造額ヲ表示セハ左ノ如シ

年別	戶數	職工數	產額	價額
大正三年	22戶	114人	10,010斤	12,010圓
大正四年	33戶	188人	11,110斤	13,330圓
大正五年	50戶	250人	13,110斤	15,550圓

臺中廳報告

本島舊價トシテ金銀紙ヲ使用スルモノ多ク從ツテ右製造ハ益々好況ヲ呈セリ  
組製竹紙原料トスル斯業ハ大正元年以來漸次増加ノ傾向ヲ示セリ由來農民ノ經濟狀態順調ニ復シ自然消費高漸増ス而シテ其販路ハ多少臺南若クハ中部地方ニ搬出スルモノアリト雖多クハ管内ニ於テ消費スルモノニシテ北港街媽祖廟ノ

消費價額ハ支那輸入品ヲ合シ一箇年十萬圓以上ニ達シツツアルノ盛況ヲ呈ス

年次	戶數	職工數	產額	價額
大正元年	15戶	45人	8,740斤	10,485圓
大正二年	13戶	40人	11,810斤	14,170圓
大正三年	10戶	30人	5,030斤	6,036圓
大正四年	10戶	30人	4,850斤	5,820圓
大正五年	10戶	30人	5,150斤	6,180圓

臺南廳報告

金銀紙ハ逐年本島人ノ風習改革ト共ニ其需要ヲ減シタル爲メ生産額ニ於テ亦著シク減少セリ即チ前年ニ於テハ六萬九百八十圓ナリシモ本年ハ三萬五千三百三十九圓ニシテ二萬五千八百四十一圓ノ減少ヲ見ルニ至レリ

第十三章 蓮草紙製造業

本製造業ハ微々タル一小工業ニ過キスト雖モ趣味アル本島獨特ノ産業ニシテ其原料タル蓮草髓ハ本島ノ外ニハ只支那貴州ノ一地方ニ小許ノ生産アルニ過キス而シテ其製品ハ内地ハ勿論海外ニ於ケル美術、造花、繪葉書及其他充填用ニ利用セラレツツアリテ稍々發達ノ氣勢ヲ示シ一方原料產地タル蕃界ノ整理ハ原料供給ノ便ヲ容易ナラシメタリ即チ產額價額共昨年ニ較フレハ六割以上ノ増加ヲ示セリ然レトモ原料ハ幾分低落セリト雖モ尙依然高價ナルノ憾ミアルヲ免レス尙製品中上品ハ内地及米國ニ向ヒ下等品ハ本島人ノ手ヲ經テ對岸ニ輸出セララルナリ即チ左表ノ如シ







年 別	製 造			林 業			其 他 類 似		
	戸 數	職 工		計	男	女	計	男	女
		男	女						
大正四年	37	100	100	100	100	100	100	100	100
大正三年	37	100	100	100	100	100	100	100	100
大正二年	37	100	100	100	100	100	100	100	100
大正元年	37	100	100	100	100	100	100	100	100
明治四十四年	37	100	100	100	100	100	100	100	100
計	37	100	100	100	100	100	100	100	100

尙參考ノ爲メ各廳ノ報告ヲ掲クレハ左ノ如シ

**臺北廳報告** 林投帽ハ紙製帽ノ壓迫ヲ受ケ僅カニ百打ノ製造ナ名残リニ全ク其ノ跡ヲ没セリ紙製帽ハ本年初メテ製造セルニ拘ハラス二千八百打ノ大産額ヲ見タリ製造戸數ハ二月ニシテ廳下古亭村庄玉井及龍匣口庄官里工場トナス官里工場ハ小規模ニシテ産額亦少ク年末ニ至リ事業休止ノ姿ニ在リ玉井工場ハ廳下製帽ノ元祖トシテ幾多經驗ヲ有シ從來林投帽ノ主張者ナリシモ其ノ悲運ニ鑑ミ紙製ニ變更シタリシカ一帽價ノ低落ハ最モ苦痛トスルトコロナルカ如シ

**宜蘭廳報告** 廳下ニ於ケル本業ハ曾テ宜蘭織維組合及其他二三ノ者ニ依リ林投帽製造ノ經營セラレタルコトアリシモ歐洲戰亂ノ突發以來帽價著シク暴落ヲ來シ爲ニ何レモ前年來其業務ヲ休止スルニ至レリ然レトモ廳下ハ林投帽ノ原料豐富ニシテ而モ其

ノ品位良好ナレハ新業ノ成否ハ一ニ經營方法ノ如何ニ依ルモノナルヘク思惟セラルルヲ以テ將來健實ナル經營ノ許ニ本業ノ再興ヲ圖ラシムルト同時ニ一面紙帽ノ製造ヲモ奨励セントス

**新竹廳報告** 海岸地方ノ手工業トシテ急速ノ發達ヲ遂ケタル林投製帽ハ近年粗製濫造競争激化ノ弊ニ陥リ且ツ神戸外商ノ壓迫ニヨリ價格ノ低落ヲ告ケ製帽業ノ打撃甚シク從テ一般製帽業者ハ之カ製品產出ヲ手控ヒ稀ニ本業ヲ中止スルモノアルニ至レリ此ノ時ニ際シ紙帽原料移入サルアリテ製帽上且ツ工賃及取引等ニ於テ林投製帽ニ比シ頗ル有利ノモノナリシヲ以テ蔓延急激ニ僅ニ半歲ヲ出スシテ從來ノ林投製帽業者ハ紙帽製造ニ從事スルニ至リ而モ新ニ製帽業者ノ撰出ヲ見ルニ至レリ今製帽産額三箇年對照ヲ表示セハ左ノ如シ

年 別	林 業			紙 業		
	數	量	價	數	量	價
大正三年	37	100	100	100	100	100
大正四年	37	100	100	100	100	100
大正五年	37	100	100	100	100	100

**臺中廳報告** 本品ハ大正元年以來價格下落シ商況不振ヲ來シタリト雖モ下等品ハ尙ホ相當ノ需要アリ又紙原料ヲ以テセル帽子一時流行シ盛ニ製造セラレ爲ニ林投帽ハ大ナル打撃ヲ蒙リタリ

**嘉義廳報告** 廳下ノ鐵道以西ニ於ケル平野ニアリテハ林投業ノ生産餘多ニシテ年々多額ノ數量ヲ島内製帽各地ニ搬出シツツアル狀況ニシテ之レカ採取ヲ業トスルモノ亦少カラス大正四年以來製帽ノ價格變化甚ダシク爲メニ其原料品タル林投葉價額低落ノ影響ヲ受ケ新業ノ經營ニ困難ヲ來ス所アリ本年産地方面ノ新業者ハ進シテ製帽業ヲ兼營セントナシ種々其ノ企畫ニ關スル準備ヲ遂行中ニアリ



第六編 工業 第十五章 製蓆業

年別	職工		工本		數量		價額
	戶數	職工	戶數	工本	戶數	工本	
大正元年	26	101	10,187,400	10,187,400	10,187,400	10,187,400	2,281,111
大正二年	19	115	11,549,900	11,549,900	11,549,900	11,549,900	4,549,900
大正三年	4	31	3,193,000	3,193,000	3,193,000	3,193,000	1,574,700
大正四年	1	8	810,000	810,000	810,000	810,000	302,000
大正五年	2	14	1,410,000	1,410,000	1,410,000	1,410,000	358,000

阿綴廳報告 林投帽商況不振ノ影響ヲ受ケ粗製原料ノ價額モ底落シ來リ爲ニ本年ハ著シク其ノ産額ヲ減シ製造戶數ニ於テ前年ニ比シ八月ヲ增加セルモ其ノ産額ハ却テ半減シ三千四百萬本餘價額八千餘圓ノ生産アリタルニ過キス

第十五章 製蓆業

本業ハ主トシテ大甲蘭蓆ノ編製ト七島蘭蓆ノ織製ノ二種ニシテ何レモ好況ナル能ハス殊ニ前者ハ本島獨特ノ産業ナルニ拘ハラズ價格高價ナルヲ以テ販路狹少ニシテ一部ノ需要アルノミナレハ年々衰退ノ傾向アリテ其生産價額四千圓ニ滿タス生産高ニ至リテハ明治四十四年期ノ五分ノ一ニ如カス只價格ハ此間ニ約五倍セルヲ見ル、後者ハ二十八萬七千餘枚ヲ算スト雖モ價格ニ著シキ高低ナク五萬五千餘圓ニ過キス其製品數量價額共ニ減退セリ即チ左表ノ如シ

製蓆業者及産額應別表

計	大甲蘭蓆		七島蘭蓆		丸蘭蓆		合計	
	戶數	職工	戶數	職工	戶數	職工	戶數	職工
大正二年	1	2	1	2	1	2	3	4
大正三年	1	2	1	2	1	2	3	4
大正四年	1	2	1	2	1	2	3	4
計	3	4	3	4	3	4	9	12

左表ノ如ク大甲蘭蓆ノ製産地ハ新竹廳ニ局限セラレ居レト七島蘭蓆ニ至リテハ其原料栽培本島ニ好適シ生長力旺盛ナルヲ以テ將來ニ於ケル斯業ハ有望ナルモノアリト云フヘシ當局ニ於テモ此カ獎勵ヲ怠ラサレハ本製造業ハ將來相當ノ成績ヲ舉クルニ至ルヘシ尙參考ノ爲メ各廳ノ報告ヲ掲クレハ左ノ如シ



第六編 工業 第十五章 製菓業

**臺北廳報告** 大加納盛芝蘭一堡等ニ限ラレノ戸數百六十四職工四百五十四ヲ有ス大龍崎ノ臺北製菓合資社北投ノ北投製菓製造組合ヲ最大工場トシ督府ヨリ製菓機ノ貸付ヲ受ケ蓬及草履ヲ製造ス他ハ悉ク小規模ノ家内工業ニシテ產額少ナク製品ハ主ニ内地ニ移出スルモノニシテ產額ハ前年ニ比シニ七萬七千六百餘枚ヲ增加シ八萬三千三百六十枚ニ上レリ之レ臺北製菓合資社ノ設立ニ基因ス原料七島蘭ハ附近田園ニ多ク產シ品質良好ニシテ新業ハ益々隆運ニ向ヒツツアリ

**宜蘭廳報告** 廳下ニ於ケル七島蘭ノ製造業ハ未ダ微々タル家庭工業ナリト雖モ近年一般需要ノ增加ニ伴ヒ原料ノ作付面積モ亦漸次擴張セラレ益々好況ニ向ヒツツアリ即チ本年ニ入りテハ宜蘭及羅東街ニ於ケル二、三ノ者ハ新式織機一臺ツツヲ購入シ製造ヲ試ミツツアリ而シテ本年中ノ產額ハ一萬六千六百九十枚價額四千三十六圓ヲ算シ前年ニ比シニ二千九百六十枚價額三百十六圓ヲ增加セリ

大正五年中製菓高對照表(△印ハ減)

年 別	七 島 蘭		丸 蘭		計
	戶數	職工產額價額	戶數	職工產額價額	
大正五年	111	1,110	1	1	112
大正四年	109	1,070	1	1	110
比 較	△2	△40	0	0	△2

**臺中廳報告** 七島蘭席ハ依然農民ノ副業トシテ製造セラレツツアルモ元來粗雜ナルモノニシテ僅ニ木島人ノ眠床ニ使用セラレ大甲蘭席ハ價額高キヲ以テ需要少シ

**臺南廳報告** 七島蘭原料トスル製菓ハ前年ニ比シ増產ヲ示シ即チ前年ノ一萬三千五百四十九圓ニ比シ本年ハ一萬七千五百六十六圓ナレハ四千圓餘ノ増額ヲ示セリ

第十六章 窯 業

本業ハ之ヲ分チテ二種トス一ハ陶磁器ヲ製造スルモノ他ハ土木建築材料ヲ製造スルモノナルカ前者ハ從來微々トシテ振ハス僅カニ臺北、桃園、新竹、臺中、南投、臺南ノ各廳下ニ於テ小規模ノ製造ヲナスニ過キス大正元年臺北廳下北投庄ニ於テ開始セル本業ニ對シ督府ハ小額ノ補助ヲ與ヘテ獎勵シツツアリテ其產額逐年増加ノ傾向ヲ示ス後者タル土木建築材料ノ製造ニ付テハ數年前ノ風水害復舊工事及新築工事其他ノ土木工事モ漸ク一段落ヲ告ケタルヲ以テ土木建築界ノ閑散ニ伴ヒ煉瓦其他諸材料ノ需要幾分減退セシカ激變セル消長ナク前年ト大差ナシ即チ左ノ如シ

窯業戶數及其產額別表 ×ハ内地形ニシテ他ハ本島形ナリ

廳 別	製造 戶數	職 工		產 額 (圓)			價 額 (圓)			計
		男	女	煉瓦	屋根瓦	數瓦	煉瓦	屋根瓦	數瓦	
臺北	112	111	1	1,110	1	1	1,110	1	1	1,112
宜蘭	109	109	0	1,070	0	0	1,070	0	0	1,070
桃園	100	100	0	1,000	0	0	1,000	0	0	1,000
新竹	441	441	0	4,410	0	0	4,410	0	0	4,410
臺中	111	111	0	1,110	0	0	1,110	0	0	1,110
計	873	873	1	8,730	1	1	8,730	1	1	8,732

第六編 工業 第十六章 窯業



廠別	製造 戸數	職 工	產		價		額		計
			煉瓦	屋根瓦	煉瓦	屋根瓦	額(筒)	額(圓)	
南投	25	100	10,000	10,000	1,000	1,000	10,000	10,000	11,000
嘉義	10	50	5,000	5,000	500	500	5,000	5,000	5,500
臺南	15	75	7,500	7,500	750	750	7,500	7,500	8,250
同安	10	50	5,000	5,000	500	500	5,000	5,000	5,500
澎湖	5	25	2,500	2,500	250	250	2,500	2,500	2,750
澎湖	5	25	2,500	2,500	250	250	2,500	2,500	2,750
計	70	350	35,000	35,000	3,500	3,500	35,000	35,000	38,500
大正四年	70	350	35,000	35,000	3,500	3,500	35,000	35,000	38,500
大正三年	65	325	32,500	32,500	3,250	3,250	32,500	32,500	35,750
大正二年	60	300	30,000	30,000	3,000	3,000	30,000	30,000	33,000
大正元年	55	275	27,500	27,500	2,750	2,750	27,500	27,500	30,250
明治四十四年	50	250	25,000	25,000	2,500	2,500	25,000	25,000	27,500

尙參考ノ爲メ各廠ノ報告ヲ掲クレハ左ノ如シ  
 臺北廳報告 煉瓦ヲ主トシ屋根瓦、敷瓦、土管等ノ製造ヲ爲ス煉瓦ハ一時需要ノ増大ニ依リ長足ノ發達ヲナシ小工場各所ニ設立セ

ラレ其ノ數甚タ多キニ及ヒシカ近年漸次減少シ目下製造戸數(全窯業ヲ含ム)四十九窯數百十八トナレリ之レ大資本機械煉瓦製造工場ノ設立ニ伴ヒ小工場壓倒サレシニ依リ即チ大加納、芝蘭一榮ヲ主ナル工場地トシ臺灣煉瓦株式會社ハ百萬圓錫口機械煉瓦株式會社ハ二十萬圓ノ資本ヲ以テ新式煉瓦製造機械ノ設備ヲナシ共ニ一日四萬四千箇以上ノ製造能力ヲ有シ他ハ全部組合又ハ個人經營ノ小工場トナス本年ハ島内建築界盛盛ナラサリシト雖相當ノ需要アリ且ツ對岸輸出等アリテ順調ニ經營シ小工場ニ至ル迄活況ヲ呈セルカ如ク產額昨年ニ比シ約百萬箇ヲ増加セリ屋根瓦ハ產額前年ニ比シ本島形ハ減少シ内地形ハ増加ス之レ年來内地人住家用其ノ他需要増加ノ關係ニシテ建築界發達ノ現象ト見ルヘシト雖モ時局ノ影響トシテ木材其ノ他建築材料價額ノ昂騰ニ依リ漸次不振ノ傾向アリ其ノ他敷瓦及土管ハ相應ノ景況ヲ見ルモ例年ト大差ナク產額少シ

宜蘭廳報告 廳下ニ於ケル木業ハ累年其ノ產額ヲ増加スル傾向ヲ示シ宜蘭煉瓦工場ノ如キハ前年据付ケテナシタル手廻式煉瓦製造機及專賣屋瓦製造機ニ依リ製造ヲ爲シ其ノ他ノ營業者ニ於テモ事業ノ擴張ニ努力シツツアリ本年中ノ煉瓦產額一百六萬六千箇價額一萬九百七十圓ニシテ前年ニ比シ約五萬箇ヲ増加セシモ價額却テ二千二百餘圓ヲ減シ内地式屋根瓦ニ於テモ產額七千五百箇價額五百圓餘ヲ減少セリ然ルニ本島式屋根瓦ニ在リテハ產額九十二萬六千九百九十箇價額七千五百三圓ニシテ前年ニ比シ產額三十八萬六千餘箇ヲ減シタルモ價額ニ於テハ本島人家屋ノ修理及新築等一般ニ需要激増セシ爲價額昂騰シ二千餘圓ヲ増加シ敷瓦ニ於テハ產額十六萬箇價額七百二十圓ヲ算シ前年ヨリモ四萬箇價額八十圓ノ減少ヲ見タリ陶器ニ在リテモ二百五十四圓ヲ減シ僅カニ三百五十六圓ノ生産高ヲ見ルニ過キサリキ故ニ前年總額二萬一千三百二圓ニ比シ八百七十圓ヲ減シ其ノ額二萬四百三十二圓ニ下レリ

桃園廳報告 陶磁器ハ尖山庄及大浦庄ニ於テ組製品ヲ製出シ其價額年々一萬圓内外ニ上ルモ未ダ著シキ進步ヲ見ス煉瓦、屋根瓦、土管等ハ地方ノ發達ニ伴ヒ諸工場ノ建築ハ最近官設埤圳工事ニ伴ヒ需要ノ増加シタル爲製造戸數モ年末現在五十八戸ニシテ前年ニ比シ十二月ヲ増加セリ

臺中廳報告 臺中附近並ニ葫蘆墩、沙鹿ニ於テ盛ニ煉瓦、敷瓦、土管其他ノ物品ヲ製造シツツアリ本品ハ逐年其需要ヲ増シ從テ



第六編 工業 第十六章 窯業

本業ハ好況ニ向ヒツツアリ

**南投廳報告** 管内窯業ハ陶器、煉瓦、土管等ノ製造ニシテ製造者戸數四十九戸窯數七四職工三〇四人ヲ算ス之ヲ前年ニ比スレハ戸數ニ於テ三月職工ニ於テ四十六人ヲ減シタルモ當業者ハ其經營ノ漸次組織的共同ニヨルモノニシテ其産額ハ前年ニ比シ大差ナシ然レトモ本期ニアリテハ地方建築工事ニ乏シカリシヲ以テ内地瓦等ノ製産ヲ見ルニ至ラザリシ

南投燒陶器ハ前年來ヨリ内地燒造品製作ノ傾勢ニ鑑ミ對岸輸入ノ酒甕等ヲ製作スルニ至リ本品販路ノ紹介ト共ニ其製産ニ努メタル結果鐵道沿線ノ新竹ヨリ阿緞ニ到ル區間ニ之ヲ販賣シ其發展ヲ圖リ一時消沈セル南投燒ハ漸次復活スルノ機運ニ向ヒツツアリ

**嘉義廳報告**

近來土木建築事業不振ニシテ之レ等ノ用材タル煉瓦、敷瓦、屋根瓦等ノ生産減少ス尙家居等ノ建築ニ見ルニ鐵材、セメントノ暴騰ニヨリ結果木材使用ヲ増加セシ關係アリ

煉瓦製産業トシテ有名ナルハ臺灣煉瓦株式會社嘉義工場ニシテ明治四十一年ノ創設ニ係リ大正二年現會社ノ有二歸セリ

本年ノ生産高上等产品八十三萬箇、中等产品百四十五萬箇下等产品八十二萬箇計三百十萬箇比價額二萬四千八百二十圓ニシテ廳下及中南部地方ニ製品ノ供給ヲ爲シツツアリ

**臺南廳報告**

近年ハ一般ニ建築業不振ナルカ爲メ窯業ノ主生産物タル煉瓦及瓦類ノ販路少ク從ツテ其生産高ヲ減シ本年ニ至リ積々景氣ヲ回復シ幾分需要ヲ増加シタリト雖モセメントノ利用漸増ニ伴ヒ敷瓦ハ需要頓ニ減少セリ本年ノ煉瓦及瓦類ノ生産額十九萬九千七百四十一圓ニシテ前年ニ比シ五萬三千八百圓ノ増産ヲ見タリ

**阿緞廳報告**

本年中煉瓦、屋根瓦、敷瓦、土管等ノ製造ハ收支相償ハス從業者中休業セシモノ多ク製造戸數激減シ前年ノ六十三戸ニ比シ僅ニ十二月從業セシノミニテ從テ生産價額ニ於テモ前年ノ四萬七千七百九十七圓ニ比シ僅ニ八千九百二十五圓ノ生産アリタルニ過キス

第十七章 鐵工業

本業ハ今尙幼稚ナリト雖モ糖業ノ發達ニ伴ヒ近時機械工業漸次進歩ノ徵候アリ而シテ鐵工原料消費高三十萬圓弱鍛冶原料消費高十七萬圓餘鑄物原料消費高十三萬圓ニ及ヒ製品價額ニ於テハ昨年度ニ比シ六十萬餘圓ノ増進ヲ告ケタリ但原料暴騰ノ爲メ戸數、職工數及數量ニ著シキ増進ヲ示サザレト將來斯業ノ發達ハ期シテ待ツヘシ本年度成績左ノ如シ

鐵工業廳別表 (鍛冶、鑄物ヲ含ム)

廳	別	戸	數	職	工	製 品 價 額(圓)
臺	北		一三二		八三四	八三〇、八六九
宜	蘭		四二		九六	二四、七〇二
桃	園		一一七		一八五	四八、五五五
新	竹		一六六		三五三	五五、〇八七
臺	中		一一六		二七六	九四、三八六
南	投		四〇		九二	一四、六六九
嘉	義		七二		一九四	一三七、三六〇
臺	南		一二五		三四四	一七七、七八一
阿	緞		六八		一四四	二六、三二九
臺	東		一一		二六	六、八一三

第六編 工業 第十七章 鐵工業



廠別	戶	數	職	工	製品價額(圓)
澎湖		二〇		四六	二二,一〇〇
花蓮		三八		七五	七,一六三
計		九五八		二,六六六	一,四四五,八一四
大正四年		八三九		二,二八七	八〇五,五〇〇
大正三年		八四一		二,〇七七	七五六,五一五
大正二年		七九五		一,九九三	六五〇,三四九
大正元年		七八〇		二,〇三九	八四四,二三五
明治四十四年		七五四		一,九八二	六一七,〇五九

其ノ中主ナルモノヲ掲クレハ左ノ如シ

工場名稱	所在地	資本金	職工及徒第一日平均使用數	原動機種類	馬力
合資會社松本商店	臺北廳大加納堡蘇厝西門外街	117,000	六九	汽機	八
堤鐵工場	城內石坊街	117,000	一	電機	三
原田鐵工場	大稻埕下奎府寮街	117,000	一	汽機	三
船灣鐵工場	得勝街	117,000	三	同	七
木村組基隆鐵工場	基隆堡仙洞庄	100,000	一	同	一
佐々木鐵工場	基隆街	11,100	七	同	一

工場名稱	所在地	資本金	職工及徒第一日平均使用數	原動機種類	馬力
橋本鑄造工場	田寮港庄	117,000	七	同	一
金合鑄造工場	大加納堡大稻埕仔境街	117,000	六	同	一
金合勝合名社	枋橋後街	117,000	六	同	一
臺灣鑄造株式會社	同 大龍崎街	六九〇,〇〇〇	四九	同	一
宜蘭鐵工場	宜蘭縣本城宜蘭街	三,八〇〇	三	同	一
金福源鑄造工場	臺中廳東堡彰化街	八,八〇〇	二	同	一
福原鐵工場	同 臺中	五,三〇〇	二	同	一
寺崎臺中鐵工場	同	五,一〇〇	二	同	一
栗木商店鐵工場	嘉義廳嘉義西堡嘉義街	五,五〇〇	六	同	一
越智鐵工場	臺南廳臺南市平	1,000	二〇	同	一
義和製鐵工場	同 已	117,000	二	同	一
東山製鐵工場	同 丁	六,六一〇	七	同	一
萩原造船鐵工場	同 大竹里打狗旗後	九,〇〇〇	七	同	一
吉富鐵工場	阿緞廳港西中里阿緞街	一,九〇〇	二	同	一

尙參考ノ爲メ各廠ノ報告ヲ掲クレハ左ノ如シ

臺北廳報告 時局ノ影響ヲ受ケ著シク鐵材價額ノ騰貴ト共ニ頗ル活氣ヲ呈セリ廳下ニ於テハ臺北ニ合資會社松本鐵工場、原田鐵

工場、船灣鐵工場、臺灣鑄造株式會社ヲ初メ小工場十二アリ基隆ニ木材組鐵工場其他七工場アリ而シテ鍛冶、鑄物等ノ小工場ヲ合スレハ實ニ百九十五ノ多數ニ達ス

松本鐵工場ハ資本三萬圓ニシテ汽機汽罐及タンク製糖機械鐵道用品並ニ雜品ヲ製造シ又修繕ヲナス製造並ニ修繕價額約十萬圓ニ上レリ尙ホ工場ヲ三板橋庄ニ移轉シ事業擴張ノ設計アリ原田鐵工場及船灣鐵工場ハ資本約二萬圓ニシテ各種機械ノ製造修理ヲ爲ス其ノ價額各約五萬圓トス臺灣鑄造株式會社ハ資本八萬圓拂込二萬圓ヲ以テ專ラ臺灣鑄造ノ鑄造價額五萬圓ノ產出



第六編 工業 第十七章 鐵工業

アリ木村組鐵工場ハ元大阪鐵工場基隆分工場ノ跡ニシテ資本三十萬圓ヲ投シ事業ヲ繼續經營シホソノ捲揚機ホイラー其ノ他部分製作及修理ヲナシ又汽船ノ製造修繕ヲモ爲ス十六萬圓ノ製造價額アリ

叙上各種共ニ頗ル活氣ヲ呈スト雖鐵材益々騰貴ニ依リ幾分苦心ノ狀ナキニアラス

宜蘭廳報告

廳下ニ於ケル本業ハ今尙幼稚ノ域ヲ脫スル能ハスト雖モ近時機械的工業ノ勃興ニ伴ヒ鐵工品ノ需要モ亦増加ノ趨勢ヲ示シ從テ斯業ニ活氣ヲ呈スルニ至レリ即チ本年中ノ狀況ヲ見ルニ製造戸數四十二戸職工九十六人原料消費一萬二千八百二十一圓製品產額二萬四千七百二十一圓ヲ算シ之ヲ前年ニ比スレハ戸數二十月職工三十九名製品產額六千六百九十二圓ヲ増加セリ

臺中廳報告

主トシテ鋤、鍬、鎌、庖丁等農具ノ製作ヲナスモ近來歐洲戰爭ノ影響ヲ受ケ鐵ノ騰貴ニ依リ製作活波ナラス

嘉義廳報告

鐵工業トシテハ修理製作並ニ家庭用具、農具等ノ製作ニシテ何レモ小規模ナル操業ニ止マリ製糖工業ニ對シテハ夫々修理工場ヲ有シ應急ノ施設ヲナシツツアリ

本年ハ著シク產額ノ増加ヲ見タルハ元嘉義製作所ノ事業ヲ栗本義壽ナルモノ繼承經營シ沖臺拓殖株式會社ノ林埤埔製糖工場ノ諸機械ヲ製作セシ結果ナリ

農具ノ製作モ漸次増加ノ傾向アリ製品ノ種類ハ犁頭、犁壁鍬、坵仔、鐵搭、手把、刈把齒、把仔齒、鎌仔、柴刀、鋏仔、厚鉄等ニシテ此ノ價額三萬九千九百一圓ニ達セリ

臺南廳報告

鐵工業ハ歐洲戰亂ノ結果鐵材ノ暴騰ニ伴ヒ產額ヲ減少セシモ反テ生産價額ハ増加シタル有様ナリ前年ハ十二萬八千四百四十三圓ノ生産價額ナレトモ本年ハ十七萬七千七百八十一圓ニ昇レリ然レトモ諸工業用ノ機械等ハ從來外國製品ヲ使用セシモ戰亂ノ爲メ輸入不足ノタメ内國產ノ需要多キヲ以テ稍大規模ナル鐵工場ノ設置ハ好望ナル事業ナルニヨリ廳下臺南製糖株式會社ハ之カ起業ヲ劃策中ニアリ

阿緞廳報告

製糖業ノ隆盛諸工業ノ漸進ニ從ヒ鐵工鐵治器物等逐年其ノ生産額ヲ増加セムトスル趨勢ニアリ前年ニ比シ戸數一ヲ減セルモ製品價額ニ於テ九千餘圓ノ増加ヲ見タリ

第十八章 木工業

本業ハ主トシテ本島人向ノ家具製造ヲ意味ス本島ニ於テハ家屋ノ構造上比較的多少ノ家具ヲ使用ス而シテ其需要ハ民度ノ向上スルニ從ヒ益々増進シ其生産高モ年々發達ヲ遂ケツツアリ即チ左ノ如シ

木工業戸數及產額應別表

廳別	戸數	職工	製品價額	廳別	戸數	職工	製品價額
臺北	1,091	1,111	1,111,000	臺東	1	11	100
宜蘭	1	1	1,111	花蓮	1	11	1,111
桃園	1	1	1,111	澎湖	1	11	1,111
新竹	1	1	1,111	計	4	44	4,444
臺中	1	1	1,111				
南投	1	1	1,111	大正二年	1	11	1,111
嘉義	1	1	1,111	大正三年	1	11	1,111
臺南	1	1	1,111	大正四年	1	11	1,111
阿緞	1	1	1,111				

尙參考ノ爲メ各廳ノ報告ヲ掲クレハ左ノ如シ

臺北廳報告 臺北三市街ヲ中心トシテ廳下各市街地ニ於ケル木工業者ハ總數百三月職工三百五十二名アリテ近時從業中二、三ノ



第六編 工業 第十八章 木工業

工業講習所卒業生ヲ見ル共進會ノ開催其地北港祖宮ノ來北等ニヨリ内地及本島各地ヨリノ觀客其ノ他一般購買力ノ増大トナリ昨年ニ比シ戸數四十一職工百十九名ヲ増シ價額亦三萬五千餘圓ヲ加ヘ十三萬四千五百圓ノ多額ニ上ル各工場共可ナリ多忙ヲ極メ當業者得意ノ色アリタリ

宜蘭廳報告

廳下ニ於ケル本業ハ需要ノ關係上家具ノ製造ヲ業トスル者多數ヲ占メ其ノ産額モ亦累年増加ノ趨勢ヲ示セリ即チ本年中ノ狀況ヲ見ルニ製造戸數六十職工百十七人製産額一萬三千九百八十八圓ニ達シ之ヲ前年ニ比較スレハ戸數四職工十二人製産額三千三百四十六圓ヲ増加セリ今左ニ前年ニ對スル本業ノ比較ヲ示サン

大正五年 中木工業産額對照表  
大正四年

年別	戸數	職工數	製産額
大正五年	60	117	13,988
大正四年	41	108	3,346
比較			

新竹廳報告

家具ハ逐年需要増加シ從テ之ヲ製造ニ從事スルモノ漸ク多キチ加フルニ至レリ殊ニ本島家居ノ構造上自ラ其ノ利用多キチ以テ民風ノ向上ト相俟テ益々需要ヲ促進スルモノノ如シ

年別	戸數	職工數	生産價額
大正三年	92	179	35,885
大正四年	103	197	40,325
大正五年	114	215	45,285

臺中廳報告

家作、橋梁、修築等ニ依リ大工ハ相當仕事アリ指物職ハ卓、椅子、棺桶等ノ製作ニ從事シ需要増加ノ傾向アリ

第十九章 竹器製造業

第六編 工業 第十九章 竹器製造業

本島ニ於ケル竹器ノ需要ハ極メテ廣汎ナルノミナラス原料多ク且ツ其ノ製造業ハ薄資者ト雖モ容易

嘉義廳報告

主トシテ家具ノ製作ニ從事ス最近阿里山樹材ノ普及ニヨリ之レカ操業ニ至便チ來シ繪々其振興ヲ見西洋家具類等ノ製作業者ヲ見ルニ至リタルハ大ニ喜ブヘキ現象ナリトス左ニ累年ノ成績ヲ擧グヘシ

年別	戸數	職工數	製品價額
大正二年	108	184	21,000
大正三年	110	184	21,000
大正四年	102	181	22,110
大正五年	111	181	20,800

尙木工業中農具ノ製作ニ從事スルモノ多ク其種類ハ犁、刈把、耙仔、水車、牛車、尿桶、椀桶、土壘、風鼓等ニシテ此價額四萬七千二百七十三圓ニ上レリ

臺南廳報告

主トシテ家具類ナレトモ之レニ要スル木材及金具類ノ暴騰セシ結果製品高値ノ爲メ賣行不況ノ結果生産數量ヲ減シタルモ其製産價額ハ前年ニ比シ大差ナシ即チ左ノ如シ

年別	戸數	生産價額
大正四年	66	68,187
大正五年	68	68,714

阿緞廳報告

内地人本島人ノ別ナク生活程度ノ向上ニ伴ヒ逐年家具ノ需要ヲ増加スルモノノ如ク少クトモ實用以外優美ヲ尊ムニ至リタルノ傾向アリ前年ノ家具製造戸數四十五戸ニ比シ本年ハ八十九戸トナリ職工百二十九人製産價額三萬三千三百餘圓ニシテ前年ニ比シ一萬七千餘圓ノ増加ヲ見タリ



第六編 工業 第十九章 竹器製造業

ニ經營シ得ルカ故ニ之カ製造業者ハ頗ル多ケレトモ其製造ハ概ネ粗雜ニシテ單ニ島内ノ需要ヲ充スニ過キスサレハ督府ニ於テモ之カ改良進步ヲ圖リ補助獎勵セシコトアリシモ未タ其製品販路廣大ナルニ至ラサルモ年々一割乃至一割五分位ノ増進ヲ示シツツアリ即チ左ノ如シ

竹器製造戸數及産額別表

縣別	戸數	職工價額	縣別	戸數	職工價額
臺北	二七九	八八八	花蓮	三	二八四
宜蘭	三五	五九	澎湖	一	〇
桃園	七四三	一、九九九	計	一、五五九	四、七三三
新竹	二二五	四〇〇	大正四年	一、一〇〇	二、一七九
臺中	三〇三	五九四	大正三年	一、〇〇〇	二、一七九
南投	二五	三六	大正二年	一、〇〇〇	一、九七九
嘉義	一〇一	三〇	大正元年	一、〇〇〇	一、九七九
臺南	三〇	一〇	明治四十四年	一、〇〇〇	一、九七九
阿緬	一六二	一八五			
臺東	六	七			

尙參考ノ爲メ各縣ノ報告ヲ掲クレハ左ノ如シ

臺北廳報告 戸數二百七十九職工八百十八名ニシテ價額前年ニ比シ一萬圓ヲ増加セリ經營者ハ殆ント全部本島人製造ニ依ル竹器

ハ廳下消費用各種組製竹器ハ美術的家用具ニシテ茶器、机、蓆入、其他内地人向嗜好ニ投スル諸種ノ製品ヲ出タシ年々島

内々地人ノミナラス内地ヨリモ注文アリ相應ノ景況ヲ呈ス

宜蘭廳報告 廳下ニ於ケル本業ハ今尙幼稚ニシテ微々タル一工業ナリト雖モ其ノ産額ハ累年順調ナル増加ヲ示セリ即チ本業中ノ

狀況ハ製造戸數三十五職工三十九人價額三千五百六十二圓ニシテ前年ニ比シ戸數十戸價額四百六十一圓ヲ増加セリ蓋シ斯業ノ比較的不振ナルハ元來本業ハ薄資ノ者ト雖モ容易ニ之ヲ經營シ得ルカ故ニ割合ニ多數ノ同業者ヲ見ルト其ノ製造頗ル粗雜ナル爲一般ニ價額割安ナルト其ノ需要範圍狭小ナル等ニ因ルナラン

大正五年 中竹器製造業産額對照表

年別	職工價額	製産高
大正五年	三五	五、三六二
大正四年	二五	三、一〇一
比較	一〇	四六一

臺中廳報告 主タル竹器ハ簾蓆、椅子、戸棚ニシテ漸次製造高ヲ増加シツツアリ

臺南廳報告 竹器ノ主ナルモノハ家具、農具及笠等ナルカ藤細工ノ發達ニ伴ヒ逐年産額ヲ減セリ即チ前年ハ三萬六千圓ナリシモ

本年ハ二萬九千二百圓ニ過キサルナリ

阿緬廳報告 廳下ノ竹細工ハ其ノ技能幼稚ニシテ何レモ在來本島人向椅子、農具、家具等ニ過キス就中内埔籠ハ其生産多量ナラ

サルモ技巧ノ稍見ルヘキモノアリ本年中製造戸數百六十二職工百八十五人製品價額一萬七千三百餘圓ナリ

第二十章 石灰製造業

本島ニ於テハ石灰ヲ消費スルコト極メテ多ク土木建築工事ニ普ク使用スルノミナラス工業用及藥用



トシテ廣ク使用セラレツツアリ石灰ハ島内到處ニ其產出ヲ見サルナシト雖モ其品質ニ於テ稍々内地品ニ劣ル所アリテ尙年々内地ヨリ多少ノ移入アリ今ヤ製法ノ改良ニ意ヲ用ヒツツアレハ近ク島内需要額ヲ充スニ足ル生産ヲナスニ至ルヘシ土木工事一段落ヲ告ケシタメ此方面ノ需要幾分減退セルカ近來製糖用トシテ需要ヲ喚起シタルカ爲メ生産數量ヲ増加セリ即チ左ノ如シ

石灰製造戸數及產額應別表

應別	戸數	職工	產額	價額
臺北	四八戸	一八六	一三三,四〇〇斤	五〇,九六五
宜蘭	二	一五	五八,〇〇〇	三九,九九五
桃園	六	二六	一,三三〇,〇〇〇	八九,一七五
新竹	三〇	六三	一,一五〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇
臺中	一四	二八	一,四七〇,〇〇〇	一三六,〇〇〇
嘉義	四	一七	四八〇,〇〇〇	六二,一五〇
臺南	三三	六八	一,九三七,〇〇〇	一六三,九九五
阿緞	一六	九八	六八八,〇〇〇	三九,二〇〇
臺東	九	五九	一,〇〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇
花蓮	二	一一	一,五〇〇,〇〇〇	一三六,〇〇〇
澎湖	二	九	五八八,〇〇〇	四三,九九五
澎湖	二七	六〇	六,九〇〇,〇〇〇	一三三,九九五

計	大正四年	大正三年	大正二年
戸數	一九六	一〇六	一一三
職工	一八六	一一一	一〇九
產額	二,一九一,一五六斤	一,一七〇,一三五	一,三三三,八三九
價額	一五九,八六五	一三六,〇〇〇	一八二,七七五

尙參考ノ爲メ各應ノ報告ヲ掲クレハ左ノ如シ

**臺北應報告** 臺北、淡水、基隆地方ヲ主産地トス戸數四十八職工百八十六アリ前年ヨリ二百餘萬斤ヲ増シ一千二百三十四萬二千八百五十斤價額五萬九千六百五十五圓ノ生産アリ之カ生産ノ消長ハ一ニ島内消費ノ如何ニ係リ年々多少ノ増減ハ免レズト雖著シキ變調ヲ見ス相場百斤五十錢内外トス

**宜蘭應報告** 應下ニ於ケル本業ノ産額ハ尙尠數ナリト雖モ之カ原料頗ル豊富而モ安價ニ製造シ得ラレ其ノ品質ハ他應産ノモノニ比シ優等ニシテ金瓜石田中鐵山宜蘭出張所ニ於テハ内地其他ノ地方ニ開催セル博覽會及共進會ニ出品シ常ニ銀賞銅賞ヲ受領セシト一再ニ止マラス從テ之カ需用ハ累年増加ノ傾向ヲ示セリ即チ本年中ニ於ケル實況ヲ見ルニ製造戸數五戸産高五十八萬五千斤價額三千九百九十三圓ヲ算シ之チ前年ニ比スレハ戸數二戸産額十萬斤價額九百八圓ヲ増加セリ而テ本業ハ今ヤ製糖業ノ擴張ト鐵筋混凝土築造物ノ流行ト藥用其他ニ需要ノ増加ヲ見ツツアルハ頗ル多幸ノ前途トスルニ足ルモノアリ

**臺中應報告** 原料ハ澎湖島及本島沿岸ニ於テ是レヲ求メ製造シツツアルカ年々逐フテ製産額ヲ増加シツツアリ

**臺南應報告** 石灰ハ建築工業及製糖工業ニ使用セルヲ主トスルカセメントノ使用増加ニ伴ヒ建築上ノ需要ニ對シテハ幾分不振ナルヲ免カレス製糖業ニ對シテ前年來需要額ニ加リ遂ニ石灰業者間販賣價格ニ競争行ハレタル爲メ本年ハ産額増加セルニ反シ其價額ハ反テ前年ニ劣レリ

**臺東應報告** 石灰製造者ハ個人經營ノモノ只一人アルノミニテ從テ製造方法モ拙劣ナル爲メ其製造高モ亦僅少ナリ本年中製造セ



### 第二十一章 製靴業

本業ノ大部分ハ支那靴ヲ製造スルモノニシテ從來洋式ノ製靴ハ内地人ノ製造スル所ナリシカ近來臺灣人ニシテ斷髮シ洋服ヲ著用スルモノ多ク徒ツテ洋靴ヲ穿ツ者年々増加シ來リタルヲ以テ本島都會地ニ於ケル支那靴製造業者モ亦洋靴製造ヲ兼營スルモノ多キヲ加ヘ本年度ニ於ケル製品價額ノ如キハ殆ント支那靴ノ半ハニ達スルニ至リ一般ニ好況ナリ即チ左表ノ如シ

製靴業戸數及生産額應別表 (1)印ハ西洋形ニシテ他ハ支那形ナリ

縣	別	戸	數	職	工	製	品	額	價	額
臺	北	三	三	一	一	一	一	一	一	一
宜	蘭	五	五	六	六	六	六	六	六	六
桃	園	六	六	六	六	六	六	六	六	六
新	竹	二	二	二	二	二	二	二	二	二
臺	中	三	三	三	三	三	三	三	三	三
南	投	一	一	一	一	一	一	一	一	一
計		118	118	118	118	118	118	118	118	118

尙參考ノ爲メ各縣ノ報告ヲ掲クレハ左ノ如シ

臺北廳報告 製靴ハ從來本島形靴ノミ製造シタル本島人靴商モ西洋形靴ヲ兼造スルモノ漸ク加リ年々本島形減少シ西洋形増加ノ

傾向ヲ示セリ之レ本島人ニシテ西洋形ヲ使用スル者ノ増加セルニヨルモノナルヘシ製造戸數ハ三十五軒ニシテ内地人約三

分ノ一ヲ占メ産額本島形二萬九千六百六十八足西洋形一萬一千四百九十五足ニ上ル品質ノ優劣又ハ形ノ大小ニ依リ價額一定

縣	別	戸	數	職	工	製	品	額	價	額
嘉	義	四	四	六	六	六	六	六	六	六
臺	南	一	一	一	一	一	一	一	一	一
阿	緞	一	一	一	一	一	一	一	一	一
花	港	一	一	一	一	一	一	一	一	一
澎	湖	一	一	一	一	一	一	一	一	一
計		118	118	118	118	118	118	118	118	118
大	正	四	四	六	六	六	六	六	六	六
大	正	三	三	五	五	五	五	五	五	五
大	正	二	二	四	四	四	四	四	四	四
大	正	一	一	三	三	三	三	三	三	三
明	治	四	四	六	六	六	六	六	六	六



第六編 工業 第二十二章 製藍業

セサルハ勿論ナルモ原料革類ノ價額暴騰ノ爲メ平均一足ノ價額本島形三圓西洋形七圓以上ヲ示シ前年ニ比シ約四割高ナリトス毎年内地二、三ノ靴商出張注文取リナシ當地共順調ニ経過セリ

宜蘭廳報告 廳下ニ於ケル本業ハ運々トシテ振ハス其ノ産額ノ如キハ年ニ依リ増減甚シク加之直接内地ヨリ洋靴ヲ移入シ販賣スル者頻出スルニ至リ爲ニ當業者ノ經營困難ヲ感シツツアルノ状態ナリ即チ本年中狀況ハ産額九百六十七足價額二千二百七十一圓ニシテ前年ニ比シ百五十七足價額五百二十五圓ヲ減少セリ而シテ是等製品中洋靴ト支那靴トノ數量ハ常ニ相半シ今ヤ男子ハ斷髮シテ洋服ヲ着用シ洋靴ヲ穿ツ者漸次増加シ該品賣行亦良好ナリ

臺中廳報告 歐洲戰亂ノ影響ヲ蒙リ牛皮其他ノ原料騰貴ニ依リ其供給減少チ來セル爲製造數量ヲ減セリ

臺南廳報告 近年本島人間ニ洋形靴ノ需要漸次増加ノ傾キアリシモ革類ノ騰貴セル爲メ本年ニ至リ再ヒ在來臺灣靴ヲ使用スルモノ多キニ至リ前年ニ比シ産額著シク増加シタリ

第二十二章 製藍業

本島ニ於ケル製藍ノ原料ハ木藍及山藍ノ二種ニシテ普通醱酵法ニ據ル泥藍製造業ハ人造藍ノ爲メ漸次販路ヲ侵蝕セラルルニ至リシノミナラス近年蔗作及米作ノ好況ニヨリ之カ作付平地栽培甲數ヲ減シ僅ニ山地ニ栽培セラルルノ狀況ナリシカ戰亂ニ基ク染料ノ異常ナル暴騰ニ伴ヒ本島製藍モ蘇生ノ思ヒヲナシ數量、價格共前年ニ比シ非常ノ發展ヲ見タリ即チ左ノ如シ

製藍戶數及生産額應別表

(1)ハ原料トシテ山藍ヲ使用シタルモノニシテ他ハ木藍ヲ使用シタルモノナリ

廳別	製造戶數	製造高價額	廳別	製造戶數	製造高價額
臺北	101	1,000,000	花蓮港	1	400,000
宜蘭	12	1,100,000	計	35,583	11,000,000
桃園	13	1,100,000	大正四年	22,996	11,000,000
新竹	100	1,100,000	大正三年	11,000	11,000,000
臺中	100	1,100,000	大正二年	11,000	11,000,000
南投	100	1,100,000	大正元年	11,000	11,000,000
嘉義	100	1,100,000	明治四十四年	11,000	11,000,000
臺南	100	1,100,000			
阿緞	100	1,100,000			

尙參考ノ爲メ各廳ノ報告ヲ掲クレハ左ノ如シ

臺北廳報告 製藍ハ戰亂突發ト共ニ染料ノ輸入全ク杜絶シ相場非常ニ暴騰ヲ唱ヘ廳下ニ於テハ原料木藍ノ作付面積ノ増加トナリ

泥藍ノ産額劇增シ前年ニ約五倍増加セリ又藍靛製造トシテ新ニ臺北染料合資會社設立ノ外各地同業者勃興ノ氣配ヲ示シ頗ル活氣ヲ呈セリ泥藍ノ産地ハ廳下芝蘭一堡同二堡ヲ主トシ興直堡橋接堡八里坌堡三貂堡文山堡等ニシテ戶數百二生産七十二萬八百六十四斤ヲ算ス相場百斤約五圓ニシテ取引多忙ヲ極メタリ藍靛ハ泥藍ヲ原料トナシ臺灣染料合資會社一千八百三十三斤ヲ産シ其ノ他ノ工場ヲ合シテ廳下二千五百四十一斤ノ生産ヲ見タリ臺灣染料合資會社ハ資本九千三百圓全部拂込トナシ空氣壓搾機一組同用エーアチエンバー一箇蒸汽罐一箇ヲ用ヒ一時盛ンニ製造ナシ内地在庫品ノ市場出廻リト對岸地方ヨリ輸入又ハ内地斯業ノ發展等漸ク價額ノ低落ヲ唱フルニ至リ相場一斤三圓以下ニ降リタルヲ以テ取引不引合トナリ製品ノ澁滞ハ事



第六編 工業 第二十二章 製藍業

業ノ縮少ヲ招ヤ年末ニ及ヒ經營難ヲ開クニ至レリ要スルニ本島從來ノ泥藍ハ順調ニ經過シタルモ藍錠ハ聲ノミ大ニシテ不結果ニ終レリト謂フヘシ

宜蘭廳報告 由來廳下ハ泥藍ノ產地トシテ其ノ名チ島内ニ博シ昔時頭圍港ヨリハ毎年數萬圓ノ製品ヲ對岸ヘ輸出シツツアリシモ其ノ主ナル產地ハ山脚地方ナリシ爲領臺當時ノ匪徒騷擾ニ依リ急激ニ生業者ヲ減シ引續キ人造藍ノ移入ニ抑壓セラレ漸次山藍ノ栽培面積ヲ減シ今ヤ殆ント山地ノ一部ニ限ラルルノ状態ニシテ益々不振ノ傾向ヲ示シツツアリシニ最近歐洲戰亂ノ突發爾來人造藍ノ輸入殆ント杜絶セラレタル結果又々泥藍製造ニ活氣ヲ呈スルニ至レリ即チ本年中ニ於ケル生産狀況ヲ見ルニ左ニ表示スルカ如ク製產高六萬九千五百五十斤價額三千四百三十三圓ヲ算シ之ヲ前年ニ比スレハ製產高ニ於テ六千八百八十斤價額七百九十七圓増加セリ

大正五年中製藍高對照表 (△印ハ減)

年 別	戶 數	醱 槽 數	產 額	價 額
大 正 五 年	17戶	115槽	69,550斤	3,433圓
大 正 四 年	24戶	118槽	57,700斤	2,757圓
比 較	△	△	△	△

尙前年督府ヨリ保管轉換ヲ受ケタル藍錠製造器具五組ハ本年一月中之ヲ當業者ニ貸付ケ殖産局ヨリ技術員ノ派遣ヲ請ヒ製造法ノ傳習ヲ爲シ各自製造ニ從事セシメタルニ何レモ相當ノ成績ヲ擧ケツツアルヲ以テ更ニ五臺ノ保管轉換ヲ受ケ之ヲ希望者ニ貸付スヘク目下勸誘中ナリ

新竹廳報告 主トシテ木藍ヲ原料トスル泥藍製造ハ時局以來染料輸入杜絶ノ爲價格ノ昂騰ヲ來シ從テ需要ノ増加ヲ告ケタレハ之カ製造亦旺盛極メ而モ本期ハ風水被害少ナカリシカハ著シク其ノ產額ヲ増進セリ即チ左ノ如シ

年 別	戶 數	產 額	價 額
大 正 三 年	118戶	113,341斤	6,074圓
大 正 四 年	110戶	89,866斤	6,855圓
大 正 五 年	108戶	80,956斤	5,757圓

臺中廳報告 歐洲戰亂ノ爲メ染料騰貴ニ依リ木藍種ノ栽培ヲナス者増加シ從テ製藍高水分ノ増加ヲ示セリ

臺南廳報告 染料騰貴ニ伴ヒ木藍ノ栽培ヲ増加シ從テ泥藍製造額モ著シク増加シタリ即チ左ノ如シ

年 別	戶 數	醱 槽 數	產 額	價 額
大 正 四 年	1,414戶	1,401槽	1,009,455斤	55,403圓
大 正 五 年	1,099戶	1,151槽	1,192,211斤	90,858圓

阿緱廳報告 戰亂ノ影響ニ依リ染料ノ騰貴ニ伴ヒ多少製藍業ノ發展ヲ來セルノ模様アリ泥藍製造月數ニ於テ前年ノ九十八月八百四十一月トナリ四十三月ヲ増加シ產額三十八萬八千五百十斤價額三萬一千八十圓ニシテ產額四萬二千九百餘斤價額三千四百餘圓ノ増加ナリトス

第二十三章 染色業

從來本島ノ染色法ハ支那在來ノ舊法ニシテ頗ル手數ヲ要シ價額割合ニ高價ナルニモ拘ハラズ耐久力強キヲ以テ一般需要者ニ歡迎セラレシカ其原料タル天然泥藍ハ人造藍ニ抑壓セラレ漸次其原料生産



ヲ減少セルノミナラス近時人造藍ヲ以テ染色スルモノアリテ本島染ノ特色ヲ失ハントスルニ當リ近年内地布帛モ本島需要者ノ嗜好ニ從ヒ夫々染色ノ上移入セラルルモノ益々多ク本島ニ於ケル斯業經營者ヲシテ漸ク困難ニ陥ラシメントスルノ傾向アリシカ只歐洲戰亂ノ餘影トシテ綿布類ノ騰貴甚タシキ爲メ幾分斯業從事者ヲシテ復活セシメタルヤノ感アリ統計ノ比較スヘキモノナシト雖モ本年ノ生産高左ノ如シ

染色業戸數應別表 (斤)

應別	戸數	職工數	仕上高	
			數量	價額
臺北	100	110	11,000	11,000
宜蘭	11	11	11,000	11,000
桃園	11	11	11,000	11,000
新竹	11	11	11,000	11,000
臺中	11	11	11,000	11,000
嘉義	11	11	11,000	11,000
臺南	11	11	11,000	11,000
阿緞	11	11	11,000	11,000
計	211	211	211,000	211,000

尙參考ノ爲メ各應ノ報告ヲ掲ケレハ左ノ如シ

**臺北應報告** 染色ハ染料價格暴騰シ營業者ニ打撃ヲ與ヘタルモ特ニ調整ヲ認メス例年ト大差ナク戸數四十一ニシテ染料消費高藍十八萬二千五百五十五斤其ノ他十萬二千四百二十二斤ヲ算シ各工場共ニ相應ニ事業ヲ經營シ順調ニ経過セリ

**宜蘭應報告** 應下ニ於ケル本業ハ近年其ノ原料タル天然泥藍ノ人造藍ニ壓倒セラレ漸次其ノ產額ノ減少ニ伴ヒ人造藍ヲ使用スル者益々多キヲ加ヘ加之内地ヨリ移入セラルル布帛類ノ多クハ染色品ナルヲ以テ斯業ノ經營漸ク困難ナラントスル傾向ヲ示セリ而シテ本年中ニ於ケル狀況ヲ見ルニ原料消費高藍十萬九千七百七十九斤其ノ他一千五百七十斤ヲ減シタル爲結局總高ニ於テ六萬八千四百三十斤ヲ増加セリ

**臺中應報告** 染色原料ハ山菁藍ヲ用ヒ藍色原料ヲ最も多ク使用セリ而シテモ前年ニ比シ一般ニ不況ナリシカ如シ

**臺南應報告** 移輸入綿布類騰貴ニ伴ヒ島内産染色物需用激増ノ結果前年染原料ノ消費量六十二萬六千五百七十四斤ニ對シ本年ノ消費量九十九萬七千五百五十斤ニ上レリ而シテ前年ノ染上數量ハ調査洩ナルモ本年ハ三十一萬二千九百一十一反其價額三十一萬六千四百二十二圓ヲ示セリ

**阿緞應報告** 天然泥藍ト人造藍ニ壓倒セラレ逐年其ノ產額減少シ來リ加フルニ戰亂ノ影響ニ依ル染料ノ騰貴ハ染色業者ノ經營ヲ困難ナラシメ特色法ノ眞價ヲ減殺スルニ至リ側ラ内地移入品ハ取テ之レニ替リ染色業ハ益々不振ニ陥ルニ至リタルモノノ

大正四年	大正三年	大正二年	大正元年	明治四十四年
11,411	11,411	11,411	11,411	11,411
1,002	1,002	1,002	1,002	1,002
1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
1,112	1,112	1,112	1,112	1,112
1,112	1,112	1,112	1,112	1,112



如ク月數二十月前年ニ比シ五月ヲ減シ仕上價額合計三萬一千八百八十圓ニ過キス

### 第二十四章 製氷業

本島ニ於ケル本業ハ本島ノ位置熱帶及亞熱帶ニ跨ルヲ以テ氷ノ需要範圍頗ル廣大ニシテ逐年増加ノ趨勢ニアリ先年各地ニ製氷會社設立セラレシモ販路爭奪上激烈ナル競争ヲナシタル結果遂ニ各製氷會社何レモ新高製氷會社ニ合併セラレ爾來事業順調ニシテ益々發達シツツアリ尙臺北醫院内仁濟團ハ院内供給ノ目的ヲ以テ製氷工場ヲ設置シ事業ヲ經營シツツアリ

製氷高廳別表

製 氷 高 廳	工 場 數					價 額 (圓)				
	大正五年	大正四年	大正三年	大正二年	大正一年	大正五年	大正四年	大正三年	大正二年	大正一年
臺北	1	1	1	1	1	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
臺中	1	1	1	1	1	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000
嘉義	1	1	1	1	1	300,000	300,000	300,000	300,000	300,000
臺南	1	1	1	1	1	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000
計	4	4	4	4	4	2,000,000	2,000,000	2,000,000	2,000,000	2,000,000

尙本品ハ飲用ノ外「トロール」漁業ノ開始ニヨリ生魚ノ貯藏用ヲ激増シタル爲メ各工場共著シク生産ヲ増加シタリ

尙參考ノ爲メ臺南廳ノ報告ヲ掲クレハ左ノ如シ

臺南廳報告 水塊ハ新高製氷株式會社ノ經營ニ係ル打狗及臺南ノ二工場ヨリ生産スル水塊ハ逐年需要ヲ増加スルカ本年ハ殊ニ増

加率ヲ高メタリ即チ左ノ如シ

大正四年	五七五、九七〇貫	四五、二九七圓
大正五年	八三二、一九二貫	八三、二一九圓ナリ

### 第二十五章 石盤瓦製造業

本業ハ今尙微々トシテ振ハサレトモ其原料タルスレート岩層ハ北ハ宜蘭ヨリ南ハ臺東附近ニ連互シテ其蓄積累々廣大無邊ナルカ故ニ本品ノ需要増進シ大規模ノ經營ヲ爲スニ至ラハ將來ノ發展確實ニシテ可ナリノ産業タルニ至ルヘシ目下之カ經營者ハ宜蘭廳下蘇澳庄篠塚初太郎ノ經營スルスレート工場アルノミニシテ目下ノ所其生産數量モ多大ナラス前年ト大差ナシ

參考ノ爲メ宜蘭廳ノ報告ヲ掲クレハ左ノ如シ

宜蘭廳報告 廳下蘇澳庄土名北方灣ニ於ケル篠塚初太郎ノ經營ニ係ル「スレート工場」ハ本年ニ入り企業方法ニ一大刷新ヲ加ヘ著

實ニ經營セシ結果漸次好況ニ向ヒツツアリ即チ本年中ノ製造高厚口尺二寸瓦外四種三百一萬千五百十枚價格五千八百九十六錢ヲ算シ前年ノ實況ニ比較スレハ約四割ノ生産増加ヲ見ルニ至レリ而シテ本業ハ其ノ原料タル石盤岩層遠ク南方ニ連互シ其ノ蓄積廣大無邊ナルカ故ニ本品ノ需要増進シ大規模ノ經營ヲ許スニ至ラハ將來本業ハ一大事業タルヤ疑ナシ今左ニ製品別ノ成績ヲ表示セン



第七編 商業

第六編 工業 第二十五章 石盤瓦製造業

生産品別	数量	単價	額
厚口尺二寸 スレイト瓦	1,100,000 枚	1.10 円	1,210,000 円
同 尺 同	500,000	1.10	550,000
同 九寸 同	500,000	1.10	550,000
同 八寸 同	500,000	1.10	550,000
五寸面敷瓦	1,000,000	1.10	1,100,000
計	3,600,000		3,960,000



## 第七編 商業

### 第一章 總論

當年ノ臺灣通商貿易ハ移輸出價額一億一千二百三十餘萬圓移輸入價額六千五百二萬餘圓總額一億七千七百三十六萬餘圓ニシテ今之ヲ前年度ニ對比スレハ移輸出價額三千六百七十二萬餘圓即チ四割八分強ヲ増加シ又移輸入四十九萬餘圓ヲ増加シ結局合計總額ニ於テ四千八百三十三萬餘圓即チ三割八分ヲ増加シ改隸以來ノ新記錄ヲ作レリ而シテ前年ハ二千二百二十餘萬圓ノ輸移出超過ヲ示シタリシカ本年ハ實ニ四千七百三十二萬餘圓ノ多額ノ出超ヲ現出セリ斯クノ如キ顯著ナル出超ヲ示スニ至リシ主因ハ砂糖、酒精、生皮、樟腦油等ノ移出激増ト砂糖、樟腦、米及仲繼貿易品タル燐寸、乾魚及鹹魚等ノ輸出増加ニ基因セリ他方戰亂愈々酣ニシテ益々内地一般經濟界ノ活氣ヲ添ヘ物價ノ昂騰ヲ促カシ依而以テ斯ノ如ク本年本島貿易額カ空前ノ巨額ニ達シタルナリ

尙本年度ニ於テ特筆スヘキハ臺灣勸業共進會ノ開催セラレタル事ナリ空前ノ盛況ヲ呈シ觀覽者無慮八十萬ヲ以テ註セラレ地方ノ殷賑非常ナルモノニシテ本島人ノ啓發竝ニ本島紹介ニ與テ力アリ且商業工業者ヲ刺戟シタルコト甚ナカラサルノ效果ヲ收メタリ

(513)



第七編 商業 第一章 總論 島外貿易月別表 (單位圓)

Table with columns for months (月次), export (輸出), import (輸入), and total (計). Rows include years from 大正元年 to 大正四年 and monthly data for 1911-1915.

惟フニ本島移出貿易ノ消長ハ内地ノ經濟界ト最モ密接ナル關係ヲ有スルハ謂ハスシテ瞭カナルカ本年ノ内地經濟界ハ時局ノ好影響ヲ享ケ工業全部ノ勃興ト對外貿易ノ盛大ナルトニヨリ古今未曾有ノ活躍ヲ呈シタルニ依リ爲メニ砂糖消費ノ増加ハ産糖商激増價額ノ昂騰ト相俟テテ五千六百六十八萬餘圓ノ巨額ヲ移出シ前年度ニ比シ實ニ一千五百七十六萬餘圓ノ移出増加ナリ最近各種工業用原料トシテ酒精ノ用途廣範ニシテ移出額七百六十八萬圓ニ達シ輸出茶ノ壘ヲ摩セントスルノ盛況ニアリ生皮、樟腦油モ工業原料トシテ相應ノ移出増加ヲ見タルカ米ハ端境期迄内地米價額低落ノ爲メ却テ輸出ニ振リ向ケラレ芭蕉實ハ減産ニ因リ孰レモ減退セリ結局前年度ニ比シ二千五十萬圓ノ出超ヲ見ルノ盛況ニアリ即チ左ノ如シ

重要移出品前年對照表

Table with columns for years (明治三十七年 to 明治四十四年) and numerical data for various categories.



品名	五年		四年		增減
	數量	價額	數量	價額	
米 (穀類)	1,540,000,000斤	6,400,000,000圓	1,100,000,000斤	6,000,000,000圓	△
芭蕉實	11,500,000打	1,800,000圓	1,800,000打	6,800,000圓	△
鳳梨	90,000担	1,500,000圓	90,000担	1,500,000圓	△
烏龍茶	3,500,000斤	1,300,000圓	2,800,000斤	1,000,000圓	△
砂糖	11,500,000斤	5,000,000圓	11,500,000斤	5,000,000圓	△
生皮	11,500,000斤	800,000圓	11,500,000斤	800,000圓	△
樟腦	1,000,000斤	1,000,000圓	1,000,000斤	1,000,000圓	△
酒	100,000,000斤	1,000,000圓	100,000,000斤	1,000,000圓	△
鐵	100,000,000斤	1,000,000圓	100,000,000斤	1,000,000圓	△
銅	100,000,000斤	1,000,000圓	100,000,000斤	1,000,000圓	△
其他	1,000,000,000斤	1,000,000,000圓	1,000,000,000斤	1,000,000,000圓	△
通計		80,000,000,000圓		60,000,000,000圓	△

本年ニ於ケル輸出貿易ハ其輸出額三千六百六十五萬餘圓ニ迄ヒ前年ニ比シ一千六百二十二萬餘圓即チ約二倍ニ達スルノ激増ヲ示セリ而シテ輸出品中茶ニ於テ小許ノ減退ヲ見タル外ハ就レモ増加シ就中砂糖ノ一千餘萬圓ヲ始メトシ樟腦、米、石油、石炭及伸織貿易品タル燐寸、海産物、綿織物等増加甚タシク永ク不振ノ極ニアリシ本貿易ヲシテ復活セシメタルヤノ感アリ樟腦及烏龍茶ハ時局ノ爲メ

重要輸出品前年對照表

品名	五年		四年		增減
	數量	價額	數量	價額	
米	1,540,000,000斤	6,400,000,000圓	1,100,000,000斤	6,000,000,000圓	△
乾肉	1,000,000斤	1,000,000圓	1,000,000斤	1,000,000圓	△
龍眼 (乾肉共)	1,000,000斤	1,000,000圓	1,000,000斤	1,000,000圓	△
烏龍茶	3,500,000斤	1,300,000圓	2,800,000斤	1,000,000圓	△
包種茶	1,000,000斤	1,000,000圓	1,000,000斤	1,000,000圓	△
砂糖	11,500,000斤	5,000,000圓	11,500,000斤	5,000,000圓	△

歐洲諸國ニ嚮フモノ揚ナク大部分亞米利加ニ搬出サレタルカ同國經濟界ノ繁榮ハ驚クヘキモノニシテ是等ノ市況ヲ益々活潑ナラシメタリ砂糖ハ外糖ノ暴騰ニ乘シ稀有ノ豐作ト相俟テ東洋各地ニ供給サレ其ノ他穀類、石油、燐寸及海産物等ハ前年來動搖ヲ重ネ對外貿易不振ノ極ニアリシ支那モ黎元洪大總統ニ襲任スル頃ヨリ漸ク小康ヲ得一方市場在荷ノ稀薄ヲ招キ他ニ仰グノ途ナカリシヨリ必然的ニ本邦產品ノ需要ヲ喚起シ加フルニ銀相場ノ昂騰ハ輸出ヲ容易ナラシメタリ而シテ輸出品仕向地ハ亞細亞ハ一千四百五十五萬餘圓ニシテ四割六分ヲ占メ重ニ支那ニ向ヒ歐洲ハ英、佛へ僅カニ百萬餘圓ニ過キサリシカ亞米利加ハ一千七十七萬餘圓即チ全體ノ三割四分ニシテ内三分ノ二以上ハ合衆國ニ輸出サルルモノニシテ濠洲ハ五百二十八萬餘圓ナリ重要輸出品左ノ如シ



品名	五年		四年		增減	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額
鰹魚及鹹魚	1,000,000斤	111,700	850,000斤	107,100	150,000斤	4,600
罐詰食物	1,000,000斤	1,000,000	900,000斤	1,000,000	100,000斤	80,000
石油	9,800,000斤	22,500	8,000,000斤	15,000	1,800,000斤	7,500
樟腦	5,800,000斤	3,000	5,000,000斤	3,000	800,000斤	0
燐寸	2,500,000斤	1,000	2,000,000斤	1,000	500,000斤	0
苧麻	2,000,000斤	1,000	1,500,000斤	1,000	500,000斤	0
棉織物	6,800,000斤	6,000	5,000,000斤	5,000	1,800,000斤	0
石炭	7,000,000斤	3,000	5,000,000斤	3,000	2,000,000斤	0
其他	1,000,000斤	1,000	1,000,000斤	1,000	0	0
通計						

移入貿易ハ移出貿易ト共ニ逐年増進シ來リタルカ本年ハ移出貿易ニ見ルカ如キ顯著ナル發展ヲ示ササルハ本島經濟界數年來ノ不況閑散ニ因ルト内地製品ノ旺ンニ輸出ニ仕向ケラレタルニ職由ス去レト尙ホ且前年度ニ比シ九百萬圓弱ノ入超ヲ見タルハ蓋シ物價ノ騰貴ニ因ルモノトス今重要品ニ就テ之ヲ見レハ前年ニ比シ二十萬圓以上ノ入超ヲ告ケタルモノハ石油、鐵材、海產物、穀類、藥品類、紙、セメント、肥料、鐵製品等ニシテ十萬圓以上減退シタルモノハ豚、砂糖、豆油、木材、鑽、囊

類等ナリ

重要移入品前年對照表

品名	五年		四年		增減	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額
豚	1,100,000斤	3,000	1,000,000斤	5,000	100,000斤	1,000
米	7,800,000斤	1,200,000	6,000,000斤	900,000	1,800,000斤	300,000
小豆	300,000斤	400,000	1,000,000斤	1,000,000	-700,000斤	-700,000
蔬菜類	1,200,000斤	1,000,000	1,000,000斤	1,000,000	200,000斤	0
砂糖	2,500,000斤	3,000	2,000,000斤	3,000	500,000斤	0
菓子類	1,500,000斤	1,000	1,000,000斤	1,000	500,000斤	0
醬油	3,000,000斤	3,000	2,000,000斤	3,000	1,000,000斤	0
魚及鹹魚	4,000,000斤	4,000	3,000,000斤	4,000	1,000,000斤	0
鰹魚	1,000,000斤	1,000	800,000斤	1,000	200,000斤	0
乾魚	2,000,000斤	2,000	1,500,000斤	2,000	500,000斤	0
各種ノ罐詰食物	1,000,000斤	1,000,000	900,000斤	1,000,000	100,000斤	80,000
各種ノ罐詰食物	1,000,000斤	1,000,000	900,000斤	1,000,000	100,000斤	80,000
清酒	1,000,000斤	1,000,000	900,000斤	1,000,000	100,000斤	80,000
同種ノ罐詰食物	1,000,000斤	1,000,000	900,000斤	1,000,000	100,000斤	80,000
麥酒	1,000,000斤	1,000,000	900,000斤	1,000,000	100,000斤	80,000
紙卷	1,000,000斤	1,000,000	900,000斤	1,000,000	100,000斤	80,000
煙草	1,000,000斤	1,000,000	900,000斤	1,000,000	100,000斤	80,000



品名	五		四		增	減
	數量	金額	數量	金額		
豆油	1,215,710	1,215,710	1,215,710	1,215,710	△	1,215,710
石油	1,215,710	1,215,710	1,215,710	1,215,710	△	1,215,710
機械用油	1,215,710	1,215,710	1,215,710	1,215,710	△	1,215,710
石鹼	1,215,710	1,215,710	1,215,710	1,215,710	△	1,215,710
火藥	1,215,710	1,215,710	1,215,710	1,215,710	△	1,215,710
燐	1,215,710	1,215,710	1,215,710	1,215,710	△	1,215,710
綿布(各種)	1,215,710	1,215,710	1,215,710	1,215,710	△	1,215,710
毛織物	1,215,710	1,215,710	1,215,710	1,215,710	△	1,215,710
絹布及絹織物	1,215,710	1,215,710	1,215,710	1,215,710	△	1,215,710
絹布及絹織物	1,215,710	1,215,710	1,215,710	1,215,710	△	1,215,710
メリヤス肌衣(各種)	1,215,710	1,215,710	1,215,710	1,215,710	△	1,215,710
靴及其他履物	1,215,710	1,215,710	1,215,710	1,215,710	△	1,215,710
紙(各種)	1,215,710	1,215,710	1,215,710	1,215,710	△	1,215,710
石炭	1,215,710	1,215,710	1,215,710	1,215,710	△	1,215,710
セメント	1,215,710	1,215,710	1,215,710	1,215,710	△	1,215,710
陶器	1,215,710	1,215,710	1,215,710	1,215,710	△	1,215,710
鐵製	1,215,710	1,215,710	1,215,710	1,215,710	△	1,215,710
鐵道車輛及同部分品	1,215,710	1,215,710	1,215,710	1,215,710	△	1,215,710
木	1,215,710	1,215,710	1,215,710	1,215,710	△	1,215,710
枕木	1,215,710	1,215,710	1,215,710	1,215,710	△	1,215,710
各種肥料	1,215,710	1,215,710	1,215,710	1,215,710	△	1,215,710
其他特掲セザル諸品	1,215,710	1,215,710	1,215,710	1,215,710	△	1,215,710
通計	1,215,710	1,215,710	1,215,710	1,215,710	△	1,215,710

本年輸入貿易品價額ハ一千五百四十三萬餘圓ニシテ前年ニ比シ二百六十四萬餘圓ノ増加ヲ見タリ輸入重要品中葉煙草、大豆、黃麻、其他四、五ノモノヲ除クノ外ハ孰レモ入超ナリ阿片ハ專賣局貯藏品ノ減少ニ基ツキ油槽ハ農作物施肥トシテ輸入増加セルニ基因シ砂糖ノ豐饒ナリシハ囊類ノ需要ヲ喚起シタルモノニシテ製糖用機械ハ臺東製糖會社ノ工場建設ノ爲ナリ而シテ輸入品價額ヲ地方別ニ示セハ亞細亞ハ一千三百九萬餘圓ニシテ全體ノ八割四分ヲ占メ内支那ノ七百三十餘萬圓ヲ最トシ英領印度、波斯之ニ亞ク歐洲ヨリハ百三十萬餘圓ニシテ主ニ英國ヨリシ亞米利加ヨリ七十八萬餘圓ナリトス今重要輸入品數量、價格ヲ示セハ左ノ如シ

重要輸入品前年度對照表

品名	五		四		增	減
	數量	金額	數量	金額		
鐵道建設用材料	1,215,710	1,215,710	1,215,710	1,215,710	△	1,215,710
家庭橋梁船艇渠等ノ建設材料	1,215,710	1,215,710	1,215,710	1,215,710	△	1,215,710
鐵製	1,215,710	1,215,710	1,215,710	1,215,710	△	1,215,710
鐵道車輛及同部分品	1,215,710	1,215,710	1,215,710	1,215,710	△	1,215,710
木	1,215,710	1,215,710	1,215,710	1,215,710	△	1,215,710
枕木	1,215,710	1,215,710	1,215,710	1,215,710	△	1,215,710
各種肥料	1,215,710	1,215,710	1,215,710	1,215,710	△	1,215,710
其他特掲セザル諸品	1,215,710	1,215,710	1,215,710	1,215,710	△	1,215,710
通計	1,215,710	1,215,710	1,215,710	1,215,710	△	1,215,710



品名	五年		四年		增	減
	數量	價額	數量	價額		
大豆	五、四九一〇	一、二六〇	一、八六三	四、四九九	△	二、八八八
麵類(豆、麥、米、粟)	二、八〇二	四、一七二	二、八二一	四、一八〇	△	一、七七一
コシヤン	五、四〇二	一、六〇五	五、七一九	一、九三三	△	一、三二二
煙草	一、八七九	五、〇〇七	一、九〇七	五、一七三	△	一、一六六
石油	一、〇一〇	五、四四一	一、〇一〇	五、四四一	△	〇
人參	一、五三〇	六、〇九八	九、六三三	三、八三五	△	三、三三〇
阿片	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	△	〇
黃麻	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	△	〇
綿織子及綿イタリヤ	六、〇三九	一、〇〇七	六、〇三九	一、〇〇七	△	〇
苧麻	九、八七三	一、〇一〇	九、八七三	一、〇一〇	△	〇
苧麻布	三、四八三	六、八八〇	四、〇二〇	一、〇一〇	△	一、〇一〇
苧麻綿布	一、七〇二	三、四八〇	一、七〇二	三、四八〇	△	〇
カンニ(蠶(故共))	三、〇一〇	一、〇一〇	三、〇一〇	一、〇一〇	△	〇
唐紙(禮拜紙ナ除ク)	三、〇一〇	一、〇一〇	三、〇一〇	一、〇一〇	△	〇
禮拜紙	三、〇一〇	一、〇一〇	三、〇一〇	一、〇一〇	△	〇
石炭	三、〇一〇	一、〇一〇	三、〇一〇	一、〇一〇	△	〇
陶磁器	三、〇一〇	一、〇一〇	三、〇一〇	一、〇一〇	△	〇
茶	三、〇一〇	一、〇一〇	三、〇一〇	一、〇一〇	△	〇
鐵道建設用材料	三、〇一〇	一、〇一〇	三、〇一〇	一、〇一〇	△	〇
鐵道機車鐵道車用炭水車及部分品	三、〇一〇	一、〇一〇	三、〇一〇	一、〇一〇	△	〇

品名	五年		四年		增	減
	數量	價額	數量	價額		
製糖用機械及同部分	一、五五六	一、五五六	一、五五六	一、五五六	△	〇
木材(茶箱用板及煙草用箱ナ除ク)	三、〇一〇	三、〇一〇	三、〇一〇	三、〇一〇	△	〇
茶箱用板	六、五二八	一、一七二	五、一三三	七、〇六三	△	一、八九一
包廂(蘭製砂糖共)	六、八八八	七、〇六三	八、七八八	六、八八八	△	一、一〇一
油槽(豆茶槽共)	一、〇七三	一、〇七三	九、五三三	一、〇七三	△	一、〇七三
其他	五、四一七	一、五三〇	九、五三三	一、〇七三	△	一、〇七三
通計	一、五五六	一、五五六	一、五五六	一、五五六	△	〇

尙參考ノ爲メ各處ノ報告ヲ掲クレハ左ノ如シ

臺北應報告

一般商況ハ年來不振ノ聲絶ヘサリシモ職テ本島各種商業ノ状態ヲ見ルニ概シテ順調ヲ持シ殊ニ農作物ハ兩三年來暴風雨ノ襲來ナク何レモ其熟豐産特ニ糖價ノ昂騰ハ益々斯界ノ旺盛ヲ來タシ一般商況ニ好影響ヲ與ヘ不振ノ市況モ自ラ漸ク活氣ヲ加ヘ特ニ本年開催セラレタル臺灣勸業共進會ハ異常ノ盛況ヲ呈シ臺北市況ノ如キ實ニ空前ノ殷賑活躍ヲ來シ年來ノ不景氣去テ豫期以上ノ好況ヲ招キ共進會閉會後商狀平靜ニ歸シタリシモ著シキ變調ナク又内外貿易ハ船腹ノ不足ニ依リ打撃ヲ蒙リシモノアリト雖出入常ニ順況ヲ示シ製糖ノ出増其他著シキ活氣ヲ呈スルニ至リ戰時ノ影響トシテ内地財界ノ好況又ハ銀價ノ昂騰ニ依リ對岸輸出ノ促進等ニ伴ヒ常ニ輪移出ノ超過トナリ從テ本島財界ノ潤和ヲ招キ各銀行積金ノ増大利益ノ低下ヲ見ルニ至リシ等金融市場ノ好調亦移入ニ見ル所ニシテ商取引資金極メテ圓滑ニ終始セラレ年末決濟期ニ於テ往々繰出セル破綻者ノ如キ殆ント絶無ノ姿ニ在リテ臺灣銀行券ノ如キ年内二千萬圓蓋テ突破シテ増發セラレタルハ蓋シ偶然ニアラス

宜蘭應報告

本年中ニ於ケル廳下沿岸貿易ノ總額ハ四百八萬三千八百八十圓ニシテ前年ノ三百四十二萬七百二圓ニ比スレハ實ニ六十六萬二千四百七十八圓ノ増加ヲ示セリ殊ニ移出額ハ二百七十七萬二千四百八十三圓ヲ算シ前年ヨリ二十八萬三千二百二十七圓多シ之レ重要物産中砂糖ノ出荷量減少セリト雖米、樟腦、鹽油ノ產出頗ル多ク取引活潑ナルモノアリシニ因スルモノニ



第七編 商業 第一章 總論

シテ其ノ移出額ヲ表示シ一般ヲ知ルニ便セシ

種別	大正四年中		大正五年中		比較増減(△減)
	輸出	輸入	輸出	輸入	
米	7,813,315	1,210,914	7,912,919	1,851,009	5,061,910
砂糖	2,100,914	1,210,914	1,851,009	1,210,914	5,061,910
樟腦	3,266,400	1,210,914	4,994,400	1,210,914	1,783,486
糖	1,945,115	1,210,914	3,240,000	1,210,914	1,929,086
油	3,878,814	1,210,914	4,715,414	1,210,914	836,500
其他	1,210,914	1,210,914	1,210,914	1,210,914	0
計	17,286,370	5,061,910	22,824,656	6,704,765	5,767,981

移入亦民度ノ向上ニ伴ヒ飲食物類漸次増加シ新式製糖場ノ設立ニ依リ魚物穀器類ノ需要頓ニ喚起サレ其ノ總額ハ百九十一萬六千九百七十四圓ニ上リ之ヲ前年ニ比スレハ實ニ三十七萬九千二百五十一圓ノ増額ヲ見タリ要之廳下ノ一般商業ハ各種起業ノ勃興ト原始的產物ノ増出トニ依リ逐年堅實ナル發達ヲ途クツツアリ

桃園廳報告

一般商況ハ前年ト大差ナキモ近年農作物ノ豐饒ナリシト地方ノ開發ト相俟テ漸次好調ニ向ヒツツアリ上半期ハ持越米ノ移出ニ依リ一時活氣ヲ呈シタリシモ其ノ後内地市場ノ影響ニ依リ米價低落シ春茶ハ價格好況ニシテ相當資金ノ需要ヲ見タリシモ夏茶ノ期ニ至リ輸出關係ニヨリ不況ヲ來スニ至レリ下半年期ニ入りテハ一期作ノ豐收ニ拘ハラズ依然商勢不振ノ狀態ヲ持續シタリシニ十月末内地米價ノ騰貴ト共ニ米況頓ニ活氣ヲ來シ殊ニ糯米ノ移出増進シ之ニ要スル資金ノ需要繁忙ヲ加ヘ茶價又順調ニ復シタリ加之總督府施設ニ係ル石門埤圳工事ノ起工及臺灣製糖株式會社ノ採取區域擴張鈴木合名會社ノ蔗作糖廠經營等ノ爲メ多數ノ人員廳下ニ入込ミタル結果日用雜貨品ノ賣行増大シ各市街地繁盛ヲ加ヘ歲末ニ及ヒテハ米價益々好調ニテ一般農家ノ購買力ヲ増進シ金融緩慢ニシテ本島人ノ慣習ニ係ル冬至季ノ取引決済モ滯滞ナク行ハレ市況股賑ノ中ニ越年セリ

株式會社彰化銀行桃園支店本年中米、茶及雜貨等ノ商業資金トシテ貸出シタル高百三十五萬千八百六十二圓年末殘高二十九萬八千七百六十六圓前年ニ比シ貸出高三十七萬五千三百八十三圓年末殘高十七萬二千六百六十六圓ヲ増加シ金利約二分ヲ低下セリ

新竹廳報告

本年ハ時局ノ影響ヲ受ケ一部商品ヲ除ク外一般物價ノ昂騰ヲ來シ就中廳下主產物タル砂糖、茶、樟腦ノ好況ハ各種商品ノ取引ヲ誘致シ延テ内外貿易ノ發展ヲ示スニ至レリ蓋シ廳下ニ於ケル移出品ハ累年増加ノ趨勢ニシテ從來主トシテ取引先ヲ臺北ニ仰キ内地ヨリノ直移出入ハ頗ル僅少ノモノナリシモ漸次直移出入業者ノ増加ヲ見ルニ至レリ而シテ輸出入品ハ他管内ヲ經過スルノ外廳下貿易港タル慈港後壠ノ兩港ニ依ルモノナルカ其ノ本年ノ貿易概況ヲ表示スレハ左ノ如シ

港別	大正五年		大正四年		計
	輸出	輸入	輸出	輸入	
舊港	1,806,455	753,864	1,635,799	1,171,111	1,455,511
後壠	1,806,455	753,864	1,635,799	1,171,111	1,455,511
計	3,612,910	1,507,728	3,271,598	2,342,222	2,911,029

臺中廳報告

二三年來農作物豐饒ナルカ上ニ米價騰貴シ從テ農民ノ懐合モ幾分豐カトナリシモ一面歐洲戰爭ノ影響ヲ受ケテ物價ノ騰貴ヲ告ケ購買力ヲ減殺セラレタルノ觀アリ然レトモ甚シキ悲聲ヲ聞カス前年ニ比スレハ遙ニ盛況ヲ呈セリ獨リ製糖地ニ於テハ帽子業ノ不振ニ依リ收益ノ減少ヲ來シ從ツテ活潑ナラス辛フシテ營業ヲ持續スルニ過キサル有様ナリ

南投廳報告

管内ノ商業ハ交通關係上從來卸賣商トシテ見ルヘキモノナク單ニ日用雜貨及地方生產物ノ取引ニ止マルヘキ小賣商ノミニシテ其取引ノ中心ハ概ネ管外ニ存在ス本期彰商鐵道株式會社ノ解散ニ依リ鐵道撤廢ハ南投街ヲ中心トシ延テ集々埔里社方面ニ至ル商取引ニ影響シタルコト多大ナリシモ臺中街營業者本期管内ニ於ケル活躍多大ナリシヲ以テ本期末ニ於テハ稍々之ヲ恢復シ時局ノ影響ニ依リ一般物價騰貴ニ拘ラス地方金融緩慢ニ依リ商況概シテ良好ナリキ

本期臺灣勸業共進會開催ノ刺戟ハ管内營業者ヲシテ彼此物產ノ對照調査ノ便ヲ與ヘ若干企業的商取引ヲ爲サントスルモノノ聲



第七編 商業 第一章 總論

出シ地方産物紹介トシテ直接需要地ニ之ヲ取引セントスルカ如キ就中乾荷ノ如キハ香港ニ特派員ヲ派出シテ取引上ノ調査ヲ爲シタルモノアリ實ニ共進會ノ影響ハ管内營業者ヲシテ覺醒セシメ一躍海外取引ノ積極的施設ヲナサシメ其影響良好ナリキ

**嘉義廳報告** 大正三年以降農産物工産物漸ク豐收ヲ告ケ産業一般ニ順調ニ歸シ殊ニ本年ハ甘蔗ノ增收米價ノ騰貴ハ共ニ農民ノ經濟狀態ヲ良好ナラシメタルヲ以テ金融ハ適當ナル緩和ヲ得産業組合中信用組合ノ著實ナル操業ハ克ク之レカ調節ヲ計ルニ至リシ結果商業上ニ好影響ヲ與ヘシヲ見ル管内商業者ノ營業狀態ヲ總括シ前年ト對照スルトキハ次ノ如シ

年 別	販 賣		營 業	
	卸	小 賣	卸	小 賣
大 正 四 年	六,四〇一,三七四	一,一四九,四八八	一,七七一,三二五	八,九三二
大 正 五 年	七,七九七,一七三	一,三九六,一七九	二,〇九三,三六六	一〇,一四九
比 較 増 加	一九,五〇,五五	二四八,七九一	三〇一,〇四〇	一,二一七
大 正 四 年	一,五八一,〇五五	一,〇〇一,一七九	一,〇〇一,一七九	二,五八二
大 正 五 年	一,七五〇,五五	一,〇〇一,一七九	一,〇〇一,一七九	二,五八二
増 加	一九,五〇,五五	二四八,七九一	三〇一,〇四〇	一,二一七

當街ハ例年歳末大賣出ヲ爲シ盛況ヲ添フル企畫アリテ之レカ前年トノ比較ヲ見ルニ本年ハ内地人、本島人各々分離シ實施ノ

大 正 五 年 一〇九、四六六

大 正 四 年 五一、〇〇九

増 加 五八、二五七

第七編 商業 第一章 總論

臺南廳報告

結果交々成績ト上ケ景品總額八千三百圓ニ對シ歳末迄ノ抽籤券發行高内地人十三萬六千八百枚本島人十三萬五千枚計二十七萬千八百枚ニ達シ前年ノ十一萬三千六百枚ニ比シ二倍強ヲ占メ商況ノ比較的佳良ナリシヲ窺フニ足ル

一月中ニ於ケル商況ハ例年閑散ヲ免カレサル所ニシテ本年モ亦不振圈内ヲ脱スル能ハサリキ二月モ閑散ヲ持續シ三月モ亦途ニ活潑ナル商況ヲ見サリキ四月ニ入りテ各商店共店頭裝飾ヲ一變シ夏物ヲ陳列シテ華客ノ招來ニ努メ人氣亦夏向品ニ聚リ稍段盛ナル取引ヲ見タリ五月ハ臺灣勸業共進會ノ開催アリシ爲メ本廳下ヨリモ多數ノ觀覽者ヲ出シ又内地ヨリノ觀覽者中廳下ノ舊所名蹟其他製糖工場等廻覽スル者多ク旅館料理店等大ニ股賑ヲ加ヘタリ六月ハ例年ノ所謂夏枯時期ニシテ市場ノ人氣稍消沈シ一般商況寂寥ヲ極メ七月ハ中元節季ナルヲ以テ贈答品ハ勿論一般商品モ又相應ノ賣行ヲ見ルニ至リ八月ハ尙夏枯時期ナルヲ以テ市況好勢ナル能ハス然レトモ本年ハ降雨期比較的短ク連日炎天續ナリシ爲メ飲料用水店ノ如キハ頗ル繁盛ヲ極メタリ十月ハ追々冬季節ニ向ハントスル折柄糖業ノ好景氣ナルニ連レ人氣稍々景氣付キ殊ニ本月下旬ハ臺灣神社ノ例祭ニ際會シ近郊ノ人出モアリ商況一段ノ生氣ヲ添ヘタリ十一月輸出貿易益々盛シニシテ正貨ノ膨脹實ニ著シク吾カ財政史上一新記録ヲ作りタリ爲メニ諸物價ハ益々奔騰シテ下層社會生活難ノ聲愈々響シク殊ニ本島ニ在リテハ橫打船船運賃ノ引上ニ依リ本月ヨリ總テノ内地移入貨物ニ對シテ一割乃至三四割ノ値上ヲ斷行セラレ南部地方民間ノ經濟狀態ニ一大苦痛ヲ感セシメタリ市況モ同時ニ幾分ノ萎縮模様トナリ商況不活潑ヲ呈セリ

十二月ハ英服商團ト吳服以外ノ商團ト二派ニ岐レ互ニ相呼應シテ歳末聯合大賣出ヲ開始シ人氣ノ鼓吹ニ努メタル結果市況稍々恢復シ取引稍々旺盛ヲ示セリ

阿緞廳報告

廳下ハ純然タル農産地ナルヲ以テ從ツテ商業ハ極メテ單純ニシテ其ノ大宗タル米糖ノ如キハ大部分大手筋商人ニヨリテ取引セラレ特ニ二大製糖工場ノ製品ハ直接管外ニ搬出セラレ相場立等行ハルルヲ以テ廳下ノ商況ニ關係ナラズルコト薄ク他ハ直接消費者ノ需要ヲ充ス各種ノ雜貨類ニシテ特筆スヘキ商業ナキモ一般商況ノ振否ハ又直チニ米糖ノ豐凶ト米價ノ支配ヲ受クルコト頗ル大ナリ今其ノ大勢ヲ見ルニ新春早々歐洲戰爭ノ影響ヲ受ケ船腹不足シ貨物停滯シ加フルニ米價安ノ爲メ



購買力ハ著シク減殺セラレ景氣引立タス僅ニ本島人舊節季市場小繁ヲ呈シ四月臺灣勸業共進會ノ開催ニ伴ヒ稍見直タルノ狀アリ六、七月ニ至リ米糖モ亦稀有ノ農糧ヲ見農民ノ經濟比較的豐トナリ地方筋ハ漸ク佳良ノ景氣ヲ呈スルニ至レルモ二期米植付後天候不其水田ニ浮塵子ノ發生ヲ見收穫三割減ト豫想セラレ農民ハ大恐慌ヲ來シ米價ハ爲ニ俄然昂騰ヲ唱ヘシモ市場ハ差シタル變動ヲ見サリキ期末歐洲戰局講和ノ飛報アリ財界ノ動搖ニ連レ米價ノ暴落ヲ來セシモ大局ハ講和不成立ヲ豫想シ漸次恢復ノ狀況ニ向ヒタリ要スルニ經濟界ハ前年末ノ餘波ヲ受ケ依然緩慢ナル現象ヲ持續シ沈滞不振ヲ以テ越年セリ

### 第一章 砂糖

本年本島ノ砂糖生産狀況ハ栽培甲數ノ増加ト天候適順ナリシ爲メ稀有ノ豐饒ヲ告ケ前年度ニ比シ實ニ十八億餘萬斤ノ增收ヲ舉ケタリ今世界的商品ノ一タル本品ノ商況大勢ヲ窺フニ歐洲甜菜糖輸出不能ノ爲メ世界的ニ糖價ノ昂騰ヲ招キ英佛等ニアリテハ政府直營ノ下ニ瓜哇及玖馬糖ノ大買進ミヲ敢行シタルニヨリ東洋各地方竝ニ加奈太等人ノ本邦糖輸送旺盛ヲ極メ更ニ露國ニテハ砂糖主產地タル波蘭方面ノ獨逸ニ占領セララルヤ砂糖充實策トシテ輸入税ノ免除ヲ宣言シ吸集策ヲ講シタルニ加ハ内地市場ハ益々戰亂ノ好影響ニ浴シ大ニ砂糖消費力ヲ増進セリ斯カル好材料ニ迎ヘラレツツアリシタメ糖價ハ空前ノ高値ヲ維持シタリ今年ニ於ケル糖價ノ消長ヲ按スルニ一時原料糖價協定行キ腦ミアリシ爲メ暫ラク氣迷ノ姿ナリシモ部分的協定成立ト俱ニ年初分密糖十七圓見當ニ生レ三月迄持續シ其後外糖ノ價格昂騰ト共ニ四月末ニハ七、八十錢高ニテ取引セラレ八月ニ至リテハ奔騰ニ亞

クニ奔騰ヲ以テシ十九圓ヲ未曾有ノ高値ヲ演出スルニ至レリ越エテ九月末頃ヨリ外糖安ノ報導ト共ニ漸次下押ノ姿トナリ更ニ獨逸講和提議ノ風説ニ依リ幾分ノ下落ヲ見テ越年セリ要之本年ノ糖界ハ實ニ波瀾ニ富ミタレト内ニハ稀有ノ豐饒ヲ以テシ外ニハ世界的需給變調ノ却テ幸セルアリ活氣旺盛ノ裡ニ始終セリ移輸出高左ノ如シ

本島糖島外搬出高前年對照表 (單位斤)

月次	五年		四年		三年	
	移出	輸出	移出	輸出	移出	輸出
一月	4,000,000	11,000,000	3,000,000	10,000,000	2,000,000	9,000,000
二月	4,000,000	11,000,000	3,000,000	10,000,000	2,000,000	9,000,000
三月	4,000,000	11,000,000	3,000,000	10,000,000	2,000,000	9,000,000
四月	4,000,000	11,000,000	3,000,000	10,000,000	2,000,000	9,000,000
五月	4,000,000	11,000,000	3,000,000	10,000,000	2,000,000	9,000,000
六月	4,000,000	11,000,000	3,000,000	10,000,000	2,000,000	9,000,000
七月	4,000,000	11,000,000	3,000,000	10,000,000	2,000,000	9,000,000
八月	4,000,000	11,000,000	3,000,000	10,000,000	2,000,000	9,000,000
九月	4,000,000	11,000,000	3,000,000	10,000,000	2,000,000	9,000,000
十月	4,000,000	11,000,000	3,000,000	10,000,000	2,000,000	9,000,000
計	40,000,000	110,000,000	30,000,000	100,000,000	20,000,000	90,000,000



第七編 商業 第二章 砂糖

尙參考ノ爲メ各廠ノ報告ヲ掲クレハ左ノ如シ

臺北廳報告

砂糖、兩三年來風雨ノ大害ナク原料ノ豐熟ニ加フルニ糖價ノ昂騰ハ益々新界ノ旺盛ヲ招キ資金ノ需要實ニ空前ノ活  
氣ヲ示シ出荷増大ト共ニ本島財界膨脹ノ主因ヲナシ廳下生産糖ノ如キ素ヨリ糖價ノ一部ニ過キスト雖終始好況ヲ持シ内地市  
場ノ順調ハ益々糖界ノ全盛ヲ思ハシムルモノアリ而シテ本年特ニ注目ニ値スルハ對岸其他ニ對スル輸出ノ劇増ニシテ一段ノ  
景氣ヲ添フルモノアリ糖價ノ順否ハ中南部ノ大勢ニ左右セラレルカ故ニ今此ニ細述ヲ省クト雖試ニ左ニ本年基隆港移出額ヲ  
前年ニ對比シ參考ニ資ス

年 別	移 出 數 量	同 價 額	備 考
大 正 五 年	4,100,155斤	9,504,945圓	
大 正 四 年	5,312,960斤	6,408,112圓	
增 減	1,212,805斤	3,101,817圓	

宜蘭廳報告

廳下ヨリ産出スル砂糖ハ悉ク赤糖ニシテ本年中ニ於ケル管外搬出高ハ八十八萬五千餘圓ナリ之ヲ前年ノ二十四萬餘圓  
ニ比スレハ五萬五千圓ノ減少ナレトモ白糖ノ移入ハ總額三萬六千餘圓ニシテ前年ヨリハ六萬七千圓ヲ減セリ

新竹廳報告

本品ハ時局ニ依ル外糖高ノ影響ヲ受ケ年初分蜜糖十七圓赤糖十一圓見當ニテ前年來ニ比シ稍弱持合ノ狀ヲ呈セシカ  
其度一高一低或ハ糖價ノ協定又ハ之方釣上策等ヲ講シタル場合アリシモ漸次昂騰ヲ來シ六月ニハ十八圓五十錢十二月ニハ十  
九圓產ノ高値ヲ唱へ而モ對岸支那並ニ露國向輸出ヲ見、取引商狀氣丈ニテ始終セリ

臺中廳報告

栽培甲數増加ト稀有ノ豊饒トニ依リ製糖ハ其產額ヲ激増シ價格モ比較的高値ヲ以テ販賣セラレ各製糖會社ハ多額ノ  
收益ヲ見ツツアリ

嘉義廳報告

(商業)砂糖製造狀況ハ前述ノ如クニシテ之レカ處分ハ頗ル複雑ニ互リ右產糖額ニ對スルモノヲ明記シ難キヲ以テ打  
收益ヲ見ツツアリ

狗收稅官吏出張所ニ於ケル管內各新式製糖會社ノ内地移出島内消費外國輸出等ヲ掲ケ之レニ生産額ヲ併記シ其ノ梗概ヲ知ル  
ノ便トナス

砂糖處分表 (大正四年期)

企業者別	移 出		島内消費		外國輸出		計	管内生産	上記處分高ニ對スル生産歩合
	消費糖	原料糖							
東洋製糖會社	3,192,120	7,737,850	1,280,805	11,211,775	6,451,545	15,144,120	100%	100	
鹽水港製糖會社	3,032,140	5,111,180	1,727,100	11,232,485	4,011,215	10,250,375	74%	74	
大日本製糖會社	1,198,910	2,100,140	—	5,230,600	—	5,230,600	100	100	
明治製糖會社	1,211,100	1,112,611	7,112,611	1,710,000	6,392,611	11,211,100	114	114	
新高製糖會社	1,111,000	9,200,000	—	11,211,000	—	11,211,000	100	100	
計	11,745,170	26,062,781	2,707,905	46,647,965	10,462,760	110,918,500	—	—	

嘉義街砂糖相場 (大正五年中)(單位厘)

區 分	一 月	二 月	三 月	四 月	五 月	六 月	七 月	八 月	九 月	十 月	十 一 月	十 二 月	平 均
赤 糖	11,000	11,000	11,300	11,000	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000
分 蜜 糖	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
白 糖	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000

臺南廳報告

(商業)砂糖類ハ一月相場分蜜糖百斤十六圓八十錢ナリシモ内地經濟力膨脹其他諸般ノ事情ニヨリ漸次好氣配トナリ  
十一月ニハ十九圓十錢ノ底入相場トナリ近年未曾有ノ好況ヲ呈セリ含蜜糖モ亦同一歩調ヲ取り十二圓ヨリ十三圓八十錢ト漸  
進セリ本島需要モ内地經濟力ノ發展ニ伴ヒ増加シタルヲ以テ端境期ニ溢ミ却テ内地ヨリ逆移入ヲ見ルニ至レリ砂糖ノ賣行ハ

第七編 商業 第二章 砂糖



第七編 商業 第三章 米

前年ヨリ良好ナルモノアリキ

阿蘇糖報告

(商業)本期ニ於ケル糖下ノ製糖業ハ前年末ヨリ引續ケル糖價ノ騰貴及暴風雨其他ノ被害少ナカリシ爲メ原料ノ作付好況ナリシ結果明治四十三年以來始メテ見ル糖業ノ好況ヲ呈セリ今其ノ商況ヲ顧ルニ一時原料糖協定價額行儀ミアリシ爲メ分蜜糖市況ハ氣味アリタルモ部分的協定成立ト共ニ需要期ニ入りタル爲メ一月相場十七圓二十錢ヲ唱へ其後外國糖價ノ昇騰ニ伴ヒ四月末ニハ十七圓六十錢ニテ取引セラレ九月ニ至リ十九圓ニ垂ントスル本年中ノ最高値ヲ示シ其後外國糖ノ影響ヲ受ケ漸次ニ下押シ十二月ニ至リ講和説ニ迷ハサレ、内地市況俄然暴落ニ連レ島内市況モ又四五錢方下押トナリ以テ越年セリ赤糖モ亦分蜜糖市況ト終始シ三月最低値段十一圓三十錢十一月最高十三圓九十錢ヲ示セリ要スルニ本年砂糖ハ商工兩方面ニ於テ頗ル活氣アル狀況ヲ見タリ

第三章 米

本年ニ於ケル第一期作ハ甘蔗栽培面積増加ノ爲メ前年ヨリ幾分作付ヲ減セシモ生育期中氣候適順ナリシニヨリ平年作以上ノ增收ニシテ二百四十七萬石ヲ收穫シ第二期作ハ天候不順、灌水不足、浮塵子發生等ニヨリ收穫著シク減少シ二百十七萬石ヲ得兩期作ヲ合シテ前年ニ比シ十四萬石ノ減收ヲ見タルカ既往數年間ノ平年作以上ト謂フヘシ而シテ左表ニ示スカ如ク昨年ニ比シ移出米二十九萬五千餘石ヲ減少セルハ内地ニ於ケル豐作ニ依リ米價低落ノ結果島米ノ需要旺ナラザリシニ因ルヘク又輸出米ハ十一萬八千餘石ニ達シ前年ニ比シ九萬餘石ノ激増ヲ示シ例年無比ナル好況ヲ呈セシハ時局ノ爲

メ對支外米ノ輸入減退シタルト對岸銀價ノ騰貴ニヨリ本島米ノ需要ヲ喚起シタルニ因レリ米價ハ年初前年末ニ比シ稍々下鞆ニアリシモ一般經濟界ノ好調ハ漸次本品價格ノ昂進ヲ促カシ一月ノ八圓臺ヨリ年末ニハ十二圓ト漸騰セリ移動狀況左ノ如シ

米穀移動數量價額表

區 別	數 量		價 額	
	五 年	四 年	五 年	四 年
輸 入	114,016 石	110,000 石	1,140,000 圓	1,000,000 圓
輸 出	117,000 石	111,000 石	1,170,000 圓	1,110,000 圓
移 入	78,000 石	75,000 石	780,000 圓	750,000 圓
移 出	114,000 石	114,000 石	1,140,000 圓	1,140,000 圓
增 減	△ 3,000 石	△ 1,000 石	△ 30,000 圓	△ 10,000 圓

今本年ノ米況ヲ案スル内地ハ前年産米ノ豐穰ニ加ヘテ古米ノ不捌著シク市場軟弱ニ亞クニ軟弱ヲ以テシ三月ニ於テハ年中ノ最安値ヲ現出シ爾後其情勢ヲ趁フテ數月間保合狀況ニテ島米移出モ自然類勢ニ傾キ島米在米ノ稀薄ト相俟テ著シク移出ヲ減少シタルカ越ヘテ八月ニ追ヒ内地米ノ收穫期ニ臨ミ農家ノ鎌入不足ヲ傳フルヤ人氣興奮シテ市場ノ氣配高調ヲ呈シタルニヨリ稍移出ノ増進ヲ告ケタリシモ遇々本島二期作ノ不良ナルヲ傳フルヤ農民ノ賣惜ミニ島内相場却テ高値ヲ叫ビ十月十一圓十二月ニハ十二圓ヲ唱ヒ一時取引不引合ニ陥リタリ去レト年末ニ及ヒ株式ノ瓦落ト共ニ米價暴落ヲ演



シ船腹ノ不足ト相錯綜シ額勢支ヘ難ク越年セリ試ミニ本島四市場ノ米價ト各種米穀移動表トヲ掲ク  
レハ左ノ如シ

大正五年度臺灣米價月別平均 (單位厘)

月次	臺北市場		基隆市場		臺中市場		打狗市場	
	北部米	中部米	北部米	中部米	中部米	南部米	南部米	
一	七九七六	八〇九六	八九二七	九〇七九	八五九七	八五九七	九〇五五	
二	八四九四	八七六八	八六六〇	八六六〇	八五三七	八五三七	八七五八	
三	八九六七	九二五〇	八九九〇	八九九〇	八六六一	八六六一	八七二九	
四	九六六一	九三五九	九〇七四	九〇七四	九〇五八	九〇五八	九〇五五	
五	九七九〇	九七九〇	九〇九三	九〇九三	九〇六九	九〇六九	九〇六九	
六	九〇〇五	九〇〇五	九〇八〇	九〇八〇	八五五三	八五五三	八七七七	
七	九〇〇〇	九〇〇〇	九〇七五	九〇七五	九〇九五	九〇九五	九〇九〇	
八	九三三三	九三三三	九三三九	九三三九	九五八四	九五八四	九〇七六	
九	九四四五	九四四五	九四三三	九四三三	九四八四	九四八四	九四九六	
十	一一九九〇	一一九九〇	一一〇三三	一一〇三三	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	
平均	一一〇四五	一一〇四五	一一〇三三	一一〇三三	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	

米穀移動數量月別表

月次	移出		移入		輸出入	
	五年	四年	五年	四年	五年	四年
一	一三,三三三	一〇,八五八	一〇,七六六	一〇,七六六	二,五六七	一,五九二
二	一三,三三三	一〇,八五八	一〇,七六六	一〇,七六六	二,五六七	一,五九二
三	一三,三三三	一〇,八五八	一〇,七六六	一〇,七六六	二,五六七	一,五九二
四	一三,三三三	一〇,八五八	一〇,七六六	一〇,七六六	二,五六七	一,五九二
五	一三,三三三	一〇,八五八	一〇,七六六	一〇,七六六	二,五六七	一,五九二
六	一三,三三三	一〇,八五八	一〇,七六六	一〇,七六六	二,五六七	一,五九二
七	一三,三三三	一〇,八五八	一〇,七六六	一〇,七六六	二,五六七	一,五九二
八	一三,三三三	一〇,八五八	一〇,七六六	一〇,七六六	二,五六七	一,五九二
九	一三,三三三	一〇,八五八	一〇,七六六	一〇,七六六	二,五六七	一,五九二
十	一三,三三三	一〇,八五八	一〇,七六六	一〇,七六六	二,五六七	一,五九二
計	一三,三三三	一〇,八五八	一〇,七六六	一〇,七六六	二,五六七	一,五九二

尙參考ノ爲メ各應ノ報告ヲ掲クレハ左ノ如シ

臺北廳報告

(商業)前年來天候適順ニシテ自然豐産ノ米界モ年初以來相場依然低廉市場軟弱ニ軟弱ノ氣配ヲ告ケ第一期米ノ收穫

ニ依リ更ニ在荷潤澤商況不振ノ傾向アリテ前年ニ比シ移出減少セシカハ、九月頃ヨリ移出相場稍々高値ヲ唱ヘ且對岸其他ノ  
輸出頗ル好況ヲ呈シ内外出荷著シク増加シ相場ハ遞次高調トナリ石八圓臺ノ安値ヲ唱ヘシモノ順次十二圓臺ニ進ミ取引甚  
盛衛捌キ活氣ヲ來タシ殊ニ年末糯米ノ移出ハ一般ノ景氣ヲ加ヘタリシカ年來船腹不充分ノ結果基隆埠頭ノ如キ往々滞荷集積



第七編 商業 第三章 米

ノ不況ヲ見達ニ季節物タル糯米ノ幾分ハ倉庫滞積ノ儘商況見送ノ損失ヲ招キタルモノナリシカ如シ願下産米ノ内地移出ハ前年ニ比シ著シキ増減ナシト雖全島移出ハ減退ヲ見ル幸ニ前記ノ如ク對岸輸出盛況ヲ呈シ此ノ不況ヲ補フモノアリ内地移入米ハ依然需要好況ニ在リテ近年本島入米商ノ如キモ益々内地移入ニ著目シ直移入者増加ノ傾向アリ今前年及本年基隆港ニ於ケル移入統計ヲ示シ參考ニ資ス

年 別	移 出		移 入	
	數	價 額	數	價 額
大 正 五 年	九,〇五五,八〇五	三,三三三,八六八	六,一九一,九	九,九二一,六五
大 正 四 年	一〇,六一七,七七八	三,七〇一,〇〇	五,二六〇	八,〇八八,三五
增 減	減 一,五六二,九七三	減 四八七,一三二	增 一〇,九九	增 一,八三三,六

宜蘭廳報告

(商業)米ハ廳下唯一ノ重要産物ニシテ之レカ取引ノ盛衰ハ一般商況ニ影響スル所甚大ナリ而シテ本年中ニ於ケル移出ノ總額ハ七十九萬餘圓ニシテ前年ヨリ一萬圓ノ増加ナリシカ内地米ノ移入ハ七千圓ヲ減シテ僅ニ四十圓ニ過キス

桃園廳報告

舊臘未盛ニ活躍セル米況ハ本年ニ入り引續キ好況ヲ呈シタリシモ内地市場ノ影響ヲ蒙リ不振ニ陥リ一昂一低四月ニ至リ稍騰貴シタリシモ差シタル變動ナク一期作二九五、五二六石ヲ得テ未曾有ノ豐收ナリシニ拘ハラズ値段引合ハサル爲メ農家ニテ手放ス模様ナク島内消費用小取引アル外移出絶無ニシテ商狀抄々シカラス十月下旬内地相場ノ好況ト旱害蟲害ニ依ル二期作減少見越トニ依リ價格昂騰シ殊ニ需要季節ニ入りタル糯米ハ漸次移出ヲ増加シタリ十二月ニ及ヒ益々活況ヲ呈シ一石ニ付粳十二圓六十三錢糯米十五圓二十六錢ヲ唱ヘ前年同期ニ比シ粳四圓糯米三圓ノ高値ヲ見タリ本年中ノ移出及搬出石數ハ粳三萬四百一十石糯米四萬四千五百五十四石計十三萬四千五百五十五石ナリトス

新竹廳報告

米價ハ特ニ一高一低波瀾重疊ナキニアラサルモ兩三年來低落ニ低落ヲ告ケタル本品ハ時局ニ依リ諸物價ノ昂騰ニ伴ヒ高値ヲ持スルニ至レリ即チ年初八圓五十錢見當ハ前年末ニ比シ稍下轄ニアリシカ財界ノ好調人氣ノ興奮ハ自然本品價格ノ

第七編 商業 第三章 米

向上トナリ而モ在荷稀薄ヲ告ケタル折柄三月ニハ一躍十圓臺ニ五月ニハ十一圓ニ昂騰シ越テ七月ヨリ新米ノ出市在米ノ潤澤ハ再ヒ九圓臺ニ落込ミ軟弱保合取引閑散ノ狀ヲ呈シタリシカ内地ニ於ケル收穫減收ノ聲ヲ聞クヤ又々相場奔騰シ十月ニハ十一圓臺ニ更ニ十二月ニハ十二圓臺ノ高値ヲ唱フルニ至リ取引商狀意外ニ好況ヲ呈スルニ至レリ

臺中廳報告 下落セル米價ハ六月以降漸次騰貴シ來リタレハ從來貯藏セシ米ハ弗々移出ヲ見ルニ至リ盛況ニ赴キツツアリ

嘉義廳報告 米價ノ高低ハ依然常ナカリシカ大正四年ニ比シテ概シテ高直ヲ持續シ其ノ搬出ハ實ニ價額ニ於テ四十一萬九千六百八十二圓ヲ増加セリ左ニ其實績ヲ表示スヘシ

月 別	嘉 義		斗 六	
	數	價 額	數	價 額
一 月	二二,二二二	一八,九二二	二二,二二二	一八,九二二
二 月	二二,二二二	一八,九二二	二二,二二二	一八,九二二
三 月	二二,二二二	一八,九二二	二二,二二二	一八,九二二
四 月	二二,二二二	一八,九二二	二二,二二二	一八,九二二
五 月	二二,二二二	一八,九二二	二二,二二二	一八,九二二
六 月	二二,二二二	一八,九二二	二二,二二二	一八,九二二
七 月	二二,二二二	一八,九二二	二二,二二二	一八,九二二
八 月	二二,二二二	一八,九二二	二二,二二二	一八,九二二
九 月	二二,二二二	一八,九二二	二二,二二二	一八,九二二
十 月	二二,二二二	一八,九二二	二二,二二二	一八,九二二
十 一 月	二二,二二二	一八,九二二	二二,二二二	一八,九二二
十 二 月	二二,二二二	一八,九二二	二二,二二二	一八,九二二
計	九,一四九,六	五〇,〇〇〇	一〇,九二二	六八,三三三



第七編 商業 第三章 米

米價ハ概シテ良好ニシテ前年ノ平均相場七圓九十五錢ニ對シ九圓二十五錢ヲ唱ヘシモ最近五箇年平均價格十二圓七十二錢ニ比シ尙遜色アリ左ニ月別ノ狀況ヲ掲ケヘシ

嘉義街米價平均相場

月別	一石卸賣			摘
	上米	中米	下米	
一	八・七〇〇	八・五〇〇	八・三〇〇	上旬下落セシモ忽チ持チ直シノ儘持續
二	八・五五〇	八・三五〇	八・一五〇	下落、取引閑散
三	八・四〇〇	八・二〇〇	七・九〇〇	内地市況ニ連レ漸騰ス
四	八・三〇〇	八・一〇〇	七・八〇〇	内地移出並ニ對岸輸出行ハレ俄カニ活氣ヲ呈セリ
五	八・二〇〇	八・〇〇〇	七・七〇〇	引續キ上騰ノ傾向アリ此機殘存米賣放チ爲メニ下落ス
六	八・一〇〇	七・九〇〇	七・六〇〇	前月末ヨリ下押ヘ移出少ナク消費米トシテ僅カナル取引アリ
七	八・〇〇〇	七・八〇〇	七・五〇〇	甚タシキ低下ヲ見賣惜シミ爲メニ持合ノ姿ヲ呈ス
八	七・九〇〇	七・七〇〇	七・四〇〇	前月ノ反動ニテ幾分昇騰セリ
九	七・八〇〇	七・六〇〇	七・三〇〇	移出取引不引合ノ爲下落ス
十	七・七〇〇	七・五〇〇	七・二〇〇	稍活氣ヲ呈ス
十一	七・六〇〇	七・四〇〇	七・一〇〇	二期米減收ノ見込ニ加フル内地市價高ク上昇ス
十二	七・五〇〇	七・三〇〇	七・〇〇〇	引續キ良好ナリシモ反動ニテ下落ニ傾キツツアリ
平均	九・五〇〇	九・三〇〇	九・一〇〇	

最近五箇年米價平均相場(中米)

大正元年 大正二年 大正三年 大正四年 大正五年

第四章 茶

本年春茶ハ兩量多カリシモ生産狀態概シテ良好ニシテ幾分ノ增收ヲ告ケ夏茶ハ水味共ニ薄ク品質粗悪ナルノ傾キアリ其他普通ナリシカト製茶市場ハ例年ニ比シ出荷二三週遅延セリ

第七編 商業 第四章 茶

臺南廳報告

米ハ南部米一月相場石八圓三十五錢ナリシモ經濟界ノ發展ニ伴ヒ在米ノ漸次消化スルト共ニ價格ハ次第ニ昂進シテ八月ニハ十四圓二十錢トナリ内地米ノ收穫期ニ臨ンテ農家ノ鎌入不足ヲ傳フルヤ相場ハ又々奔騰シテ十二月ニハ十二圓七十一錢ノ高値ヲ唱フルニ至レリ本廳下ノ農家ハ本年一、二月頃ノ安値ニ賣リタルモノ夥カラザリシカ手持殘米モ尙ホ多カリシヲ以テ十、十一月頃ノ高値ニテ賣リタル者多カリシカ如シ

阿緬廳報告

前年末以來一般春高豫想ヲ以テ迎ヘラレタル米價モ越年後更ニ高値ノ氣配ナク却テ漸落シ春相場四圓ヲ唱ヘシモノモ三月中旬ニハ四圓壹(百斤建)ヲ破リ三圓七十錢迄落込ミ農家ハ賣惜ミ米界氣勢驟ラス本年中心ニ於ケル最低値段ヲ表ハシ内地注文モ更ニナカリシカ内地ノ不況ニ不拍對岸輸出ノ商談行ハレ本島相場漸次昇騰シ五月上旬四圓二、三十錢トナリシモ六月ニ至リ輸出下火トナリ傍テ内地定期米暴落ノ影響ヲ蒙リ八月中旬ニハ少シク引返セシ矢先内地天候順調厄日無難見越ニテ平年作以上ヲ唱ヘラレ又々落込ミノ氣配トナリシモ財界ノ順調株式昂騰ニ連レ本島米ノ注文旺盛トナリ又二期米植付後浮塵子ノ發生ヲ見收穫三割減ト豫想セラレ農民ハ大恐慌ヲ來シ内外相呼應シテ米價ハ俄然昂騰テ來シ五圓七十錢テフ本年中ノ最高値段ヲ顯ハシ天非知ラスノ勢アリシモ害蟲ノ被害ハ豫想ノ如ク激甚ナラス不安ハ小康ヲ得タルト講和ノ飛報ニヨリ財界ノ動搖ニ連レ定期米暴落ノ影響ヲ受ケ本島米モ亦五、六十錢方暴落ヲ見タリシモ大局ハ講和不成立ヲ豫想シ一般春高ヲ豫想シ越年セリ



烏龍茶ハ主要華客タル米國經濟界益々繁榮ニ赴キ年初活躍ノ前氣配ヲ呈セシカ五月ニ入りテ印度、錫蘭及本島新茶ノ入荷順調ヲ示スヤ曩ニ米國輸入減少ヲ見越シ先高豫想者ノ思惑失敗トナリ遂ニ人氣ノ銷沈ヲ來シ取引緩慢ニ陥リシカ七月夏茶ノ出廻ル頃ニ及ヒ紐育市況稍々恢復シテ漸次好況ヲ迎リ八、九月頃ニハ取引旺盛ヲ極メ其後一頓挫ヲ見ントスル事アリシカ本期ノ終リニ臻リ米國市場品薄ノ爲メ氣配頓ニ好況ニ轉シタルヨリ俄カニ買進ミニ出テ棹尾ノ活躍ヲ示セリ尙移出ノ大部分ハ内地ヨリ更ニ米國ニ輸出セラルルモノナリ英、濠方面ハ時局ノ影響ヲ受タル事甚クシク商況萎靡トシテ振ハス要之烏龍茶市況ハ一高一低端倪スヘカラサルモノアリシカ數量ハ移輸出合計ニ於テ前年度ニ比シ僅カニ一籌ヲ輸シタルノミ

更ニ包種茶ハ主要顧客地タル瓜哇市場ニ於テハ春來在荷薄ヲ感シ市況稍々活氣ヲ帶ヒタレト春茶ノ出廻遅レタルト新南洋船路ノ船腹割當不足等ノ爲メ輸出意ノ如クナラス五、六月頃ニハ瓜哇入荷減少品拂底ヲ見ルニ至リ注文殺倒シ商況活躍ヲ呈シタルニ依リ當事者ハ專ラ船腹調節ニ努メタルニ却テ反動的荷閩ヲ生シ市價下落セリサレト年末ニハ多少恢復セルヤニテ越年セリ

烏龍茶及包種茶移輸出表 (單位斤)

月次	烏龍茶輸出		包種茶輸出	
	同移出	計	同移出	計
五年	同移出	計	同移出	計
四年	同移出	計	同移出	計
五年	同移出	計	同移出	計
四年	同移出	計	同移出	計
五年	同移出	計	同移出	計
四年	同移出	計	同移出	計

各種製茶島外搬出高表

種類	數量		量(斤)		價額(圓)	
	輸出	移出	計	輸出	移出	計
烏龍茶	10,700,010	11,250,000	21,950,010	1,181,111	7,597,000	8,778,111
包種茶	1,000,000	1,000,000	2,000,000	1,111,111	1,111,111	2,222,222
紅茶	1,000,000	1,000,000	2,000,000	1,111,111	1,111,111	2,222,222
香茶	1,000,000	1,000,000	2,000,000	1,111,111	1,111,111	2,222,222
計	13,700,010	14,250,000	27,950,010	4,403,333	10,810,222	12,212,333



前年計	種類		數量		價		額(圓)	
	輸	出	出	移	出	移	出	計
前年計	1,748,327	3,111,110	110,747,577	77,101,178	1,092,317	1,092,317	8,109,599	
粉茶	1,111,111	1,111,111	1,111,111	1,111,111	1,111,111	1,111,111	1,111,111	1,111,111
壅茶	1,111,111	1,111,111	1,111,111	1,111,111	1,111,111	1,111,111	1,111,111	1,111,111
絲茶	1,111,111	1,111,111	1,111,111	1,111,111	1,111,111	1,111,111	1,111,111	1,111,111
計	1,111,111	1,111,111	1,111,111	1,111,111	1,111,111	1,111,111	1,111,111	1,111,111

尙參考ノ爲メ各廳ノ報告ヲ掲クレハ左ノ如シ

臺北廳報告

製茶ハ初春降雨多ク出荷稍遅延ノ傾キアリシモ品質佳良五月ニ入りテヨリ市場大ニ活況ヲ呈シ烏龍茶ハ洋行買込氣配例年ニ比シ不良ナラサリシモ漸次商狀一昂一低初夏ノ交ヨリ相場下落シ取引緩慢ノ狀ヲ呈シ荷捌キ抄々シカラス而カモ前年來船腹不足ノ爲メ一層氣配軟弱トナリ七月中旬頃ヨリ一時好景氣ナリシモ八月ニ入り再ヒ市況平凡トナリ爾來著シキ變化ナカリシカ茶期ノ終リニ當リ米國市場ノ好況ヲ傳ヘ洋行買込込ミ俄カニ増加シ相場高値ヲ唱ヘタルハ本年樟尾ノ一振ナリトス包種茶ハ南洋得意地ノ商況不良ナラス出荷大ニ活氣ヲ呈スルモノアリト雖從來同茶積取船タル南洋郵船組直航船ハ基隆寄港ヲ廢シ新ニ督府補助ノ下ニ大阪商船株式會社汽船本島、南洋間航路ノ開始トナリ前者ニ比シ航路中寄地多ク且ツ每航船腹不足ヲ告ケルノ狀態ニシテ荷捌上多大ノ打撃ヲ受ケ一時新界ノ頓挫ヲ來タシ市況沈滞ノ觀アリシカ茶商公會等專ラ之ヲ調節ニ努メ同茶ノ輸出ハ總テ公會ト商船會社側ト交渉スルコトトシ後漸ク出荷順調ニ復スルニ至リシモ尙前年ニ比シ運賃ノ昂騰ニ依然取引ノ變調ヲ免レズ從テ茶況概シテ活氣ナク前年ニ比シ幾分不況ノ成績ヲ示セリ叙上ノ如ク本年製茶市場ハ良好ナラサリシ又各國製茶ノ市場出廻リノ思慮等ニ依リ幾多變調ヲ免レサリシト雖未タ販路地及茶商増減等特ニ記スヘキ異動ナク

三井、野澤ノ兩商ノ如キ概シテ好果ヲ收メツツアルカ如シ又沖繩向トシテ近時移出計ルモノアリシカ漸次取引良好ニ進ミ同地輸入福州茶ノ販路ヲ暫食スヘク有望視セラル左ニ前本年各製茶輸移を表ヲ示シ參考ニ資ス

年別	茶種別	輸		出		年別	茶種別	輸		出	
		數量	價額	數量	價額			數量	價額	數量	價額
大正五年	烏龍包種	1,414,310	5,117,678	1,111,111	5,117,678	大正四年	烏龍包種	1,111,111	5,117,678	1,111,111	5,117,678
大正四年	烏龍包種	1,111,111	5,117,678	1,111,111	5,117,678	增	烏龍包種	1,111,111	5,117,678	1,111,111	5,117,678
		1,111,111	5,117,678	1,111,111	5,117,678	減	烏龍包種	1,111,111	5,117,678	1,111,111	5,117,678

備考 本表ハ内地移出ノ分ヲ合算ス

宜蘭廳報告

產額僅少ニシテ取引微々タリ而モ臺北地方ニ搬送スルヲ以テ其ノ搬出ノ額明カナラス

桃園廳報告

春茶ハ天候不順ナリシモ平年作ヲ得價格頗ル好況ニシテ百斤平均二十二圓ヲ唱ヘタリシニ夏茶ノ季ニ入りテハ品質良好ナリシニ拘ラス船腹不足運賃騰貴等時局ノ影響ニ依リ俄然暴落シ十七圓ト爲リ引續キ安値ナリシヲ以テ山方ニテハ實情ニ取引抄々シカラサリシモ金融逼迫ノ爲メ遂ニ賣放ヲ爲スニ至リ幸ニ價格モ漸次恢復シテ百斤十九圓内外ト爲リ平年價額ヲ保ツコトヲ得タリ

新竹廳報告

本期春茶ハ百斤二十二圓臺ノ高値ニテ取引セラレ其ノ數量又前年ニ比シ多大ノ増加ヲ示シタルカ夏茶期ニ至リ大規模ノ滞貨増加並船腹不足ハ相俟テ茶價ノ下落ヲ來シ一方山方ニ於ケル茶販人ハ先高ヲ見越シ賣惜ミノ結果取引商狀閑散トナリシモ秋季ニ至リ再ヒ十七圓臺ハ十九圓臺ニ向上シ商狀漸次回復シタルハ冬季ニ至リ稍順調ナル取引商狀ヲ呈セタリ

臺中廳報告

本品ノ取引ハ從來ト異ナルナク臺中池田正秀ノ如キハ自作園ヲ有シ製品ヲ販賣スルモ本島人ノ多クハ北部商人ノ產地ニ入り込ミ買ヒ求メニ應ジ販賣セリ商況ハ比較的良好ナルカ如シ



**臺南廳報告** 茶ハ内地人本島人ニ依リテ嗜好ナ異ニシ内地人ハ多ク宇治静岡方面ヨリ移入シタルモノヲ需要シ本島産烏龍茶ヲ嗜好スル者モ亦漸ク多ク實行年々増加ノ傾キアリ而シテ一般實行ハ前年ニ比シ内地移入茶及本島産共ニ増加ヲ呈シタリ相場ハ一月以來殆ント固定的ナリシモ船運賃ノ引上ケ其他經濟界ノ事情ニヨリ十月ヨリ百斤ニ付五十錢方ノ騰貴ヲ見タリ

### 第五章 酒類

本島ニ於ケル酒類ノ需要ハ比年増加ノ傾向ニシテ殊ニ本年四月臺灣勸業共進會ノ臺北ニ開催セララルルアリ未曾有ノ人出ニテ觀覽人八十萬ト註セラレ需要ノ旺盛ヲ豫期セラレシモ變敗酒多カリシト高値ノ爲メ豫想セル如キ移入ノ盛況ヲ見サリシハ多少島内ニ於ケル清酒釀造高ノ増加セルニモ原因スヘシト雖モ主因ハ前般ノ事實ニ外ナラス然レトモ麥酒ハ夏季永ク暑氣烈シキ本島ニ在リテハ好飲料トシテ年々需要増加シ本年度移入高二十一萬九千打價額六十萬餘圓ニ達セリ今清酒移入高ヲ左ニ表示セシ

清酒移入高表

月次	五 年		四 年		三 年	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額
一 月	1,517.7	20,101.4	1,519.4	20,124.8	1,519.4	20,124.8
二 月	1,517.7	20,101.4	1,519.4	20,124.8	1,519.4	20,124.8

尙參考ノ爲メ各廳ノ報告ヲ掲ケレハ左ノ如シ

**臺北廳報告** 内地移入酒類ハ年々需要増加シ商況順調ノモノアリシト雖モ内地原産地ノ値上ケニ伴ヒ常ニ高値ヲ唱ヘ殊ニ戰時影響品タル洋酒類ハ一層強氣配ヲ示シ實行抄々シカラス廳下生産酒類トシテ清酒ハ芳醇社ノ生産好況ヲ持シ實行相當ノ景氣ヲ示スト雖モ未タ豫期ノ利益ヲ擧グルニ至ラス經營亦注意ヲ加フルトコロアルカ如シ本島酒ハ近年各製造業者間ニ競争ノ傾向アリテ取引稍亂調ニ流レ代金ノ回收ニ困難ヲ來タシ自然造石數減少ノ傾向アリシカ漸ク各酒造業者警戒ヲ加フルニ至リ甚シキ不況ヲ見ルニ至ラス今基隆港ニ於ケル内地移入酒ヲ示シ參考ニ資ス

計	一 月		二 月		三 月		四 月		五 月		六 月		七 月		八 月		九 月		十 月		十 一 月	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額
計	1,517.7	20,101.4	1,517.7	20,101.4	1,517.7	20,101.4	1,517.7	20,101.4	1,517.7	20,101.4	1,517.7	20,101.4	1,517.7	20,101.4	1,517.7	20,101.4	1,517.7	20,101.4	1,517.7	20,101.4	1,517.7	20,101.4

年 別	清 酒 (罐詰)		清 酒 (樽入)		麥 酒	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額
大 正 五 年	11,155.4	51,749.4	4,174.4	11,981.1	1,519.4	20,124.8



年 別	清 酒 (樽詰)		清 酒 (樽詰)		麥 酒	
	數 量	價 額	數 量	價 額	數 量	價 額
大 正 四 年	11,406,818	4,962,264.00	4,755,710	2,897,550.00	1,110,118	5,488,545.00
增 減	4,666	21,103.33	6,118	11,773.33	1,799,000	6,011,333

臺中廳報告 酒類ノ需要ハ年々増加ノ傾向アリ内地ヨリ移入セラルル酒類ノ外本島ニ於テ製造ノ酒類モ共ニ販路廣ク商況良好ナ

臺南廳報告 内地清酒ハ九月頃迄價格ノ保合ヲ見タリシモ米ノ騰貴船運賃ノ値上ニヨリ十月頃ヨリ一樽ニ付一圓五六十錢ノ値上

アリ本島清酒亦内地ノ影響ニ依リ十月下旬ヨリ百斤ニ付三圓方値上ヲ見タリ麥酒類ハ相場殆ント變動ナク一箱十一圓八十錢處ヲ維持シタリ賣行ハ凡テ前年ニ比シ良好ナリシ

阿緞廳報告 廳下ノ酒類ハ年々相當ノ生産アリ本島人間ノ需給ヲ保チツツアルノ外内地移入清酒又逐年本島人側ノ嗜好擴大セラ

レツツアリテ都鄙ノ別ナク到處賣行良好ノ觀アルモ適確ナル搬入數量ヲ知ルヲ得ス今官線阿緞廳ニ於ケル大正五年中ノ酒類(罐詰樽詰突込)發着噸數ヲ見ルニ發着噸七十六噸著噸二百四十噸差引搬入百六十四噸ニシテ全廳下搬入額ノ約七八割ニ當ルモノト見テ大差ナカルヘシ

### 第六章 麥 粉

本島ニ於ケル本品需要ハ島内製麵業殊ニ大麵製造業及菓子製造業ノ發達ニ伴セ之カ原料トシテ益々需要増進ノ途ニアルカ其大部分ハ移輸入ニ待タサルヘカラサルカ本年ハ輸入皆無ノ狀態ナリ

月 次	移 入		輸 入		計	
	五 年	四 年	五 年	四 年	五 年	四 年
一 月	11,182,911	11,182,911			11,182,911	11,182,911
二 月	1,487,212	1,487,212			1,487,212	1,487,212
三 月	1,107,400	1,107,400			1,107,400	1,107,400
四 月	1,107,400	1,107,400			1,107,400	1,107,400
五 月	1,107,400	1,107,400			1,107,400	1,107,400
六 月	1,107,400	1,107,400			1,107,400	1,107,400
七 月	1,107,400	1,107,400			1,107,400	1,107,400

而シテ内地ニ於ケル原料小麥ノ實收高二千三百三十萬石ニ達シ平年作ニ比シ百萬餘石ノ豊收ヲ告ケタルヲ以テ價格ノ割安ヲ誘ヒ自然製粉ノ増産ヲ來シ本島ニテモ此趨勢ヲ趁ヘリ本年ニ於ケル之カ商況ヲ按スルニ舊年末ヨリ輸出氣構ヘ好勢ヲ持續シ年初臺北渡三圓ノ高値ヲ維持シタルモ米價ノ不味ニ一般氣迷ヒノ姿トナリ四月初ノ二圓七十錢ニ下降シ續テ小麥ノ大豐作豫想ニテ三十錢臺トナリ六月中旬ニハ二圓三十五錢ノ相場ナリシモ爾後氣勢ヲ擡ケ海外輸出ノ盛況ニ伴ヒ十一月ニ入りテハ三圓十錢ノ高値ヲ報シタルモ十二月中旬獨逸講和提議ノ報導ニ俄然崩落ヲ演シ市況不振ノ裡ニ越年セリ移入總額數量千七百二十二萬餘斤價格百二十七萬圓ニシテ各月移入高左ノ如シ

麥粉島内搬入高表 (單位斤)



月次	移入		輸入		計	
	五	四	五	四	五	四
八月	1,212,245	1,596,668			1,212,245	1,596,668
九月	2,282,118	1,472,000			2,282,118	1,472,000
十月	1,336,112	825,671			1,336,112	825,671
十一月	1,534,455	1,297,079			1,534,455	1,297,079
十二月	981,328	1,182,000			981,328	1,182,000
計	7,346,658	6,373,348			7,346,658	6,373,348

尙參考ノ爲メ各應ノ報告ヲ掲クレハ左ノ如シ

臺北應報告

時局ノ影響ヲ受ケ外品益々品薄ト共ニ内地品移入増加シ商狀著シキ變調ヲ認メスト雖相場高調取引頗ル氣配強ク前年ニ比シ幾分移入増加ヲ見ル基隆港移入ヲ示セハ左ノ如シ

年別	數量	價額
大正五年	11,249,771斤	810,925.44
大正四年	9,136,820	688,884
增減	2,112,951	122,041

宜蘭應報告

麥粉ノ移入ハ三萬八千餘圓ニシテ前年ノ三萬九千餘圓ニ比スレハ少シク減少セリ

臺中應報告

麵類ノ需要増加ニ伴ヒ麥粉ハ盛ニ製造セラルルト雖モ原料タル小麥品薄トナリ其他ノ原因ニ依リ價額騰貴シタルヲ以テ需用者ニ於テモ幾分手段ヘチナシタルノ觀アリキ

臺南應報告

麥粉ハ一月ヨリ五、六月迄著シキ相場ノ變動ヲ見ス未廣一袋二圓八十錢前後ヲ唱ヘタリシモ新粉ノ出廻ルニ至リテ氣配頓ニ挫折シ遂ニ二圓五十錢ニ落チ八月頃ヨリ反動的好氣配ヲ表ハシ十月ニハ三圓十錢ノ新高値ヲ見ルニ至レリ賣行ハ前年ニ比シ著シキ變化ナキモ稍々良好ノ成績ヲ示シタリ

阿緞應報告

本品ハ大部分移入品ノ供給ナルカ故ニ戰爭ノ影響ヲ受クルコト甚シク當初内地ニ於ケル生産過多製品停滯ニ加フルニ小麥ノ豐作豫想等ニ依リ四月本年中ノ最低相場ヲ示シ其後輸出ノ好望ニ連レ十二月初旬ヨリ講和祝提議ノ傳ヘラルルニ至ル迄本年中ノ最高値ヲ示セリ要スルニ本年中ノ麥粉市況ハ沈靜活躍騰落激シカリシ狀況ニアリタリ官緞阿緞驛ニ於ケル全年ノ著驛總噸數百九十一噸ニシテ全驛下搬入額ノ約七、八割ト見テ大差ナカルヘシ

第七章 乾魚及鹹魚

本島ニ於ケル本品ハ逐年需要増加ノ傾向アリテ其多額ナル實ニ驚クヘキモノアリノ大部分ハ内地移入ノ鹽鱈、乾鰯及乾蝦等ニシテ何レモ本島人ノ嗜好ニ適シ價格亦低廉ナルカ爲メ山間僻陬至ル所之カ需要ヲ見サルナク加之近年對岸地方ニ之カ需要ヲ喚起シ輸出ヲ増加シ來リ本年度輸出百三十七萬餘圓ヲ算シ鱈寸ニ亞キ綿布ト共ニ本島三大仲繼輸出品ニ數ヘラレ乾魚ハ煎子ヲ最トシ多ク厦門ニ向ヒ鹹魚鹽鱈ヲ主トシテ福州ニ搬出サル商況ハ内地ニ於ケル魚類ノ豐漁ニ因リ市場在貨潤澤價額ハ七月以降幾分ノ騰貴ヲ見タリシト雖モ概シテ低廉ナリシカ搬入額ハ特越品多カリシト價格ノ漸騰トニヨリ前年ニ比シ一籌ヲ輸スルノ狀態ナリ即チ左表ノ如シ



乾魚及鹹魚移輸入高表

月次	移入		輸入	
	數量	金額	數量	金額
一月	四九,五六八斤	三五,八四二円	五九,九三七斤	五〇,七八七円
二月	五八,一九九斤	三九,二七二円	二八,〇八七斤	二〇,六八七円
三月	三八,〇四五斤	二〇,〇五七円	五九,九三〇斤	五〇,六五八円
四月	四七,三五八斤	三三,五五五円	四三,五三三斤	三二,〇〇〇円
五月	四〇,四一四斤	三六,七〇五円	四四,五三七斤	三三,五〇〇円
六月	三二,七〇九斤	二二,〇九七円	三三,八七二斤	二五,五〇〇円
七月	一八,九九三斤	一六,〇一一円	二二,九四四斤	一七,七九五円
八月	八,七七九斤	一〇,四三三円	二一,六〇五斤	一五,一三三円
九月	一,七六六斤	一,七六六円	一四,九四八斤	一五,一八一円
十月	四九,九九八斤	四〇,九八八円	四〇,六三四斤	三三,四一〇円
十一月	五二,四九〇斤	三九,九一六円	五九,五三三斤	四七,七九〇円
十二月	四七,七四四斤	四一,一五九円	六,三三〇斤	四,八三三円
計	四三三,八〇四斤	三六六,七二七円	四六三,一〇四斤	四一八,一三三円

尙參考ノ爲メ各應ノ報告ヲ掲クレハ左ノ如シ

臺北應報告

戰時ノ影響ヲ受ケ内地人荷ニ多少ノ變動ヲ見タリシモ取引概シテ順況ヲ呈シ専ラ鹽麩、鹽麩、鱈類ノ實行良好ニシテ近來太刀魚其ノ他安値物ノ移入漸ク多キヲ加フ一面對岸其ノ他仲繼貿易トシテ輸出好況ニアリテ移入ト共ニ増加ヲ來タシ主トシテ本島人間中下流ニ多用セラレ實ニ内地移入品中ノ重鎮タリ取引狀況八年々本島人商買ト内地移入トノ關係益々密接

年別	港別	移入		輸入	
		數量	金額	數量	金額
大正五年	基隆	三〇,九三三斤	二五,九四九円	一三,七五五斤	九,一九四円
	淡水	二四,九三三斤	一八,七二八円	九,四七八斤	七,八〇九円
大正四年	基隆	二四,九三三斤	一八,七二八円	七,三五八斤	五,五〇五円
	淡水	一八,三〇二斤	一三,七五五円	一,一〇一斤	八〇九円
増減	基隆	増	増	減	減
	淡水	減	減	減	減

臺中應報告

乾魚及鹹魚ハ本島人ノ常食トシテ需要廣ク其大部分ハ基隆ヨリ移入セラル本品ノ卸商及小賣商ハ比較的收益多キヲ以テ他商ニ比シ好況ナリ

臺南應報告

乾魚類ハ概シテ不漁ノ結果一方内地需要尙熾ナリシ爲メ品不足ヲ訴ヘ八、九月頃ヨリ漸次昂騰シテ鰯類ハ二、三月頃ニ於テ百斤二十二、三圓ナリシモノ一月ニハ三十五圓ニ暴騰シ數ノ子ハ一月二十貫目十五圓八十錢ナリシニ十二月ニハ二十三圓ニ騰貴シ鰯類ハ一、二月頃土佐上物十貫目六十九圓處ナリシニ十一月、十二月ニハ八十三圓ニ暴騰シタリ鹹魚類モ一月以來五、六月迄ハ著シキ價額ノ變更ナカリシモ七月頃ヨリ漸次昂騰シ就中鰯類ノ如キハ五、六月迄八十貫目十一圓内外ヲ唱ヘタリシモノ十一月、二月ニハ十六圓前後ヲ呼フニ至レリ其他ノ鹹魚類モ概シテ右歩調ヲ辿リタリ然リト雖モ本島需要八年々増加ノ傾ヲ呈シ實行良好ナリキ

阿緞應報告

(商業)移入海産物ハ逐年其ノ需要ヲ増加シ就中内地安値物ノ鹽麩、乾鰯、乾蝦等ハ何レモ本島人ノ嗜好ニ適シ又價



第七編 商業 第八章 紙

額ノ低廉ナル何物モ是レニ匹敵スルコトヲ得ス市況ハ不斷活潑ニシテ廳下海産製造物ノ如キハ之レカ爲メニ壓倒セラレ逐年其ノ産額ヲ減少シツツアリ官線阿蘇驛ニ於ケル大正五年全年ノ著驛噸數七百三十七噸ナリトス

第八章 紙

本島ニ於ケル本品ハ人文ノ進歩ニ伴ヒ印刷業ノ發達トナリ擬洋紙(連史紙)ハ唐紙代用トシテ本島人間ニ販路ヲ擴張シ漸次唐紙ノ輸入ヲ防遏スルノ機運ニ向ヒツツアリ而シテ移入紙ノ内和紙即チ半紙美濃紙ハ三十八萬餘圓連史紙十七萬餘圓其他五十萬餘圓ヲ算シ唐紙中ノ粗唐紙七萬餘圓白糖紙五萬餘圓ヲ數フ本品ノ市況ハ前年來ノ高値ヲ繼キ年初以降無比ノ活氣ヲ呈シ殊ニ後半期ニ在リテハ輸出旺盛ヲ極メ再ヒ市場ノ盛況ヲ喚起シ價額昂騰ニ亞クニ昂騰ヲ以テセリ左ニ輸移入概況ヲ表示スヘシ

紙移輸入額表 (單位圓)

月次	移入		輸出		計
	年	月	年	月	
一	111,891	7,181	112,420	13,251	99,169
二	113,615	6,815	117,115	10,075	96,500
三	127,794	9,507	124,644	11,884	112,660
四	110,994	8,045	113,664	11,184	99,480
五	114,657	7,385	112,382	10,892	101,765
計	568,956	37,108	568,956	46,202	522,754

第七編 商業 第八章 紙

宜蘭廳報告 其ノ移入ハ減少セリ即チ禮拜紙ヲ除ク他ノ紙ハ二萬六千餘圓ニシテ前年ハ三萬一千餘圓ヲ算シタリ  
臺中廳報告 白紙ノ需要年々逐フテ増加シ赤紙ハ白紙ノ約五分ノ一ナリ取引ハ概シテ活潑ナラス

月次	移入		輸出		計
	年	月	年	月	
一	101,498	7,017	108,515	17,881	83,612
二	111,024	5,814	116,838	11,314	100,000
三	127,159	6,815	124,644	11,884	115,275
四	110,994	8,045	113,664	11,184	99,810
五	114,657	7,385	112,382	10,892	103,765
計	568,956	37,108	568,956	46,202	522,754

尙參考ノ爲メ各廳ノ報告ヲ掲クレハ左ノ如シ

臺北廳報告 時局ノ影響品トシテ洋紙類ハ著シク價額昂騰シ自然内地紙代用セラルルニ伴ヒ和紙又相場ノ騰貴ヲナシ商況不振ノ傾向アリシモ割合ニ實行良好ニシテ特ニ變調ヲ認ムルニ至ラス又廳下生産紙トシテ和紙(塵取)ハ價額幾分低廉ノ爲メ一般歡迎スル所アリシト雖製造原料ノ不充分ト工場設備ノ小規模ナルカ爲メ未ダ一般ノ需要ヲ充スニ足ラス今參考トシテ左ニ前年及本年基隆港ニ於ケル移入紙ノ價額ヲ示ス

年別	價額	備考
大正五年	八七〇、九九〇	
大正四年	六四九、八五〇	
増減	二二一、一四〇	



臺南廳報告 紙類中洋紙ハ時局ノ影響ヲ受ケ變動最モ甚シク本島産竹紙大組相場一月以來九月迄百斤五圓前後ナリシモノ十月六圓臺トナリ途ニ八圓マテ昂騰シタリ擬洋紙ハ米更紙一連(五百枚)一月ニハ三圓五十錢ナリシモノ暴騰シテ十二月ニハ五圓五十錢トナリ殆ント六割ノ騰貴トナル爲メニ印刷業者新聞業者ノ如キハ非常ノ打撃ヲ被レリ和紙ハ比較的騰貴セス僅カニ五分ノ値上ニ過キス實行ハ前年ト大差ナク相應ノ取引アリタリ

### 第九章 禮拜紙

本島ニ於ケル本品使用ノ慣習ハ本島人ノ智識開發ト移風易俗ノ傾向ニ連レ漸次需要ノ減退ヲ見ツツアリシカ本年ハ久シク中絶セラレタル大稻埕ノ平安建醮ノ祭禮ヲ行ヒ且ツ共進會開期中北港媽祖ヲ大稻埕ニ勸請セル等禮拜燒紙ノ機會多ク商況モ稍々良好ヲ呈セリ今之カ輸入額ヲ示セハ左ノ如シ

禮拜紙輸入額前年對照表

月次	數量		價額	
	年	年	年	年
一月	11,000斤	11,000斤	1,000圓	1,000圓
二月	11,000斤	11,000斤	1,000圓	1,000圓
三月	11,000斤	11,000斤	1,000圓	1,000圓
四月	11,000斤	11,000斤	1,000圓	1,000圓
五月	11,000斤	11,000斤	1,000圓	1,000圓
六月	11,000斤	11,000斤	1,000圓	1,000圓
計	66,000斤	66,000斤	6,000圓	6,000圓

本島製夏帽子ノ主ナルモノハ林投帽ニシテ大甲帽ニ至リテハ其産額依然トシテ微々タリ本年度生産高三萬箇ニ充タスシテ昨年ニ比シ約六千箇ノ減産ナリ而シテ從來林投帽ノ生産數ハ年々増大シ來リタルモ外商ノ壓迫本島取引商ノ濫賣ニ遂ニ價額ノ低落ヲ招キ年初相場ノ低落甚シカリシモ年末ニ迫

### 第十章 本島製夏帽子

尙參考ノ爲メ各應ノ報告ヲ掲クレハ左ノ如シ

臺北廳報告 一般紙價ノ昂騰ニ伴ヒ相場高値ヲ唱ヘ取引氣配強硬ナリシモ島内消費トシテハ一般購買不況ナラサリシニヨリ相應ノ實行ヲ呈シ輸入幾分ノ増加ヲ見タリ

宜蘭廳報告 禮拜紙ハ多ク對岸ヨリノ輸入ニ係リ時局ノ影響爲替相場ノ騰貴ニ依リ八、九月頃ヨリ俄ニ奔騰シタリ實行ハ年々遞減ノ傾向ナリ從ツテ商況ハ前年ヨリ實行少シ

月次	數量	價額
一月	11,000斤	1,000圓
二月	11,000斤	1,000圓
三月	11,000斤	1,000圓
四月	11,000斤	1,000圓
五月	11,000斤	1,000圓
六月	11,000斤	1,000圓
計	66,000斤	6,000圓



ヒ價額幾分昂騰セルカ之ヨリ曩紙製帽子製造盛ニシテ非常ナル發展ヲ遂ケ人氣ニ投シ一般景氣ノ恢復ト共ニ價格モ頗ル良好ニテ取引サレ製造高六十一萬餘箇ニ及ヘリ即チ左ノ如シ

移出及輸出帽検査高表

月別	林投帽		大甲帽		紙帽		計	
	合格	不合格	合格	不合格	合格	不合格	合格	不合格
一月	RECOIII	17,941	4,770	6,110	27	6,137	4,800	17,967
二月	RECOIII	29,354	3,877	110	210	210	30,564	3,877
三月	RECOIII	38,255	4,284	1,507	2,047	2,047	40,302	4,284
四月	RECOIII	18,505	9,881	9,880	34	9,914	18,539	9,881
五月	RECOIII	17,554	7,998	6,540	6,540	6,540	24,102	7,998
六月	RECOIII	11,304	5,559	5,540	5,540	5,540	16,844	5,559
七月	RECOIII	10,835	4,122	4,122	4,122	4,122	14,957	4,122
八月	RECOIII	4,666	5,108	5,108	5,108	5,108	9,774	5,108
九月	RECOIII	4,744	5,287	5,287	5,287	5,287	10,031	5,287
十月	RECOIII	6,191	8,711	8,711	8,711	8,711	14,902	8,711
十一月	RECOIII	6,593	15,544	15,544	15,544	15,544	22,137	15,544
十二月	RECOIII	6,166	15,544	15,544	15,544	15,544	21,710	15,544
計	219,387	143,843	219,387	143,843	219,387	143,843	438,730	143,843

尙參考ノ爲メ各應ノ報告ヲ掲クレハ左ノ如シ

臺北應報告

一時聲價ヲ博セシ林投帽ハ漸ク低廉ナル内地移入紙製帽ニ壓倒セララルノ傾向ヲ來タシ營業者間ニ憂慮セララルモノアリシカ益々紙帽ノ歡迎セラルルト共ニ途ニ同帽原料紙ノ移入ナシ林投帽工場ハ俄カニ紙帽製造ニ變化セントスルノ勢ヲ示シ自然林投帽ノ高價ナルモノハ殆ント店頭ニ跡ヲ收メ安價物ノ弗々賣行ヲ見ルノ有様ニシテ時昔ノ囑望却テ悲觀セララルモノアリ而シテ聽下ニ於ケル製造業者ハ極メテ微々タルモノニシテ販賣品ノ多クハ中部地方ノ生産品ニ係リ從テ營業者トシテハ甚シキ影響ヲ受ケスト雖本島特殊生産品トシテ注意ニ値ス又大甲製帽ハ相應ノ賣行アリト雖前記ノ如ク紙帽ノ販賣ニ伴ヒ大甲帽ノ比較的高價ナルハ一層一般ノ嗜好ニ投シ難ク自然商狀抄々シカラサルモノノ如シ

新竹應報告

林投製帽ハ年初輸出季ニ於テ男帽四、五、六等込六圓二十錢臺ノモノ漸次價格ノ低落トナリ八、九月ニ至リ男帽打四圓九十錢見當ニ由ル保險率並運賃昂騰及船腹不足ニ依ル輸出手控ヘ外商ノ壓迫本島取引商ノ競争濫賣ハ自然價格ノ低落ヲ來シタルモノノ如ク途ニ叙上ノ結果ヲ見ルニ至レリ而シテ年末輸出季ニ入りテハ男帽打七圓臺ヲ往來シ前年ニ比シ稍々高値ヲ保チタルモノ之カ製造ハ紙製帽出動ニ依リ其ノ影ヲ没スルニ至レリ之ニ反シ紙帽ハ年初ヨリ急激ナル發達ヲ遂ケ相場ハ年初輸出季ニ於テ男帽四、五、六等込打九圓ノ高値ヲ持シ而モ注文急ニシテ之カ需要ニ應スル能ハサルノ盛況ヲ呈シ産額増加シ而モ價額ハ七、八月頃ニ至ルモ尙打七、八圓臺ニ取引セラレ年末輸出季ニ至リテハ打九圓臺ニ復活シ商狀頗ル好況ニシテ始終セリ

臺中應報告

紙帽ノ流行ニ壓倒セラレ林投帽ハ價額下落シタリト雖モ移出數量ノ増加ニ依リテ販賣價額ヲ高メ紙帽ハ外見體裁宜シキヲ以テ需要セラレツアルモ製帽事業ハ一般ニ不況不振ノ域ニ在リ

臺南應報告

本島產夏帽子ハ林投、大甲共ニ相應ノ賣行アリタレントモ本島製トシテハ紙帽子賣行好ク相場ハ著シキ變動ナク林投帽一打ニ付七、八圓大甲帽一打五、六圓紙帽一打四、五圓處ヲ持續シタリ







年 別	移 入		輸 出	
	基 年	移 入	基 年	輸 出
大 正 五 年	4,111,911.00	5,585,540.00	1,040,000.00	
大 正 四 年	3,500,133.00	3,585,540.00	61,815.00	
大 正 三 年	3,500,133.00	3,585,540.00	61,815.00	
大 正 二 年	3,500,133.00	3,585,540.00	61,815.00	
大 正 一 年	3,500,133.00	3,585,540.00	61,815.00	
大 正 零 年	3,500,133.00	3,585,540.00	61,815.00	
增 減	811,778.00	2,000,000.00	1,188,222.00	

宜蘭廳報告 本品ノ移入ハ逐年増加ノ傾アリ即チ本年ハ四萬餘圓ヲ算シテ前年ヨリハ四千餘圓ノ増額ナリトス

臺中廳報告 綿布ハ内地製七分支那製三分位ノ割合ナリ本島人ハ之ニ加工シ紺淺黃染トナシテ取引ナシツア本島人ノ中流

以下ノ衣服ニ需要多シ

臺南廳報告 綿布類ハ從來支那製品多カリシモ漸次内地品ニ壓倒セララルル傾向トナリ内地品ハ原料ノ騰貴其他種々ナル原因ニヨ

リテ前年ヨリ二、三割高トナリタリ支那製綿布モ銀其他爲替相場ノ騰貴ニ依リ是亦概シテ前年ヨリ二、三割方ノ騰貴ヲ見タ

阿緞廳報告 移入品ノ第一位ヲ占ムル本品ノ騰下ニ於ケル市況ハ本島一般ト其ノ軌チ一ニスルモノナルカ如キモ本年ハ支那向輸

出旺盛ナリシ爲メ内地織布界ハ未曾有ノ活況ヲ呈シ價格昇騰ヲ來セル折柄當地方ハ米價安ノ爲メ一搬購買力振ハサリシカハ

### 第十二章 油 糟

本島ニ於ケル本品ノ需要ハ農事ノ改良ニ連レ逐年増加ノ趨勢ヲ呈セリ本島ニ輸入サルル油糟ハ大部

月 次	輸 入 油 糟					移 入 肥 料					輸 出 油 糟				
	一 月	二 月	三 月	四 月	五 月	一 月	二 月	三 月	四 月	五 月	一 月	二 月	三 月	四 月	五 月
一	1,933,996.00	1,100,000.00	9,999,999.00	110,000,000.00	5,555,555.00	5,555,555.00	5,555,555.00	5,555,555.00	5,555,555.00	5,555,555.00					
二	9,999,999.00	9,999,999.00	9,999,999.00	9,999,999.00	9,999,999.00	9,999,999.00	9,999,999.00	9,999,999.00	9,999,999.00	9,999,999.00					
三	11,111,111.00	11,111,111.00	11,111,111.00	11,111,111.00	11,111,111.00	11,111,111.00	11,111,111.00	11,111,111.00	11,111,111.00	11,111,111.00					
四	7,777,777.00	7,777,777.00	7,777,777.00	7,777,777.00	7,777,777.00	7,777,777.00	7,777,777.00	7,777,777.00	7,777,777.00	7,777,777.00					
五	3,333,333.00	3,333,333.00	3,333,333.00	3,333,333.00	3,333,333.00	3,333,333.00	3,333,333.00	3,333,333.00	3,333,333.00	3,333,333.00					
六	5,555,555.00	5,555,555.00	5,555,555.00	5,555,555.00	5,555,555.00	5,555,555.00	5,555,555.00	5,555,555.00	5,555,555.00	5,555,555.00					
七	2,222,222.00	2,222,222.00	2,222,222.00	2,222,222.00	2,222,222.00	2,222,222.00	2,222,222.00	2,222,222.00	2,222,222.00	2,222,222.00					

分滿洲産ノ大豆糟ニシテ本年入超ノ原因ノ主ナルモノハ砂糖累年ノ豊況ニ基キ甘蔗作付面積ノ増加ト共ニ水稻其他農作物ノ施肥ニ關シ農會幹旋ノ肥料共同購買ノ便方ニ促カサレタルニ因レリ此外大豆糟ノ製造ヲ主要ナル作業トスル私設藤田假置場ノ設立モ亦其ノ因ヲナセリ而シテ相場ハ年初米價安ヲ受ケ基隆渡シ一枚一圓二十五錢ノ安値ナリシモ其後產地高ニ加フルニ海運界ノ好況ニ連レ漸次上向キ六月ニハ一圓三十五錢ヨリ一圓四十錢ノ騰貴ヲ示スニ至レリ去レト格別ノ事モナク沈靜裡ニ越年セリ又輸入油糟中ノ茶油糟ハ主トシテ南部臺灣ニ於ケル魚鹽用トシテ需要多ク之亦入増セリ輸出油糟ハ落花生及胡麻子ナルカ近時島内消費増加ノ爲メ生産額増加セルモ輸出ニ激減セリ

油糟輸出入數量及肥料移入價額前年對照表



月次	輸入油類					移入肥料					輸出油類				
	五	四	三	二	一	五	四	三	二	一	五	四	三	二	一
八月	九,558.0	八,313.3	11,940.0	15,000.0	15,000.0	11,940.0	15,000.0	15,000.0	15,000.0	15,000.0	15,000.0	15,000.0	15,000.0	15,000.0	15,000.0
九月	11,745.5	5,181.3	11,940.0	15,000.0	15,000.0	11,940.0	15,000.0	15,000.0	15,000.0	15,000.0	15,000.0	15,000.0	15,000.0	15,000.0	15,000.0
十月	1,049.9	8,911.3	11,940.0	15,000.0	15,000.0	11,940.0	15,000.0	15,000.0	15,000.0	15,000.0	15,000.0	15,000.0	15,000.0	15,000.0	15,000.0
計	12,117.4	22,405.9	35,880.0	45,000.0	45,000.0	35,880.0	45,000.0	45,000.0	45,000.0	45,000.0	45,000.0	45,000.0	45,000.0	45,000.0	45,000.0

尙參考ノ爲メ各廳ノ報告ヲ掲クレハ左ノ如シ

臺北廳報告 督府並ニ各廳農會等ノ比年獎勵シツツアル施肥ノ效果ハ一層顯著ノモノアリテ殊ニ兩三年來本島暴風雨ノ襲來ヲ免

レ一般農作物ノ豐熟ニ伴ヒ益々農家ノ施肥觀念ヲ促進シ滿洲産大豆ノ需要劇增シ商狀極メテ旺盛ナリ只船腹ノ不足銀價ノ不

廉ニ依リ輸入上ノ不利ヲ蒙リシモ尙著シキ好況ニ在ルヲ見ル左ニ基隆、淡水兩港輸入ヲ示シ參考ニ資ス

年別	基隆	淡水	水
大正五年	1,595,546	9,111	9,111
大正四年	1,037,709	6,093	6,093
大正三年	557,837	3,129	3,129

宜蘭廳報告 主トシテ臺北地方ノ農作物トシテ移出セラル本年ノ總額ハ二千餘圓ニシテ前年ト大差ナシ

臺中廳報告 農家ハ施肥ノ必要ヲ感シ其需要增加セルモ農會ニ於テ多數ノ肥料ヲ供給シ減ハ内地肥料商ヨリ直接購入スルモノノ

リテ油類販賣者ハ其影響ヲ受ケ幾分不振ノ狀態ニアリ

臺南廳報告 油類ハ賣行極メテ良好ニシテ本廳下需要者ノ求ヲ充タス能ハス而シテ相場ハ全年殆ント高低ナク胡麻、落花生油類

共ニ百斤一圓六十錢ヲ維持シタリ

### 第十三章 石油

石油ハ都會地ニ於テ電燈設備ノ充實シ來ルニ隨ヒ需要範圍ヲ侵蝕サルルニヨリ輸入漸減ノ傾向ヲ

辿レルモ本年ニ於テハ戰時好影響ニ乘シ對支仲繼輸出旺盛ヲ極メタルト石油發動機漁船ノ活動ニヨ

ル需要増加ト且ツ船腹ノ缺亡甚タシキカ爲メ外油ノ輸入意ノ如クナラサル等ヲ見越シ採算上有利ナ

ル内地油ノ移入盛況ヲ呈セリ而シテ相場ハ高氣配ヲ以テ始終シ奔騰ニ次クニ奔騰ヲ以テセリ左ニ表

示ス

基隆市價 (一箱建單位圓)

種類	五		四	
	上	下	上	下
赤全勝	110-115	110-115	115-120	110-115
青全勝	110-115	110-115	115-120	110-115
梅實	110-115	110-115	115-120	110-115



本品ノ移輸入額ヲ表示セハ左ノ如シ

石油移輸入額前年對照表 (單位圓)

月次	輸 入					移 入					計	
	一	二	三	四	五	一	二	三	四	五	一	二
一月	3,774,775	1,923,255	3,002,100	1,281,335	5,277,335	5,964,440	2,277,335	3,687,105	8,244,545	8,521,780	14,766,325	
二月	4,920,000	9,840,000	3,000,000	1,237,275	7,277,275	7,277,275	7,277,275	5,111,111	12,388,486	12,388,486	19,665,961	
三月	1,923,255	2,884,882	3,000,000	5,088,222	11,076,444	11,076,444	11,076,444	11,076,444	11,076,444	11,076,444	22,152,888	
四月	1,171,675	9,840,000	1,171,675	11,076,444	12,248,119	12,248,119	12,248,119	12,248,119	12,248,119	12,248,119	24,496,238	
五月	4,920,000	1,171,675	1,171,675	1,171,675	8,435,025	8,435,025	8,435,025	8,435,025	8,435,025	8,435,025	16,870,050	
六月	4,920,000	1,171,675	1,171,675	1,171,675	8,435,025	8,435,025	8,435,025	8,435,025	8,435,025	8,435,025	16,870,050	
七月	4,920,000	1,171,675	1,171,675	1,171,675	8,435,025	8,435,025	8,435,025	8,435,025	8,435,025	8,435,025	16,870,050	
八月	4,920,000	1,171,675	1,171,675	1,171,675	8,435,025	8,435,025	8,435,025	8,435,025	8,435,025	8,435,025	16,870,050	
九月	4,920,000	1,171,675	1,171,675	1,171,675	8,435,025	8,435,025	8,435,025	8,435,025	8,435,025	8,435,025	16,870,050	
十月	4,920,000	1,171,675	1,171,675	1,171,675	8,435,025	8,435,025	8,435,025	8,435,025	8,435,025	8,435,025	16,870,050	
計	21,611,000	11,555,750	21,611,000	11,555,750	43,222,000	43,222,000	43,222,000	43,222,000	43,222,000	43,222,000	86,444,000	

尙參考ノ爲メ各應ノ報告ヲ掲ケレハ左ノ如シ  
 臺北應報告 前年來時局ノ影響ヲ受ケ輸入品ノ商況益々氣配強ク相場奔騰約五、六割ノ高値ヲ唱フルニ至リシモ需要狀態特ニ變

第十四章 石 炭

本島ニ於ケル本品消費高ハ年々増加ノ傾向アリテ一面時局ノ好影響ヲ受ケ炭價騰貴シテ息マス從ツテ下層炭ノ如キモ探掘サルルノ狀況ニシテ本年探掘高五十萬噸ニ及ヘリ輸出ノ如キモ對岸支那ニ向

動ナク且ツ對岸其ノ他輸向取引好調ヲ示シ自然内地移入品ノ増加トナリ價額騰貴ニ拘ラス荷捌キノ活況ヲ見ル左ニ甚隆淡水兩港ノ出入表ヲ示シ參考ニ資ス

年 別	輸 入		輸 出		移 入		移 出	
	量	價	量	價	量	價	量	價
大正五年	3,774,775	1,923,255	8,590,500	8,081,775	11,076,444	11,076,444	1,061,111	1,061,111
大正四年	9,273,266	1,171,675	11,248,119	11,248,119	11,076,444	11,076,444	5,840,000	5,840,000
大正三年	9,840,000	1,171,675	11,248,119	11,248,119	11,076,444	11,076,444	5,840,000	5,840,000
大正二年	3,774,775	1,171,675	8,435,025	8,435,025	8,435,025	8,435,025	8,435,025	8,435,025
大正一年	3,774,775	1,171,675	8,435,025	8,435,025	8,435,025	8,435,025	8,435,025	8,435,025

臺中應報告 市街地ハ電燈ヲ引用スルコトナレハ從テ石油ハ地方ノミニ需要多シ然レトモ價額騰貴ニ依リ商況引立タス  
 臺南應報告 石油ノ本島下ニ於ケル需要ハ米國產彗星印最モ多ク内地產石油ノ需要者ハ極メテ少シ而シテ石油ハ戰時影響ヲ受ケ著シク騰貴シタリ即チ彗星印一、二月相場一箱四圓十錢ナリシモ漸次奔騰シテ十一、二月ニハ四圓四十錢ノ高値ヲ唱ヘルニ至レリ去レト實行ニ於テハ日用必需品ナルヲ以テ相應ノ實行アリタリ







本島ニ於ケル本品ノ需要ハ年々増進シ其大部分ハ移輸入ニ待ツモノニシテ杉材ハ其ノ主ナルモノニシテ移輸入木材ノ過半ヲ占ム移入仕出地ノ主ナルモノハ勝浦、天龍川、鹿兒島等ニシテ輸入ハ大部分福州ヨリス而シテ本年ニ於テハ移輸入共板ニ於テ小許ノ増加アリシノミニシテ木材ハ何レモ減少セリ之カ原因ハ内ニ建築界未曾有ノ閑散ナリシト阿里山材ノ供給豊富ナリシニ因リ外ニ於テハ内地財界ノ活躍ニ伴ヒ需要増進ノ結果價格騰貴シ加フルニ運賃ノ昂騰ヲ來セルニ基ツクモノナリ只輸入材ノ如キ豫想ヨリモ多カリシハ戎克船ノ來往繁多ナリシカ爲ナリ要スルニ大口取引ナク輸移入手控勝ニテ越年セリ

木材輸入額前年對照表

月次	移入木材(立方尺)		移入板(平方尺)		輸入木材(立方尺)		輸入板(平方尺)	
	五年	四年	五年	四年	五年	四年	五年	四年
一月	1,284,374	1,300,000	511,211	511,211	8,751,111	11,181,111	31,111,111	21,111,111
二月	1,198,888	1,111,111	550,111	550,111	8,000,111	10,111,111	29,111,111	19,111,111
三月	1,351,111	1,111,111	498,111	498,111	9,111,111	11,111,111	30,111,111	20,111,111
四月	1,111,111	1,111,111	498,111	498,111	8,111,111	10,111,111	29,111,111	19,111,111
五月	1,111,111	1,111,111	498,111	498,111	8,111,111	10,111,111	29,111,111	19,111,111
六月	1,111,111	1,111,111	498,111	498,111	8,111,111	10,111,111	29,111,111	19,111,111
七月	1,111,111	1,111,111	498,111	498,111	8,111,111	10,111,111	29,111,111	19,111,111
八月	1,111,111	1,111,111	498,111	498,111	8,111,111	10,111,111	29,111,111	19,111,111
九月	1,111,111	1,111,111	498,111	498,111	8,111,111	10,111,111	29,111,111	19,111,111
十月	1,111,111	1,111,111	498,111	498,111	8,111,111	10,111,111	29,111,111	19,111,111
計	11,111,111	11,111,111	5,111,111	5,111,111	81,111,111	91,111,111	251,111,111	151,111,111

尙參考ノ爲メ各廳ノ報告ヲ掲ケレハ左ノ如シ

臺北廳報告

木材ハ船腹ノ不足運賃騰貴等ニヨリ移入材ノ相場日ニ騰貴シ島内阿里山材ノ如キモ需要頻繁トナリ常ニ供給上荷薄ノ傾向アリテ途ニ値上ノ決行ヲ見タリ之等ノ商況ニ付テハ概シテ取引澁リ騰貴ノ姿ニアリシモ島内財界ノ順調ニ依リ相應ノ景氣ヲ保チ販賣高ノ如キ亦異動ヲ認メス

宜蘭廳報告

比年建築工事ノ興ルニ連レ取引増加ノ傾向アリ本年ハ移出額一萬二千圓移入六萬圓ヲ算ス其ノ移出額ハ前年ノ半ニ滿タサレトモ移入ハ二萬圓ノ増加ヲ見タリ

臺中廳報告

木材ハ遠州紀州及對岸福州並ニ嘉義ヨリ移入スルモノ多シ家屋ノ建築等ニ依リ需要増加スルト雖モ價額騰貴シタルヲ以テ幾分需要者ノ手控ヘチナシタル觀アリ

臺南廳報告

木材類ハ本島阿里山材、内地和歌山産ノモノ賣行最モ良好ニシテ支那福州材ハ多少ノ賣行アリシモ同材ハ年次遞減ノ傾キアリ阿里山材ハ年末ニ至リ多少騰貴セルモ内地材ハ二月頃ヨリ漸騰シテ秋季ニ至リ二割方ノ値上ヲ見タリ福州材モ又二、三月頃ヨリ漸次騰貴シテ十一月、二月ニハ三割方騰貴セリ